ベーシックレベル　漢文

はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。そんな人でも大丈夫！

この講座は基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人、大歓迎！です。

漢文って確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。ですが、漢文は入試科目の中で、おそらく**一番少ない知識で高得点が取れる科目**です！ただし、古文文法の知識がないと少しやっかいなので（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したから）、まずは古文文法を仕上げてくださいネ。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけやる」という意味ではありません。基本から説明をして、入試問題を解くために必要な力もつくように構成してあります。

『スタンダードレベル漢文講座』との大きな違いは、

●各チャプター時間が短時間〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように〕。

●用例ごとの例文が豊富〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず〕。

●句法の学習の後には、教科書でも扱うような有名な文章にも取り組む〔学校の予復習に最適〕。

●大事なことは繰り返し説明〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる〕。

●丁寧にじっくり解説〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「じっくり何度も確実に！」**の姿勢で〕。

「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？

でも、「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」

そんな悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実です。

――なぜでしょう？

実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。

一番基本となる**「文構造」**や**「『置き字』の知っておくべき知識」**を理解できていないと、漢文は正しく読めません。

これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。

なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。

本講座では、最初に基本知識をきっちり学んだ上で、入試に必要な「重要句法」に取り組みます。

漢詩を扱った後は、文章を読む練習をし、最後に実際の過去問を使用した実践演習にチャレンジ！

基本からしっかり理解して、実践演習で問題が解けるように、最後まで一緒に頑張りましょう！

予復習・授業の受け方について

ベーシックレベル　漢文

「実践演習」までは予習不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。

「実践演習」は予習が必要です。
よって、**動画を見る前に先に問題を解いてください**。
予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ましょう。
自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることをオススメします。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄に自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚えこむまで何度も復習してください。
復習が終われば、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。
確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

ベーシックレベル　漢文

第1講　基礎知識・書き下し文　p. 6
第2講　返り点　p. 14
第3講　基本構造　p. 26
第4講　置き字・返読文字・也の読み方　p. 42
第5講　再読文字　p. 58
第6講　使役形　p. 72
第7講　否定形（単純否定・不可能・二重否定）　p. 88
第8講　否定形（全部否定・部分否定）　p. 102
第9講　否定形（その他の否定）　p. 110
第10講　受身形　p. 122
第11講　疑問・反語⑴　p. 132
第12講　疑問・反語⑵　p. 146
第13講　疑問・反語⑶　p. 160

第1講　基礎知識・書き下し文

PART1　基礎知識（白文・訓点）

一　基礎知識

●白文…漢字だけの文

兵少食尽。

有献不死之薬於荊王者。

況賢於隗者、豈遠千里哉。

●送り仮名…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

兵少ナク食尽ク。

有リ献ズル不死之(の)薬ヲ於荊(けい)王ニ者。

況(いは)ンヤ賢ナル於隗(かい)ヨリ者、豈(あ)ニ遠シトセン千里ヲ哉(や)。

●返り点…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有（下）献（二）不死之薬於荊王（一）者（上）。

況賢（二）於隗（一）者、豈遠（二）千里（一）哉。

●訓点…**「送り仮名」**と**「返り点」**のこと。

＊正しくは「句読点」も入りますが、入試においては、まずは「訓点」＝「送り仮名」と「返り点」のことだとおさえておきましょう。

有リ（下）献ズル（二）不死之薬ヲ於荊王ニ（一）者（上）。

第1講　PART1　確認問題

①　白文であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　我読書。　イ　我ハ読ム書ヲ。　ウ　我ハ読ムレ書ヲ。　エ　我は書を読む。

②　白文に送り仮名をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「学而時習之。」

ア　学んで而時に習う之を。
イ　学ンデ而時ニ習ウ之ヲ。
ウ　学んで而時に習ふ之を。
エ　学ンデ而時ニ習フ之ヲ。

③　「返り点」についての説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　漢字の右下につける「日本語の語順で読むため」の記号。
イ　漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。
ウ　一つの文の終わりにつける記号。
エ　文の区切りにつける記号。

④　返り点をつけた文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　我行二東方一。
イ　我行㆓東方㆒。
ウ　我行㆓東方。㆒
エ　我行㆓東㆒方。

⑤　次の文の空欄A～Cに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

漢文を日本語として読むために漢字につけられた［A］と［B］を合わせて「訓点」という。［A］は漢字の右下にカタカナで書かれるものであり、漢字の横に平仮名で書かれる［C］とは区別する必要がある。

ア　A　送り仮名　　B　振り仮名　　C　返り点
イ　A　送り仮名　　B　返り点　　C　振り仮名
ウ　A　返り点　　B　送り仮名　　C　振り仮名
エ　A　返り点　　B　振り仮名　　C　送り仮名

PART2　書き下し文

●書き下し文…漢字・仮名まじりの日本文に書き改めたもの。

兵少なく食尽く。

不死の薬を荊王に献ずる者有り。

注　荊…楚（国名）の異名。

況んや隗より賢なる者、豈に千里を遠しとせんや。

注　況んや…まして。
隗…人名。賢者。
豈に～や…どうして～か、いや、～ない。

二 書き下し文

＊平仮名は、日本の古典文法に従い歴史的仮名遣いで書く。

① 返り点（三参照）に従って順番に読む。
② **置き字**（第三講で実施）は**書かない**。
③ 漢字は漢字のままだが、**助詞・助動詞として読む漢字は平仮名**にする。
④ 漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。
⑤ **再読文字**（第四講で実施）は**最初の読みは漢字**で、**二度目の読みは平仮名**で書く。

（例）

有（リ）下献（ズル）二不死**之**（の）薬（ヲ）於荊（けい）王（ニ）一者上。
← 不死**の**薬を荊王に献ずる者有り。

況（いはンヤ）賢（ナル）二於隗（かいヨリ）一者、豈（あニ）遠（シトセン）二千里（ヲ）一**哉**（や）。
← 況んや隗より賢なる者、豈に千里を遠しとせん**や**。

第1講 PART2 確認問題

①「書き下し文」にするときのルールとして正しくないものを、次の中から選べ。

ア　平仮名は、日本の古典文法に従い、歴史的仮名遣いで書く。
イ　返り点に従って順番に読む。
ウ　置き字は書かない。
エ　漢字の右下の送り仮名をカタカナで書く。
オ　助詞・助動詞として読む漢字は平仮名で書く。

②「城春ニシテ草木深シ。」を書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　城春ニシテ草木深シ。
イ　城は春にして草や木も深し。
ウ　城春にして草木深し。
エ　城春にして草木深い。

③「花ハ咲キ、蝶ハ舞フ。」を書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　花ハ咲キ、蝶ハ舞フ。
イ　花は咲き、蝶は舞ふ。
ウ　花わ咲き、蝶わ舞う。
エ　花は咲き、蝶は舞う。

④ 「四十ニシテ而不レ惑ハ。」を書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「而」は置き字である。）

ア　四十ニシテ惑ワズ。
イ　四十にして惑は不。
ウ　四十にして惑はず。
エ　四十にして而惑はず。

⑤ 「学ンデ而不レバ思ハ則(すなは)チ罔(くら)シ。」を書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「而」は置き字である。）

ア　学ンデ思ハザレバ則チ罔シ。
イ　学んで而思はざれば則ち罔し。
ウ　学んで思は不れば則ち罔し。
エ　学んで思はざれば則ち罔し。

PART1　レ点／一・二点／上・中・下点

三　返り点

（＊三の例文中も二の例文同様、**助詞・助動詞の漢字**は**太字**、置き字には影をつけています）

① レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②
レ①

（例）

酤（う）レ酒（ルヲ）。　〔酒を酤る。〕

空山（くうざん）**不**（ず）レ見レ人（ヲ）。　〔空山人を見**ず**。〕

注　空山…人気のないひっそりした山。

食（ラフ）レ之（これヲ）。　〔　　　　〕

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一 ／ ④レ③二①②一 ／ ⑤三①④二②③一

（例）

絶(エテ)不(ず)二飲食(セシメ)一。〔絶えて飲食せしめず。〕

我与(ためニ)レ汝(なんぢノ)結(バン)二今身(こんしんノ)縁(ヲ)一。〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

項王乃(すなはチ)欲(ス)三東(ひがしノカタ)渡(ラント)二烏江(うかう)(ヲ)一。〔項王乃ち東のかた烏江を渡らんと欲す。〕

注　烏江…長江の渡し場。

移(シテ)レ舟(ヲ)泊(ス)二煙渚(えんしょ)(ニ)一。〔　　　　〕

注　煙渚…夕もやにつつまれた岸辺。

③　上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例）

有リ下献ズル二不死之(の)薬ヲ於荊王ニ一者上。〔不死の薬を荊王に献ずる者有り。〕

僕時ニ雖(いへども)下稍(やや)知リ二愛敬(あいけい)スルヲ一、不(ざ)ルト中従ヒテレ衆ニ非笑セ上、…

〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せざると雖も、…〕

不(ず)レ聞カ下人ノ従(よ)リ二日辺(ひへん)一来タルヲ上、…

〔　　　　　　　　　　〕

〈Memo〉

第２講　PART１　確認問題

① 〇の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「〇〇レ〇〇レ〇〇レ〇」

ア　①②レ③⑤レ④⑥レ⑦

イ　①③レ②④レ⑤⑦レ⑥

ウ　②①レ③④レ⑤⑦レ⑥

エ　①③レ②⑤レ④⑦レ⑥

② 数字の順番に読めるように返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「④①②③⑤⑧⑥⑦⑨」

ア　④二①②③一⑤⑧二⑥⑦一⑨

イ　④レ①二②③一⑤⑧レ⑥⑦⑨

ウ　④二①②一③⑤二⑧⑥一⑦⑨

エ　④①レ②レ③⑤⑧二⑥⑦⑨一

③　○の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「○下○二○○一○○中○○○上」

ア　③下⑥二④⑤一⑦②中⑧⑨①上　　イ　⑨下③二①②一④⑧中⑤⑥⑦上

ウ　⑥下③二①②一⑦⑤中⑧⑨④上　　エ　⑤下②二⑥①一⑦④中⑧⑨③上

④　「不患人之不己知。」を、「人の己(おのれ)を知らざるを患(うれ)へず。」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不レ患二人之一不二己知一。　　イ　不三患二人之一不二己知一。

ウ　不レ患三人之不二己知一。　　エ　不三患人之二不己レ知一。

⑤　「客有能為狗盗者。」を、「客(かく)に能(よ)く狗盗(くたう)を為(な)す者有り。」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　客有上能為一狗盗二者下。　　イ　客有二能為狗レ盗者一。

ウ　客レ有下能二為狗盗一者上。　　エ　客有下能為二狗盗一者上。

PART2　甲・乙点／組合せ／ハイフン

④　甲・乙点＝上・中・下点をはさんで上に返る。（甲乙丙丁…）

⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑨丙①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲

○レ○乙○下○二○○一○上○甲。

＊上中下点を使うべき場合も、四ヶ所以上返り点をつけなければならないときは「甲乙丙丁」を使用する。

⑨丁①⑧丙②⑦乙⑤二③④一⑥甲

⑤　組み合わせ点＝一レ、上レ、甲レのみ。　＊一・上・甲のすぐ上にレ点をつけることはできない。

①⑤二②④一レ③　／　⑥下③二①②一⑤上レ④　／　⑧乙⑤下③二①②一④上⑦甲レ⑥

（例）

明（ラカニスル）二人之（の）欺（クヲ）一レ王（ヲ）也（なり）。　〔人の王を欺くを明らかにするなり。〕

土佐（ハ）無（シ）二物（トシテ）不（ざル）一レ有（ラ）。　〔　　　　〕

⑥　二字の熟語へ返る＝－（ハイフン）でつなげる。

③㆓-④①②㆒　／　⑤㆔③㆓-④①②㆒

（例）

往㆓-来ス**於**市井(しせい)ノ間(かん)㆒ニ。〔市井の間に往来す。〕

師㆓-事ス之(これ)ニ㆒。〔　　　　　　〕

問一　次の○の中に、返り点にしたがって、読む順番を数字で書け。

○二‐○○一○○レ○。

問二　次の数字の順番に読めるように返り点をつけよ。

⑦⑥①②⑤③④。

問三　次の文は「単于之を降さんと欲す」と読む。この読み方に従って、返り点をつけよ。

単于欲降之。

〈Memo〉

第2講　PART2　確認問題

① 数字の順番に読めるように返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「①⑧⑥④②③⑤⑦⑨」

ア ①⑧下⑥乙④二②③一⑤甲⑦上⑨
イ ①⑧乙⑥二④下②③上⑤一⑦甲⑨
ウ ①⑧二⑥下④乙②③甲⑤一⑦上⑨
エ ①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲⑨

② ○の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「○下○○二○○○一○○上○」

ア ⑨下①⑤二②③④一⑥⑧上⑦
イ ⑨下①⑦二②③⑥一④⑧上⑤
ウ ③下⑥⑤二⑦⑧④一⑨②上①
エ ⑧下①⑤二②③④一⑥⑦上⑨

③　○の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「○下○二○○○一○○上」

ア　⑦下③二④①②一⑤⑥上

イ　⑦下⑤二①②④一③⑥上

ウ　⑥下③二④①②一⑦⑤上

エ　⑦下④二①②③一⑤⑥上

④　「七十而従心所欲」を、「七十にして心の欲する所に従ひて」と読むには、どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「而」は置き字である。）

ア　七十二而従心レ所欲

イ　七十而従心レ所レ欲

ウ　七十而従二心所レ欲

エ　七十而従二心所レ欲一

⑤　「吾日三二省吾身一。」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　吾日に省く吾が身を三つ。

イ　吾日に吾が身を三省す。

ウ　吾の日は三省の吾が身なり。

エ　吾が日の吾が身を省みる。

第3講　基本構造

PART1　語順

〔例題〕「移㆓榻於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

*榻…長椅子兼用の細長い寝台。

① 戸外より榻を移して寝ねたり。
② 榻を戸外に移して寝ねたり。
③ 戸外に寝ねて榻を移したり。
④ 榻を移して戸外に於いて寝ねたり。
⑤ 榻は戸外にて移して寝ねたり。

一　基本構造（＝「語順」）

① S（主語）＋V（述語）
（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

② S＋V＋O〔目的語＝**～ヲ**〕

③ S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝**～ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C
（＊名[1] 動[4]二 名[2]ヲ 於・于・乎 名[3]ニ一）

⑤ S＋V＋C＋O
（＊名[1] 動[4]二 名[2]ニ 名[3]ヲ一）

⑥ 修飾＋被修飾

＊①・⑥は日本語と語順が同じだが、②～⑤は異なる。そこで漢文を日本語の順番で読むために「返り点」をつける。

★①～⑤において、Sが省略される時もある。**→Vにあたる部分を探す。**

第3講　PART1　確認問題

①　白文の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「我読書。」

ア　私は書物を読む。
イ　私は読み書きをする。
ウ　私の読む物を書く。
エ　私が書いた物を読む。

②　次の中から、正しくないものを一つ選べ。

ア　漢文の語順と日本語の語順は、同じものもあれば異なるものもある。
イ　漢文では、普通「修飾語」は、「被修飾語」の後ろに置く。
ウ　日本語は「ＳＯＶ」の語順だが、漢文は基本的には英語と同じで「ＳＶＯ」の語順である。
エ　置き字「於・于・乎」の後ろは、補語（＝〜ニ・ト・ヨリ（モ）の送り仮名をつける）になることが多い。

③ 文を読み下したとき、傍線部はどのように読むか。最も適当なものを、次の中から選べ。

吏ノ呼一ニ何ノ怒レル

ア　呼びて　　イ　呼ぶ　　ウ　呼ぶこと　　エ　呼ばん

④ 次の傍線部の中で、述語でないものを一つ選べ。

ア　十九世至二寿夢一、始称レ王。
イ　札、賢。
ウ　徐君愛二其宝剣一。
エ　季子、心知レ之。

⑤ 傍線部のはたらきとして最も適当なものを、次の中から選べ。

獣見テレ之ヲ皆走ル。

ア　主語　　イ　述語　　ウ　補語　　エ　目的語

PART2　S+V／S+V+O／S+V+於・于・乎+C

★「語順」の大切さ

愛　我。

我　愛。

① S（主語）+V（述語）（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

（例）

伍員(ごうん)亡(にグ)。（伍員は亡命した。）

汝(ノ)狗(いぬ)猛(たけシ)。（お前の犬は気性が激しい。）

彼良医也(なり)。（彼は腕の良い医者である。）

君怒。（君主　　　　　　）

② S+V+O〔目的語＝～ヲ〕

（例）　昭王招カントス二賢者一。　（昭王がすぐれた人物　招こうとした。）

病児服薬。　（　　　　　　　　）

＊「～ヲ」の送り仮名を振って文意が通じなければ、OではなくC。

③　**S＋V＋於・于・乎＋C**〔補語＝～ニ・ト・ヨリ（モ）〕

（例）　賢ナル二於隗かいヨリ一者、…　（隗**より**すぐれた者が、…）

我請於帝。　（　　　　　　　　）

＊V＝「言う」の意味になる時は、**「S＋V＋C」**となることが多い。

（例）　公語リテレ人曰ク…　（公が人　語って言うことには…）

＊文意上「～**ヲ**」になる時は、Cではなく**O**。**強意**の働き。

（例）　伍員ごうん過よぎル二於荊ヲ一。　（伍員は荊の国を通り過ぎる。）

注　荊…楚（国名）の異名。

第3講　PART2　確認問題

① 傍線部のはたらきの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

季康子（きかうし）ａ問フ二政ヲ於ｂ孔子（こうし）一。

ア　ａ　主語　ｂ　述語
イ　ａ　述語　ｂ　補語
ウ　ａ　述語　ｂ　目的語
エ　ａ　主語　ｂ　補語

② 漢文の語順で「S」と「V」の間に入るものとして、正しくないものを一つ選べ。

ア　語気詞　イ　副詞　ウ　助動詞　エ　再読文字　オ　前置詞を含む句

③ 傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

都二平陽（へいやう）一。

ア　都は　イ　都を　ウ　都す　エ　都の

④　文が「S＋V＋C」の語順であるとき、返り点と送り仮名のつけ方が正しいものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

*孟子（まうし）見梁（りやう）*恵王（けいわう）。

注　孟子…中国戦国時代の思想家。
　　恵王…中国戦国時代の魏（梁）の王。

ア　孟子見ル㆑梁ニ㆓恵王ヲ㆒。　　イ　孟子見ントス㆓梁ノ恵王ヲ㆒。

ウ　孟子見ル㆓梁ヲ恵王ト㆒。　　エ　孟子見ユ㆓梁ノ恵王ニ㆒。

⑤　（　）内の書き下し文を参考にして、語順が同じであるものの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

a　観于華。（華（くわ）に観る。）
b　紂不悛。（紂（ちう）悛（あらた）めず。）
c　封延陵。（延陵（えんりよう）に封（ほう）ぜらる。）
d　視吾舌。（吾が舌を視よ。）

ア　a・b　　イ　a・c　　ウ　a・d
エ　b・c　　オ　b・d　　カ　c・d

PART3　S＋V＋O＋於・于・乎＋C／S＋V＋C＋O／多くの要素を含んだ構造

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C

（＊名 1　動 4 二　名 2 ヲ　於・于・乎　名 3 ニ 一）

（例）加フ二衣於君之上一。（衣装　君主の（体の）上　かけた。）

献不死之薬於荊王。（　　　　　　　　　　）

⑤ S＋V＋C＋O

（＊名 1　動 4 二　名 2 ニ　名 3 ヲ 一）

（例）子路与人一箪（いったん）ノ食（し）。（　　　　　　　　　　）

注　一箪食…竹で作った器に盛った飯。

問一　左記は先程の**〈例題〉**である（選択肢①・③・④はカット）。②・⑤のうち、正解はどちらか。

〈例題〉「移㆓榻於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

②　榻を戸外に移して寝ねたり。

⑤　榻は戸外にて移して寝ねたり。

★多くの要素を含んだ構造

S＋｛副詞／助動詞／再読文字／前置詞を含む句｝＋V＋O＋**於・于・乎**＋C＋語気詞

※前置詞を含む句

以(もつテ)二～ヲ一　／　与(と)二～一　／　為ニ二～一　／　自(よ)リ二～一　など

※語気詞＝文末で強意・疑問・反語・詠嘆・断定などの気分を表す言葉

（例）臣以二忠信一得二罪**於**上一者**也**(なり)。

注　上…上位の人。

書き下し文

〔　　　　　　　　　　　　　　　　〕

訳

（私は忠信でありながら「　　　　　　　　　　」ものである。）

〈Memo〉

第3講　PART3　確認問題

①　文の語順が「S＋V＋O＋於・于・乎＋C」の形であるとき、読み下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

夫差（ふさ）、敗越（えつ）于夫椒（ふせう）。

ア　夫差、越を夫椒に敗る。
イ　夫差、敗れて越に夫椒す。
ウ　夫差、越にて夫椒を敗る。
エ　夫差、越に於いて夫椒を敗る。

②　次の中で、語順が異なるものを一つ選べ。

ア　君子求二諸（これ）己一。　（君子は、すべての責任を自分自身に求める。）
イ　聞二諸（これ）夫子（ふうし）一。　（このようなことを先生より聞いた。）
ウ　季路問レ事二鬼神一。　（季路は、鬼神へのつかえ方をたずねた。）
エ　覆二杯水於坳堂（あうだう）上一、…　（杯いっぱいの水をでこぼこの床の上にひっくり返すと、…）

③　傍線部の品詞の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

*沛公(はいこう)ａ已ニ　ｂ破ル二咸陽(かんやう)ヲ一。

注　沛公…人名。

ア　ａ　名詞　ｂ　前置詞　　イ　ａ　副詞　ｂ　動詞

ウ　ａ　動詞　ｂ　形容詞　　エ　ａ　助動詞　ｂ　形容動詞

④　文の傍線部に返り点と送り仮名をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

有能一日用其力於仁矣乎、…（一日でもその力を十分仁に用いようとすることがあれば、…）

ア　用ヲ其ノ力ス二於仁ニ一、…

イ　用ヒテ二其ノ力ニ於仁ヲ一、…

ウ　用ヒテ二其ノ力ヲ於仁ニ一、…

エ　用フルコト二其ノ力ヲ於仁ニ一、…

⑤　文の語順として最も適当なものを、次の中から選べ。

君子ハ悪ム㆑居ルコトヲ㆓下流ニ㆒。

ア　S＋V「〜は…する」

イ　S＋V＋O「〜は…を…する」

ウ　S＋V＋C「〜は…に（と・より）…する」

エ　S＋V＋O＋C「〜は…に（と・より）…を…する」

オ　S＋V＋C＋O「〜は…を…に（と・より）…する」

〈Memo〉

PART1　置き字

一

置き字…意味はあるがそれ自体は読まない文字。書き下し文では書かない。

① **於・于・乎**＝前置詞の働き。

「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表し、動詞・形容詞の後に置く。

直後の送り仮名は「ニ・ト・ヨリ（モ）・ヲ」。

（例）賢ナル**於**隗（かい）ヨリ者、…

② **而**＝接続の働き。「順接・逆接」を表す。

文中…**読まない。直前に読む字に送り仮名**を送る。

「順接」＝**テ・シテ・ニシテ・デ**

（例）召シテ二蘧伯玉（きょはくぎょく）ヲ一**而**貴ブレ之ヲ。

「逆接」＝**モ・ドモ・ニ**

（例）蘧伯玉賢ナルモ**而**不レ用ヒラレ。

文頭…**読む**（＝置き字ではない）。

「順接」＝しかう**シテ**・しか**シテ**

（例）**而**シテ吾ト与レ子之所ナリ二共ニ適一スル。

「逆接」＝しか**ル二**・しか**ルヲ**・しか**モ**・しか**レドモ**

（例）**而**ルニ聴キテ二細説ヲ一、…

③ **矣・焉**＝**強意**の働き。**文末**にある。語気詞。

（例）我失ヘリ**矣**。

④ **兮**＝**整調**の働き。（**詩の中**でしか使わない）

（例）今遂ニ逝ケリ**兮**。

問一　「語夫人其実焉」の返り点のつけ方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　語㆓夫人其実㆒焉　　夫人と其の実を語る
イ　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや
ウ　語㆓夫人其実㆒焉　　夫人に其の実を語る
エ　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ
オ　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

問二　次の白文に、返り点をつけよ。

吾 已 作 薬 酒 待 之 矣 。

注　薬酒…毒薬を入れた酒。
　　之(これ)…ここでは「夫」のこと。

〈Memo〉

第4講　PART1　確認問題

① 「任重而道遠。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　にんおもくしかうしてみちとほし。
イ　にんおもくしてみちとほし。
ウ　にんおもかれどもみちとほし。
エ　にんおもきよりみちとほし。

② 傍線部ａ・ｂの働きの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「足レ食、足レ兵、民信レ之矣[a]。」
「力抜レ山兮[b]気蓋レ世。」

ア　a　強意　b　順接
イ　a　疑問　b　反語
ウ　a　強意　b　整調
エ　a　反語　b　整調

③　次の傍線部ア～エのうち、置き字ではないものを選べ。

「三人行、必有二我師一焉（ア）。」
「吾十有五而（イ）志二于（ウ）學一。」
「於（エ）二斯二者一、何先。」

④　傍線部「而」が逆接の働きであるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「曲レ肱（ひぢ）而枕レ之。」
イ　「追者果至、而不レ及。」
ウ　「好レ謀而成者也。」
エ　「棄レ甲曳レ兵而走。」

⑤　「君子欲下訥（とつ）二於言一、而敏中於行上。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　君子は言に訥にして、行に敏ならんことを欲す。
イ　君子は言に訥にして、而して行に敏ならんと欲す。
ウ　君子に於いては言を訥にし、行に於いては敏ならんことを欲す。
エ　君子に言は訥とし、行は敏にならんことを欲す。

PART2　返読文字

二　返読文字…語順に関係なく**下から返ってくる**ことが決まっている文字。（左記A・Bなど）

A「助動詞」…助動詞は文末に置く断定「也（なり）」を除いて、用言（主に動詞）の上に置かれ、その用言から返って読む。

① **不・弗＝ず（打消）**　② **使・令・遣・教・俾＝しむ（使役）**
③ 為＝たり（断定）　④ **可＝べシ**（可能・当然）
⑤ **見・被・為・所＝る・らル（受身）**　⑥ **如・若＝ごとシ**（比況）

＊「ム・タリ（完了）・リ」などは漢字がなく、送り仮名として示す。

B「それ以外」

① 有（あリ）　② 無（なシ）　③ 勿・毋・莫（なカレ）
④ 多（おほシ）　⑤ 少（すくなシ）　⑥ 易（やすシ）
⑦ 難（かたシ）　⑧ 毎（ごとニ）　⑨ 所（ところ）
⑩ 為（ノためニ）　⑪ 所以（ゆゑん）　⑫ 不レ能（あたハず）
⑬ 雖（トいへどモ）　⑭ 自・由・従（より）
⑮ 与（と）　⑯ 与（より（ハ））

（例）

宋人有耕田者。
宋（そう）人（ひとニ）

〔宋人に　　　　　　　〕

傍若無人（＝勝手気ままにふるまう様子。）

〔傍らに　　　　　　　〕

多岐亡羊（＝学問の道が多方面になりすぎると、真理を見失うこと。）

〔　　　　　　　　　　〕

問三　次の文は「甸人（でんじん）をして麦を献ぜしむ」と読む。これに従って、返り点と送り仮名を書け。

使 甸 人 献 麦 。

注　甸人…公田の耕作を司る役人。

問四　次の文に訓点（送り仮名と返り点）を施し、記せ。

雪 珠 如 豆 打 茅 茨 。

注　雪珠（せつじゅ）…あられ、みぞれ。
茅茨（ぼうし）…かやぶきの屋根。

〈Memo〉

第4講 PART2 確認問題

① 次の中から、返読文字ではないものを一つ選べ。

ア　有　イ　無　ウ　所　エ　多　オ　者

② 「人方為㆓刀俎(たうそ)㆒、我為㆓魚肉㆒。」の傍線部の読みとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　より　イ　たり　ウ　なる　エ　ごとし　オ　あり

③ 「而して范蠡(はんれい)と兵を治め、呉を謀ることを事とす。」となるように返り点をつけたものとして、最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　而与㆓范蠡㆒治㆑兵、事㆑謀㆑呉。
イ　而与㆓范蠡治㆒㆑兵、事㆑謀㆑呉。
ウ　而与㆘范蠡治㆑兵、事㆖謀㆑呉。
エ　而与范蠡治㆑兵、事㆑謀㆑呉。

④「令将軍与臣有郤(げき)。」の返り点のつけ方と書き下し文の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　令㆓将軍与臣有㆒㆑郤。　　将軍と臣をして郤有ら令む。
イ　令㆓将軍与臣有㆒㆑郤。　　将軍をして与に臣の郤有りたり。
ウ　令㆓将軍与㆑臣有㆒㆑郤。　　将軍をして臣と郤有らしむ。
エ　令㆓将軍与㆑臣有㆒㆑郤。　　将軍をして臣に郤有らしむ。

⑤「使㆓鯀(こん)治㆒㆑之。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　鯀は之を治めようとした。
イ　鯀は之を治めるべきだ。
ウ　鯀に之を治めさせた。
エ　鯀に之を治めよと命じた。

PART3　也の読み方

三 「也」の読み方

文末＝上に**疑問・反語**を表す副詞があるかないかを確認。

① **疑問・反語**～也。＝「**や**」「**か**」と読んで「**疑問・反語**」の意味を表す。

② ~~疑問・反語~~～也。＝「**なり**」と読んで「**断定**」の意味を表す。

文中＝「**や**」と読んで「提示・強調」の意味を表す。

③ ～也、～　（読まないときもある）

④ ～也～　（ほとんど読まない）

問五　次の傍線部ａ・ｂの読みを、それぞれ記せ。

蓋(けだシ)是(こノ)国ａ也、地険(ニシテ)而民多(ク)レ知(ち)、其(ノ)主(ハ)俗主(ぞくしゅ)ｂ也。

ａ＝　　　ｂ＝

問六　「始貨二爾魚一約二三十銭一也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　始め爾(なんぢ)に魚を貨(う)るも三十銭に約せんや。
イ　始め爾の魚を貨るに三十銭を約せんや。
ウ　始め爾に魚を貨るに三十銭を約するなり。
エ　始め爾に魚を貨らしむるに三十銭を約するか。
オ　始め爾の魚を貨らしむるも三十銭に約するなり。

第４講　PART3　確認問題

① 「虎不知獣畏己而走也。」の返り点のつけ方とその読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　虎 不㆑知㆓獣 畏 己 而 走㆒也。　虎獣(とらじう)の畏れて己に走るを知らざるか。
イ　虎 不㆑知㆓獣 畏 己 而 走㆒也。　虎獣を知らざるに己を畏れて走るなり。
ウ　虎 不㆑知㆓獣 畏㆑己 而 走㆒也。　虎獣の己を畏れて走るを知らざるか。
エ　虎 不㆑知㆓獣 畏㆑己 而 走㆒也。　虎獣の己を畏れて走るを知らざるなり。
オ　虎 不㆑知㆓獣 畏㆑己 而 走㆒也。　虎獣の己を畏れて走るを知らざるや。

② 「不㆑知㆑命、無㆔以為㆓君子㆒也。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　使命を自覚しなければ、君子となる資格はないのだろうか、いやあるはずだ。
イ　使命を自覚しなければ、君子となる資格はないのだろうか。
ウ　使命を自覚しなければ、君子となる資格はないのだ。
エ　使命を自覚しなければ、君子となる資格はないだろう。
オ　使命を自覚しなければ、君子となる資格はなかった。

③ 左の文は「故民之従レ之也軽。」の書き下し文である。［　］にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選べ。

「故に民の之に従ふ［　］軽し。」

ア かな　イ や　ウ か　エ なる　オ なり

④ 傍線部a・bの「也」を説明したものの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「胡ハ兄弟之国也(a)。子言フハレ伐テトレ之ヲ何ゾ也(b)ト。」

ア a 断定 b 詠嘆　イ a 推量 b 打消　ウ a 詠嘆 b 疑問

エ a 断定 b 疑問　オ a 使役 b 打消

⑤「且今之黍稷也、非レ有下異二於向之黍稷一者上也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 且(か)つ今の黍稷(しよしよく)や、向(さき)の黍稷に異なる者有るに非ざるなり。

イ 且つ今の黍稷や、向には之(これ)の黍稷に異とする者有るに非ずや。

ウ 且つ今の之黍稷なり、向の黍稷に異なる者有るに非ずや。

エ 且つ今は之が黍稷なり、向の之の黍稷に異なる者有るに非ざるなり。

オ 且つ今は之黍稷ならんや、向は之黍稷なるに異なる者有るに非ずや。

第５講　再読文字

PART１　未・将・且

再読文字…最初は返り点を無視して副詞として読み、二度目は返り点に従って助動詞（動詞）として読む。

（例）未来

① **未＝未（いま）ダ〜ず／（まだ〜ない）**

（例）**未**レ還（かへ）ラ。〔　　　　　〕（まだ戻ってこない。）

前代**未**聞〔前代に　　　　　〕〈＝今までに一度も聞いたことがないこと。〉

② **将・（且）＝将（まさ）・（且（まさ））ニ〜ントす／（〜しようとする・〜しそうだ）**

（例）**将**レ食（セント）。〔　　　　　〕（今にも食べようとする。）

＊「将」が再読文字ではないとき＝「はタ」（あるいは）や「もっテ」などと読む。

且レ飲レ之。（　　　　）（　　　　）

問一 再読文字「且」と同じ読みである再読文字として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 将　イ 当　ウ 応　エ 宜　オ 須　カ 未

問二 「病ミテ且死、…」の傍線部の、A 読み方と B 解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

A　ア まさにしせんとし　イ まさにしすべくして
　　ウ よろしくしすべくして　エ すべからくしすべくして
　　オ なんぞしせんとし

B　ア 少しの間、死んだようになって　イ 死んだ方がましだと思って
　　ウ 今や死にそうになって　エ 必ず殺されると思って
　　オ それでも生きたいと望んで

問三 「甘茂（かんぼう）亡（に）ゲレ秦ヲ、且之斉ニ、…」の傍線部をひらがなのみの書き下し文にせよ。

注　甘茂…秦の宰相。
　　斉（せい）…地名。

第5講　PART1　確認問題

① 「未₍レ₎能（あた）ハ₍レ₎事（つか）フル₍レ₎人（ひと）ニ。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひとにつかふるあたはず。
イ　それひとにつかふるあたはず。
ウ　いまだひとにつかふるあたはず。
エ　まさにひとにつかふるあたはんとす。

② 「唯（た）だ春江の看（み）れども未（いま）だ厭（あ）かざる有り。」と読むには、返り点はどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯　有₍二₎　春　江　看₍一レ₎　未₍レ₎　厭。
イ　唯　有₍二₎　春　江　看　未₍一レ₎　厭。
ウ　唯　有₍三₎　春　江₍二₎　看　未₍一レ₎　厭。
エ　唯　有₍三₎　春　江₍二₎　看　未₍一₎　厭。
オ　唯　有₍三₎　春　江　看₍二₎　未　厭₍一₎。

③「将」は再読文字の一つである。次の中から再読文字でないものを一つ選べ。

ア 応　イ 遂　ウ 宜　エ 須

④「将(二)以(テ)釁(ちぬラント)(レ)鐘(ニ)。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア まさにもつてかねにちぬらんとす。
イ まさにもつてかねにちぬらんとせず。
ウ いまだもつてかねにちぬらんとせず。
エ まさにもつてかねをちぬらんとすべし。

⑤「未(二)嘗(かつテ)有(レ)材。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア まだかつての木が残っている。
イ かつてはここに木が生えていた。
ウ 今まで木がなかったことはない。
エ 今まで一度も木が生えたことはない。

PART2 当・応

③ **当＝当ニ（まさ）〜ベシ／（当然〜すべきだ・しよう）**

（例）

当レ帰（とつガシム）レ汝。〔　　　　　　　　　　〕（当然お前を嫁がせよう。）

不レ**当**レ発二悪願一。〔　　　　　　　　　　〕（当然悪い望みを持つべきではない。）

④ **応＝応ニ（まさ）〜ベシ／（きっと〜だろう・しよう・に違いない）**

（例）

応レ知レ之。〔　　　　　　　　　　〕（きっとこれを知っているに違いない。）

応レ**未**レ眠。〔　　　　　　　　　　〕（きっとまだ眠らずにいるだろう。）

問四　「当如此也。ト」の書き下し文として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　当(まさ)に此(か)くの如(ごと)くなるべきなりと。
イ　当(あ)たるも如(も)しくは此(こ)れにあらんやと。
ウ　当(まさ)に此(こ)れに如(し)くものあらんやと。
エ　如(ゆ)くに当(あ)たりて此(か)くなるべきなりと。

問五　「当二為レ子沽一レ酒。」を書き下し文にせよ。

注　沽…「沽(か)ふ」（＝買う）。

第5講　PART2　確認問題

① 傍線部の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

「生レマバ子ヲ当レ如二※孫仲謀一ガ。」

※孫仲謀（そんちゅうぼう）…孫権（そんけん）。三国時代の呉の初代皇帝。

ア　当に孫仲謀がごときものなり。
イ　当に孫仲謀がごとくなるべし。
ウ　孫仲謀がごとく当たるなり。
エ　当たりて孫仲謀がごとくなるべし。

② 「当二相取一也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あひ取るにあたれるなり。
イ　まさにあひ取るべきなり。
ウ　よろしくあひ取るべきなり。
エ　まさにあひ取らんとするなり。
オ　よろしくあひ取らんとするなり。

③　「応レ知二故郷事一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　応に故郷の事を知るべし。

イ　応ぞ故郷の事を知らざる。

ウ　応しく故郷の事を知るべし。

エ　応だ故郷の事を知らず。

④　「豈(あ)ニ応二ケンヤト復(ま)タ得一。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あにいまだまたえざりけんやと。

イ　あにすべからくまたうべけんやと。

ウ　あによろしくまたうべけんやと。

エ　あにまさにまたうべけんやと。

⑤　「及レンデ時ニ当ニ二シ勉励一ス。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　時期に応じて励むことだろう。

イ　時期に応じて励もうとする。

ウ　時期を逃さず励むべきだ。

エ　時に及んでも励もうとしない。

PART3 宜・須・猶・由・盍

⑤ **宜＝宜（よろ）シク～ベシ／（～するのがよい）**

（例）**宜**レ在二高位一ニ。（　　　　　）（高い位にいるのがよい。）

宜レ従フ二汝（なんぢ）ノ所レ適（ゆ）クニ一矣。（宜しく汝の適く所に従ふべし。）（おまえが行きたいところへ行けばよい。）

＊「宜」が再読文字ではないとき＝**「むベナリ」**の読みが特に重要で**「もっともだ」**の意味。

⑥ **須＝須（すべか）ラク～ベシ／（必ず～する必要がある・しなければならない）**

（例）**須**レ学。（　　　　　）（　　　　　）

問六　次の文を、返り点に従って書き下し文にせよ。

妾ハ宜下シク以レテ身ヲ薦(すす)二メ其ノ棺槨(くわんかく)一ニ、守リ中養フ其ノ幼孤(ようこ)ヲ上。

注　棺槨…ここでは、棺桶に納められた夫のことを指す。
　　幼孤…幼い遺児。

問七　「宜二速ヤカニ改一レ之。」を書き下し文にせよ（なお、送り仮名を省いている部分がある）。

問八　「須」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　〜であろう
イ　〜するだけだ
ウ　〜することが必要だ

⑦ **猶・(由)＝猶（な）・(由)（な）ホ～〔ガ・ノ〕ごとシ／（ちょうど～のようだ・と同じだ）**

連体形＋ガ（…過ぎたるはなほ及ば**ざるがごとし**）

体言ノ（…春の夜の**夢のごとし**）

（例）今之楽、**猶**㆓古之楽㆒。〔今の楽、猶ほ古の楽のごとし。〕
（今の音楽は、ちょうど昔の音楽のようだ。）

＊「猶」が再読文字ではないとき＝「なホ」と読み、「やはり・まだ・いっそう」と訳したり、「抑揚形」の文で使われたりする。

⑧ **盍＝盍（なん）ゾ～ざル／（どうして～しないのか・～すればよいではないか）**

（例）**盍**㆓以㆑テ疾ヲ辞㆒セ。〔盍ぞ疾を以て辞せざる。〕（どうして病気を理由にして辞退しないのか。）

問九　「盍試一思之。」のＡ　訓読とＢ　意味について、正しいものを次の中から一つずつ選べ。

Ａ　訓読

ア　けだし試みに之を一に思ふ。
イ　なんぞ試みに一たび之を思はざる。
ウ　いはんや一たび之を思ふことを試みんや。
エ　まさに一に之を思ふことを試みんとす。
オ　あに一を試みて之を思はんや。

Ｂ　意味

ア　ましてや一度はこのことを考えないことがあろうか。
イ　いったい一つのことを試してこのことを考えようか。
ウ　これからひたすらこのことを考えるのを試みてみよう。
エ　どうしてこのことを一度試みに考えてみないのか。
オ　おそらくもっぱらこのことを考えようと試みるであろう。

第5講　PART3　確認問題

① 傍線部の読みとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「過則宜レ改レ之。」

ア　すべからくこれをあらたむべし。
イ　よろしくこれをあらたむべし。
ウ　まさにこれをあらたむべし。
エ　まさにこれをあらためんとす。

② 傍線部を書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「人生得意須レ尽レ歓。」

ア　須らく歓を尽すべし。
イ　須しく歓を尽すべし。
ウ　須に歓を尽さんとす。
エ　須ぞ歓を尽さざる。

③「猶レ免二於剪伐一。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　きっと切り取られるのを避けるにちがいない。
イ　切り取られることから逃れようとするだろう。
ウ　まだ切り取られずにすんだわけではないのだ。
エ　切り取られずにすんだのと同じようなことだ。

④「盍三各言二爾志一。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まさにおのおのなんぢのこころざしをいはんとす。
イ　なんぞおのおのなんぢのこころざしをいはざる。
ウ　けだしおのおのなんぢのこころざしをいふ。
エ　いまだおのおのなんぢのこころざしをいはず。

⑤「性猶湍水也。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　せいはなほたんすいのごときなり。
イ　せいはまさにたんすいなるべきなり。
ウ　せいはいまだたんすいならざるなり。
エ　せいはすべからくたんすいなるべきなり。

第６講　使役形

PART１　Vさせる・NにVさせる

①　助動詞を使ったもの

i　「Vさせる」

使・**令**・**遣**・教・俾 ㆑V　〈読〉V**しム**

※**V**は**未然形**に活用させる。

（例）

使㆑求。〔　　　　〕（求めさせる。）

遣㆑還。〔　　　　〕（帰還させる。）

令㆓歩行㆒。〔　　　　〕（歩かせる。）

ii 「NにVさせる」

使・**令**・**遣**・教・俾 二 N V 一

〈読〉N**ヲシテ**V**シム**

※N＝使役の対象。助動詞の**直下**の**名詞**（人が多い）。

（例）

遣二武還一。〔武　　還らしむ。〕（蘇武　　帰還させる。）

注　武…蘇武。人名。

使人愁。〔　　　　〕（　　　　）

注　愁…「愁(うれ)ふ」。わびしく思う。

★使役の助動詞があれば、**下**の部分から、まず「　　」を探す！

使役の助動詞の直下の名詞には「　　」の送り仮名を送る！

第6講　PART1　確認問題

① 使役の助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不　　イ　被　　ウ　也　　エ　令

② 「使㆑作。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　作らず。　　イ　作らしむ。　　ウ　作るべし。　　エ　作りたる。

③ 「人をして呼ばしむ。」と読むには、返り点をどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　使㆑人呼。　　イ　使人㆑呼。　　ウ　使㆑人㆑呼。　　エ　使㆓人呼㆒。

④ 「使㆓三子相継立㆒。」は「三人の子に順番に王の位につかせた。」という意味である。読み方として正しいものを、次の中から選べ。

ア　三子をして相継いで立つ。
イ　三子をして相継いで立たしむ。
ウ　三子を使ひて相継いで立つ。
エ　三子を使ひて相継いで立たしむ。

⑤ 「令ム㆓四面ノ騎ヲシテ馳セ下ラ㆒。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四方に面した騎馬兵が駆け下っていった。
イ　四方に面した騎馬兵に向かって駆け下った。
ウ　四方に面した騎馬兵に駆け下らせた。
エ　四方に面した騎馬兵が駆け下るはずだった。

PART2　NにOをVさせる・SはNにVさせる・SはNにOをVさせる

iii 「NにOをVさせる」

俾 教 **遣 令 使**

三 N V二 O一

〈読〉 NヲシテO｛ヲ／ニ｝Vしム

※O＝動作の目的

（例）

使三我長タラ二百獣ニ一。 〔我百獣に長たらしむ。〕

〔私を〔＝に〕あらゆる獣の王にならせた。〕

使三涓人(けんじん)求二千里ノ馬一。

注　涓人…君主の側で雑用をする人。

〔　　　　　　　　　　　　〕

〔雑用係に千里を走ることができる馬を求めさせる〔＝買いに行かせる〕。〕

ⅳ「ＳはＮにＶさせる」

Ｓ［俾・教・遣・令・使］二Ｎ Ｖ一　〈読〉ＳＮヲシテＶしム

※Ｓ＝主語

（例）

定伯令二鬼(き)渡一。

注　定伯…人名。

鬼…死者の霊。幽霊。

〔　　　　　　　　　　　　〕

（定伯は　　　　　　　　（川を）渡らせる。）

v 「SはNにOをVさせる」

S ［使・令・遣・教・俾］^{三} N V^{二} O^{一}

〈読〉 SNヲシテO{ニ／ヲ}Vしム

（例） 項王**使**都尉（とゐ）陳平（ちんぺい）召沛公。

注　項王…項羽のこと。人名。
都尉…軍の部隊長。
陳平…項羽に仕えていた人物（後に沛公に仕える）。
沛公…劉邦のこと。漢の初代皇帝となる。

［　　　　　　　　　　　　　　］

（　　　　　　　　　　　　　　）

〈Memo〉

第6講　PART2　確認問題

① 「使㆓相償㆒㆑之。」は「相にこれを弁償させようとした」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　相をして之を償ふ。
イ　相をして之を償はしむ。
ウ　相を使ひて之を償ふ。
エ　相を使ひて之を償はしむ。

② 「使㆓*当陽君等撃㆒㆑関。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

　*当陽君…当陽という地の領主。

ア　当陽君たちに関所を攻撃させた。
イ　当陽君たちに関所を攻撃された。
ウ　当陽君たちに関所を攻撃されなかった。
エ　当陽君たちに関所を攻撃させられた。

③ 「使*子路問*津焉。」の、a 書き下し文・b 現代語訳の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

　＊子路…人名。　＊津…川の渡し場。

ア　a　子路を使ひて津を問ふ。　b　子路が川の渡し場まで尋ねに行った。
イ　a　子路より津を問はしむ。　b　子路とともに川の渡し場のことを尋ねた。
ウ　a　子路にして津を問はす。　b　子路が川の渡し場について尋ねた。
エ　a　子路をして津を問はしむ。　b　子路に川の渡し場を尋ねさせた。

④ 「王使㆓臣書㆑文」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　王臣をして文を書かしむ。　イ　王臣に文を書かしむ。
ウ　王使ひとして臣に文を書かす。　エ　王臣を使ひ文を書かす。

⑤ 「吾（われ）人をして其の気を望ましむ。」と読むには、返り点をどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　吾令㆓人望㆑其気。　イ　吾令㆔人望㆓其気㆒。
ウ　吾㆓令人㆑望其気。　エ　吾㆔令人㆓望其気㆒。

PART3　Vが2つ以上ある場合・助動詞以外で表す使役形

＊ここまでに見てきたように、ＳＮＶＯは全てがそろっているとは限らないので、まずＳＮＶＯのうちのどれがあるか確認すること（Ｖの部分は絶対に省略されない→**まずＶを探す**）。

〔例題〕 次の「**使**」以外の各漢字の右横に、文の要素（Ｓ、Ｎ、Ｖ、Ｏ）の該当するものを書け。

(1) 王**使**臣書文。

(2) 王**使**臣書。

(3) 王**使**書文。

(4) **使**書。

＊Ｖが二つ以上ある場合、使役がどこまでかかるか文脈判断する必要があるので注意！

（例）王使臣書文読之。

王使二臣書一レ文読レ之。

王使二臣書レ文読一レ之。

②　使役を暗示する動詞を使ったもの

命ジテ
令シテ
召シテ
勧メテ
教ヘテ
遣ハシテ
説キテ
} 〜V(シム)

禁ジテ
戒メテ
} 〜不(レ)V(ラシム)

（例）遣(ハシ)(二)蘇武(ヲ)(一)使(つかヒセシム)(二)匈奴(きょうどニ)(一)。〔蘇武を遣はし、匈奴に使ひせしむ。〕
（蘇武を匈奴へ使者として遣わせた。）

注　匈奴…中国北方の騎馬民族。
使…動詞「使ひす」。「使者とする」という意味。

③　本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「シム」がついているときは注意。

問一　「王大イニ怒リ、使人殺中射之士。」の傍線部を書き下せ。

注　中射之士（ちゅうしゃのし）…宮中宿衛に当たる武官の侍従。

問二　「使公以馬殺人」をすべてひらがなで書き下しなさい（現代仮名遣いでよい）。

注　公…斉の君主、景公（けいこう）。

問三　次の文を「相（しやう）をしてこれを聘（へい）せしむ」と読めるように、返り点をつけよ（送り仮名は不要）。

使　相　聘　焉　。

問四　「令メヨ三君ノ婦ヲシテ為ニレ我ガ織ラ二縑（きぬ）百疋ヲ一。」を現代語訳せよ。

注　縑…絹の布。
疋（ひき）…織物を数える単位。

〈Memo〉

第６講　PART3　確認問題

① 「使三*公子馮出居二於鄭一。」は「公子馮(こうしひょう)を宋(そう)から出国させて鄭(てい)の国に住まわせた。」という意味である。読み方として正しいものを、次の中から選べ。

*公子馮…宋国の君主の子。

ア　公子馮を使はして出でて鄭に居るべし。
イ　公子馮を使はして出でて鄭に居らしむ。
ウ　公子馮をして出でしめて鄭に居るべし。
エ　公子馮をして出でて鄭に居らしむ。

② 「遣レ将守レ関。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　武将を派遣して関所を守らせた。
イ　武将が関所を守る人を派遣した。
ウ　武将を派遣したが関所は守れなかった。
エ　武将を派遣するために関所を守った。

③ 「*大叔命二*西鄙・北鄙一、*弐二於己一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

*大叔(たいしゅく)…人名。　*西鄙(せいひ)・北鄙(ほくひ)…西境と北境の地の人々。

*弐…ここでは、君主とは別の人物にも仕えることを表す動詞「弐す」。

ア　大叔は西鄙・北鄙の命により、己に弐す。
イ　大叔西鄙・北鄙に命じて、己に弐せしむ。
ウ　西鄙・北鄙大叔の命により、己に弐せしむ。
エ　西鄙・北鄙に命じて、大叔は己に弐す。

④ 「説*夫差赦越」は「夫差（ふさ）を説得して越（えつ）の王を許させた。」という意味である。書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

*夫差…人名

ア　夫差に越を赦（ゆる）すを説かしむ。
イ　夫差越を赦すを説く。
ウ　夫差に説きて越を赦さしむ。
エ　夫差を説きて越は赦す。

⑤ 「*燕資（シ）レ*之（ニ）以（テ）至（ラシム）レ*趙（ニ）。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

*燕…ここでは燕（えん）国の文侯（ぶんこう）という人物を指す。　*之…ここでは蘇秦（そしん）という人物を指す。　*趙…国名。

ア　燕の文侯は蘇秦に資金を与えて趙に行かせた。
イ　燕の文侯は蘇秦に資金を用意させて趙へ行った。
ウ　燕の文侯は蘇秦とともに趙へ向かった。
エ　燕の文侯は蘇秦に会うために趙からやって来た。

第７講　否定形（単純否定・不可能・二重否定）

PART１　単純否定

★否定＝返読文字⬇「　　　」

一　単純否定

① **不・弗＝ず／（〜　ない）**

「　　」の否定。→直下はＶ。（＊ＡやＮを否定することもある）

（例）

不聴。〔聴かず。〕（聴かない。）

不死。〔死せず。〕（死なない。）

不知。〔　　　　　〕（知らない。）

不取也。〔　　　　　　　〕（取らないのである。）

＊**不**二シテ期年一ナラ、…〔期年ならずして、…〕（まる一年経たないうちに…）

② **無・莫・毋・勿＝なシ**／（〜　ない）

【存在・所有】の否定。↓直下はN。

Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

＊「命令（禁止）文」のとき↓「**なカレ**」と読む。

（「**勿**」は**禁止**を表すことが多い。）

（例）

無情。〔情け無し。〕（思いやりがない。）

無（クシテ）レ罪…〔罪無くして…〕（罪は無くて…）

無人処（ところニ）…〔　　　　〕（人がいない所に…）

＊**勿**忘。〔忘るる勿かれ。〕（忘れるな。）

勿謂。〔謂ふこと勿かれ。〕（　　　　）

③ **非・匪＝（〜ニ）あらズ／（〜　ない）**

【状態・内容】の否定。**↓**直下はN。
Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

（例）
子**非**魚。（子は　　　　）（あなたは　　　　）
人**非**聖人。（　　　　）（　　　　）

問一「弗」と同じ意味の語を次の中から選べ。
ア　豈　　イ　不　　ウ　使　　エ　将　　オ　可

問二「自疑非夢。」の正しい訓読を次の中から選べ。
ア　自ら夢を疑ひて非ずとす。
イ　自ら夢に非ざるかと疑ふ。
ウ　自ら夢を疑ふを非る。
エ　自ら疑ふを非りて夢みる。

〈Memo〉

第7講　PART1　確認問題

①「毋」と同じ意味の語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　為　　イ　令　　ウ　不　　エ　莫

②「不レ患（うれ）三人之不二己知一。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　他人が自分を認めてくれないことを心配しない。
イ　他人が自分を認めてくれることを求めはしない。
ウ　他人が自分を認めてくれないことを心配するな。
エ　他人が自分を認めてくれることは全くない。

③「非レ人弗レ語。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひとなければかたらざる。
イ　ひとにあらざればかたるなかれ。
ウ　ひとなければかたらず。
エ　ひとにあらざればかたらず。

④　空欄にどの漢字をあてはめれば、「改めるのをためらってはいけない」という解釈になるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

□レ憚ルコトレ改ムルニ。

ア　将　　イ　匪　　ウ　勿　　エ　可

⑤　「己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　己の欲せずる所は、人に施さる。
イ　己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。
ウ　己の欲するなき所は、人に施すにあらず。
エ　己の欲するなき所は、人に施すこと勿し。

PART2　不可能

二 「不可能（＝～できない）」の形

① **不可**V＝V〔終止形〕**ベカラず**（許可）

（例）**不可**出。（　　　）（　　　）

② **不能**V＝V〔連体形〕（コト）**あたハず**（能力）

（例）**不能**隠。（　　　）（　　　）

③ **不得**V＝V〔連体形〕**ヲえず**（機会）

（例）**不得**撃。（　　　）（攻撃する　　　）

※「不得」の下が体言であれば、「体言が手に入らない」という、普通の動詞「得」＝「手に入る」の否定。

（例）不得薬。〔薬を得ず。〕（薬が手に入らない。）

問三　「不得視」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　たちまち消えてしまった。
イ　見ないわけにはいかなかった。
ウ　見ることができなかった。

問四　「不レ能ル レ得ハ 也ル。」を現代語訳せよ。

問五　「不能帰。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問六　「不レ能三与レ君陥二於難一。」を書き下し文にせよ。

第7講　PART2　確認問題

① 「深不可測也。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　推測することは決してない。
イ　推測することは簡単だ。
ウ　推測することができない。
エ　推測しないわけにはいかない。

② 「弗能謂也。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いふあたはざるなり。
イ　いふのうなきなり。
ウ　いふあたふにあらざるなり。
エ　いふのうせずなり。

③ 「眸子(ぼうし)不レ能ハレ掩(おほ)フコト二其ノ悪ヲ一。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひとみはその人の悪を覆い隠すべきではない。
イ　ひとみはその人の悪を覆い隠すことはできない。
ウ　ひとみにその人の悪を覆い隠す能力はない。
エ　ひとみにその人の悪を覆い隠せないことはない。

④ 「有兵、守関。<u>不得入</u>。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　入らないわけにはいかない。
イ　人員が手に入らない。
ウ　入ることができない。
エ　決して入ってはいけない。

⑤ 「不レ可レ奪レ志也。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　こころざしはうばふことかならずや。
イ　こころざしをうばふにあらざるなり。
ウ　こころざしはうばふことあるべきや。
エ　こころざしをうばふべからざるなり。

三 「二重否定」

① **無不～＝～ざル（ハ）なシ**　／（～しないものは**ない**＝必ず～する／皆～する）

② **非不～＝～ざルニあらズ**　／（～**し**ないの**では**ない＝非常に～する）

③ **非無～＝～なキニあらズ**　／（～**が**ないの**では**ない＝～がたくさんある／いる）

④ **無非～＝～ニあらザル（ハ）なシ**　／（～**では**ないものは**ない**＝皆～だ）

（例）

莫不治マラ。　〔　　　　　　〕〔　　　　　　〕

非不悪(にく)マレ寒(かん)ヲ也。　〔寒を悪ま　　　　〕〔寒さを嫌がらない　　　〕

非無其ノ謂(いわれ)。　〔其の謂　　　　〕〔その理由　　　　〕

莫非王土。　〔王土　　　　〕〔王の土地　　　　〕

⑤ **不可不～＝～ざルべカラず**　／（～**しないわけにはいかない**）

（例）　不可不察也。〔察せざるべからざるなり。〕
（察しないわけにはいかないのである。）

問七　「莫二不レ観者一。」を書き下し文にしなさい。

問八　「非下以レ無レ人而不上レ芳。」とはどういう意味か。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見てくれる人がいてはじめて、芳しい花の存在が知られるわけではない。
イ　見てくれる人が現れるかどうかで、花がその香りを変えることはない。
ウ　見てくれる人がいないからといって、芳しい香りを漂わせないわけではない。
エ　人が見てくれることを求めて、芳しい香りを発するわけではない。

問九　「父母之(の)年、不レ可レ不レ知也。」の傍線部を現代語訳せよ。
注　知…記憶する。覚えておく。

第7講　PART3　確認問題

①　「無㆑不㆑知㆑敬㆓其兄㆒也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　其の兄を敬するを知らざるにあらざるなり。
イ　其の兄を敬するを知らざる無きなり。
ウ　其の兄を敬するを知ること無きにあらざるなり。
エ　其の兄を敬するを知るものにあらざるは無きなり。

②　「不為也。非不能也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　できないのだ。それをする能力がないからだ。
イ　しないのだ。できないと思ってはいけない。
ウ　できないのだ。しようとしていないからだ。
エ　しないのだ。できないのではないのだ。

③「雨露之所レ潤、非レ無二萌蘖（ほうげつ）之生一※焉。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

※焉…置き字

ア　芽ばえがたくさん生じる。
イ　芽ばえは決して生じない。
ウ　芽ばえは生じないことが多い。
エ　芽ばえがほんのわずか生じる。

④「莫匪爾（なんぢ）※極。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

※極…徳

ア　なんぢがきょくなきことあるか。
イ　なんぢがきょくにあらざるなし。
ウ　なんぢがきょくなきにあらず。
エ　なんぢがきょくにあることなかれ。

⑤「語らないわけにはいかない」という解釈になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　無不可語。　イ　非不可語。　ウ　不可不語。　エ　無非可語。

第8講　否定形（全部否定・部分否定）

PART1　部分否定の読みが「〜ハ」となるもの

一　「全部否定」と「**部分否定**」（右が全部・**左が部分**）

① 常不〜＝つねニ〜ず／（いつも〜ない）
不常〜＝つねニ**ハ**〜ず／（いつも〜とは限らない）

（例）
常不二先ニ食一ラハ。（　　　　）（　　　　）
家貧ひんニシテ不二常得一レ油。（家貧にして　　　　）（家が貧しくて　　　　）
注　油…灯火の油

② 倶不〜＝ともニ〜ず／（両方とも〜ない）
不倶〜＝ともニ**ハ**〜ず／（両方ともは〜ない）

（例）不じ二倶生一キ。（　　　　）（　　　　）

③
- 盡〔＝尽〕不〜＝ことごとク〜ず／（すべて〜ない）
- **不盡**〔＝**尽**〕〜＝ことごとク**ハ**〜ず／（すべて〜とは限らない）

④
- 甚不〜＝はなはダシク〜ず／（ひどく〜ない）
- **不甚**〜＝はなはダシク**ハ**〜ず／（それほど〜とは限らない）

第8講　PART1　確認問題

① 次の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

両虎共闘、其*勢不㆓倶生㆒。

※勢…成り行き。

ア　片方は死んでしまう
イ　ともに生きのびる
ウ　どちらも生き残ることはできない
エ　仲たがいするだろう

② 部分否定の形をもつものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　常ニ不㆑飲マ㆑酒ヲ。
イ　秋風吹イテ不㆑尽キ。
ウ　仲尼ハ不ル㆑為サ㆓已甚シキコトヲ㆒者ナリ。
エ　不㆓甚ダシクハ富マ㆒。

③　左の文が「すべてが必ずしも新開湖の漁師にかなうとは限らない。」と現代語訳されるとき、傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

未三必能尽附二新開湖漁人一也。

ア　ことごとく　　イ　ことごとくは　　ウ　つく　　エ　つくは

④　左の文を書き下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

両雄不二倶立一。

ア　両雄は倶には立たず。　　イ　両雄は倶して立せず。
ウ　両雄は倶に立たず。　　エ　両雄は倶立せず。

⑤　「無二常職一而賜二於上一者。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　働き先を変えてしまう　　イ　まったく働こうとしない
ウ　安定した職がない　　エ　働いていない

PART2 部分否定の読みが「〜ハ」以外のもの

⑤
必不〜＝かならズ〜ず／（必ず〜ない）
不必〜＝かならズ**シモ**〜ず／（必ず〜とは限らない）

（例）

必不レ果タサ。〔　　　　〕（　　　　）

不二必貴カラ一。〔　　　　〕（　　　　）

未二必佳かナラ一。〔　　　　〕（　　　　）

注　佳…立派（な人物）。

⑥
復不〜＝まタ〜ず／（今回もまた〜ない）
不復〜＝まタ〜ず／（二度とは〜ない）…一度はするが二度としないの意味。

（例）

復不二与ともニ言一。〔　　　　〕（　　　　）

不二復与言一。〔　　　　〕（　　　　）

不㆓復鼓㆒㆑琴。（　　　　　）（　　　　　）

注　鼓…サ変動詞「鼓(こ)す」。「（楽器を）演奏する」という意味。

問一　「若(もシ)使(ムルモ)呪(まじなハ)㆑臣(ヲ)、必(ズ)不(ト)㆑能(ハ)㆑行(フコト)」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし胡僧が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。
イ　もし陛下が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう。
ウ　もし胡僧が私に呪術をかけても、かからないとは限らないでしょう。
エ　もし胡僧が私に呪術をかけても、絶対にかからないでしょう。

問二　「未尽了。」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

注　了…サ変動詞「了(りょう)す」。

問三　「不㆓復聴㆒㆑之」を口語訳せよ。

第８講　PART２　確認問題

①　「不㆓復能㆑察㆓天下之言㆒、…」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ふたたびよくてんかのげんをさつせずして、…

イ　またてんかのげんをさつするあたはずして、…

ウ　てんかのげんをさつすることまたよくせずして、…

エ　またよくせずしててんかのげんをさつし、…

②　「必」の読み下し方が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　我必不㆑仁也。　イ　仁者必有㆑勇。　ウ　勇者不㆓必有㆑仁㆒。　エ　我必不㆑忠。

③　現代語訳を参考にして、返り点と送り仮名を正しくつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

大人者、言不必信、行不必果。

（徳のある人でも、言ったことを必ず実行するとは限らず、行動を最後までやり通すとは限らない。）

ア　大人(ナル)者(ハ)、言(ヒ)㆑不(ルト)㆓必(ズハ)信(ジ)㆒、行(フ)㆑不(ルト)㆓必(ズハ)果(テナラ)㆒。

イ　大人(ナル)者(ハ)、言(フコト)不㆓必(ズ)信(ジ)㆒、行(フコト)不㆓必(ズ)果(ナラ)㆒。

ウ　大人(ナル)者(ハ)、言不㆓必(ズシモ)信(ナラ)㆒、行(ヒ)不㆓必(ズシモ)果(ナラ)㆒。

エ　大人(ナル)者(ハ)、言(ハ)不(ルコト)必(ズ)㆑信(ジ)、行(ハ)不(ルコト)必(ズ)㆑果(ツ)。

④ 次の文の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

勿カレ三復タ入ルコト二偃之門ニ一。

ア　再び偃家の門をくぐるとは限らない。

イ　二度とは偃家の門をくぐらなかった。

ウ　偃家の門をくぐることはなかった。

エ　二度と偃家の門をくぐってはならない。

⑤ 「二度とは使わないことを表した。」という解釈になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　示スレ不ルヲ二復タ用ヒ一。　　イ　不ルヲレ用ヒ復タ示ス。

ウ　復タ示シテ不レ用ヒ。　　エ　復タ不二用ヒテ示サ一。

第9講　否定形（その他の否定）
PART1　未嘗・未嘗不・不敢・不敢不

二 「特殊な否定」①

① **未嘗～＝いまダかつテ～ず／（今まで一度も～ない）**

（例）未㆓嘗夜読㆒。〔未だ嘗て夜に読まず。〕

（　　夜中に（書物を）読んだことが　　　。）

② **未嘗不～＝いまダかつテ～ずンバアラず**
（今まで一度も～しなかったことはない＝いつも必ず～する）

（例）未㆔嘗不㆓束帯㆒。（セ）〔　　　　〕

（　　　　）

問四 「未㆓嘗暫（しばらクモ）去㆒」を書き下し文にせよ（送り仮名の一部を省いている）。

問五 「未ル二嘗ダテ不ンバアラレ悲シマ二石荊州せきけいしゅう之為なリヲレ人ト也。」を現代語訳せよ。

注　石荊州…人名。
為人…人柄。
悲…あわれむ。

③ 不敢～＝あヘテ～ず／（決して～ない）

（例）不二敢知一。〔　　　　　　〕（　　　　　　）

★似ているので要注意！
＊敢不～（乎）＝あヘテ～ざランや
（どうして～ないことがあろうか、いや～する）

（例）　敢不レ知乎。〔敢へて知らざらんや。〕
（どうして知らないことがあろうか、いや、知っている。）

④ 不敢不〜＝あヘテ〜ずンバアラず
（どうしても〜しないわけにはいかない＝必ず〜する）

（例）不敢不尽。〔　　　　　　　　〕

注　尽…「尽す」。（　　　　　　　　）

問六　「無カレ二敢ヘテ食ラフコトレ我ヲ也。」を現代語訳せよ。

問七　「不敢不慎」を書き下し文にして、現代語訳せよ。

注　慎…「慎む」。

〈書き下し文〉

〈現代語訳〉

〈Memo〉

第9講　PART1　確認問題

①　「不ニ敢背一。」の読みと意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　またそむかず。　二度と背いたりはしない。
イ　ともにそむかず。　二度と背いたりはしない。
ウ　たへてそむかず。　決して背いたりはしない。
エ　あへてそむかず。　決して背いたりはしない。

②　「不敢不告也。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして告げないのか、いや、告げるのである。
イ　おもいきって告げないことにするのである。
ウ　どうしても告げないわけにはいかないのである。
エ　どうして告げないのかわからないのか。

③「未二嘗不レ得レ見也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未だ嘗て見ゆるを得ずんばあらざるなり。
イ　未だ嘗て見ゆるを得ればあらざるなり。
ウ　未だ嘗て見ゆるを得あらずなり。
エ　未だ嘗て見ゆるを得ずんばなり。

④「今まで一度も〜ない」の意味を含むものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　己所レ不レ欲、勿レ施二於人一。
イ　其勢不二倶生一。
ウ　不三敢加二兵於趙一者。
エ　未二嘗敗北一。

⑤「不二敢献一。」を「敢不レ献乎。」としたとき、意味はどのようになるか。その説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　強い否定から反語の意味に変わる。
イ　強い否定から疑問の意味に変わる。
ウ　二重否定から反語の意味に変わる。
エ　二重否定から疑問の意味に変わる。

PART2　その他の否定

一　「特殊な否定」②

① A不可勝B ＝ { AあゲテBべカラず ／ ABニたフべカラず } ／ （AはBきれないほど多い）

（例）

星不レ可二勝数一。（　　　　）（星は数えきれないほど多い。）

星不レ可レ勝レ数。（　　　　）（星は数えきれないほど多い。）

問一 「穀不レ可レ勝レ食」を書き下し文にして、現代語訳せよ。

注　穀…穀物。

〈書き下し文〉

〈現代語訳〉

② **無A無B** ⬇ A と B の関係に注目！

【対義語】＝無レA無レB／AトなクBトなク／（AとBの区別なく）

~~【対義語】~~＝無ニA無レB／AトシテBなキハなシ／（AにはすべてBがある）

（例）

無貴(き)無賤(せん)、…（　　　　）（　　　　）

無人無情。（　　　　）（　　　　）

③ **無N不V＝NトシテVざルハなシ／（VしないNはない**＝Nなら必ずVする）

（例）**無人不学。**（　　　　）（　　　　）

問二　「父子君臣夫婦ハ、無国無之。」の傍線部を書き下し文にせよ。

問三　「無山無川、皆…」の傍線部を現代語訳せよ。

問四　「土佐ハ無ニ物不レ有。」を現代語訳せよ。

〈補足〉

★上が仮定条件の場合

無クンバ二〜一
不ンバ二〜一
非ズンバ二〜一ニ
→ 不二〜一。

もし
〜がなければ
〜しなければ
〜でなければ
→ 〜しない。

（例）**不**ンバレ酔ハ**不**レ楽シマ。

〔酔はずんば楽しまず。〕

（もし酔わなければ（心が）楽しくならない。）

無クンバ二〜一
不ンバ二〜一
非ズンバ二〜一ニ
→ 無二〜一。

もし
〜がなければ
〜しなければ
〜でなければ
→ 〜がない。

（例）**非**ズンバレ礼ニ**無**キレ行フコト也。

〔礼に非ずんば行ふこと無きなり。〕

（もし礼でなければ行うことはないのである。）

〈Memo〉

第9講　PART2　確認問題

①「無物不消。」の返り点のつけ方と意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　無㆓物不㆒㆑消。　どんなものでも消滅する。
イ　無㆓物不㆒㆑消。　どんなものも決して消滅しない。
ウ　無㆑物不㆑消。　消滅するものがあるのだろう。
エ　無㆑物不㆑消。　消滅するものが全くない。

②「不(レバ)㆑知(ラ)㆑言(ヲ)、無(キ)㆓以(テ)知(ルコト)㆒㆑人(ヲ)也。」の句法として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　強い否定　　イ　否定の仮定条件　　ウ　部分否定　　エ　全部否定　　オ　否定の確定条件

③　左の文は「不レ憤不レ啓。」の書き下し文である。［　］に入ることばの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「憤せ［a］啓せ［b］。」

ア　a　ざるは　b　ずんば　　イ　a　ざれ　b　ざる

ウ　a　ず　b　ざれ　　エ　a　ずんば　b　ず

④　「無二物不一レ長。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ものとしてちようぜずことなく。

イ　ものとしてちようぜざるはなし。

ウ　ものをちようぜざるはなし。

エ　ものをちようずることなし。

⑤　「材木は使いきれないほど多い」という解釈になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　材木不レ可二勝用一。

イ　材木不レ可レ勝レ用。

ウ　材木不レ可レ勝レ用乎。

エ　材木不二可勝用一乎。

第10講　受身形
PART1　助動詞で表す受身形

二　受身形

① 助動詞を使ったもの

所 為 被 見　レV

〈読〉＝ V（四段・未然形）＋る
　　　　 V（四段以外・未然形）＋らル

〈訳〉＝Vされる

〈例〉

見レ用ヰ。　（　　　　　　　）

見レ疑ハ。　（　　　　　　　）

問五 「弥子瑕（びしか）見愛於衛君。」の傍線部の読みを、送り仮名まで含めてすべて平仮名（現代仮名遣い）で答えよ。

注　弥子瑕…人名。
衛君…衛国の君主。

問六 「吾嘗テ三タビ仕ヘテ、三タビ見レ逐（お）ハ二於君一。」の傍線部を現代語訳せよ。

第10講　PART1　確認問題

①　「見ㇾ召。」の「見」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「使」と同じで、「〜させる」という意味である。
イ　「被」と同じで、「〜される」という意味である。
ウ　「示」と同じで、「しめす」という意味である。
エ　「現」と同じで、「あらわれる」という意味である。

②　「信而見ㇾ疑、…」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　信じられず疑ひて、　イ　信ずるが疑ひて、
ウ　信にして疑はれ、　エ　信にして見えて疑ひ、

③　「弱(キ)者(ハ)被二※俘(ふりゃく)略(セ)一、…」の傍線部の送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　俘略…捕らえ略奪すること。

ア　るは　イ　しめ　ウ　ずして　エ　られ

④ 「忠而被※謗。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　謗…謗(そし)る。

ア　忠にして謗らる。
イ　忠を被りて謗る。
ウ　忠は而して謗る。
エ　忠を被り謗らる。

⑤ 「見レ非(そしラ)二於世一ニ。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　世間の人に欠点を見られる。
イ　世間の人に非難される。
ウ　世間に見られることはない。
エ　世間に知られていないものを見る。

PART2　助動詞以外で表す受身形

② 助動詞を使わないもの

（1）**為**二N**所**一レV

〈読〉＝**NノVスルところトなル**

〈訳〉＝**Nに Vされる**

（例）

為唐廷(とうていノ)文士(ぶんし)**所**推奨。

〔唐廷の文士　推奨　〔　〕〕

（唐廷の文士　推奨　（　））

且(まさニ)レ**為**二沛公**所**一レ虜(とりこトスル)。

〔　〕

（　）

注　虜…捕虜。

(2)

Vニ（ル・ラル） **乎・于・於** **N**

※N＝Vの動作主

〈読〉＝NニV（ル・ラル）

〈訳〉＝NにVされる

(例) 先ンジテ発スレバ制レシ人ヲ、後レテ発スレバ**制ニ於人ニ**。

〔先んじて発すれば人を制し、後れて発すれば　　　　〕

（先に行えば人を支配することができるが、遅れて行えば　　　　）

③ 本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「ル・ラル」がついているときは注意。

問七　「為人所制。」を書き下し文にして、現代語訳せよ。

〈書き下し文〉

〈現代語訳〉

問八　次の傍線部「於」の用法の中で、一つだけ働きが異なるものを選べ。

ア　治㆓於人㆒。

イ　孔子用㆓於楚㆒、…

ウ　霜葉紅㆓於二月花㆒。

エ　獲㆓於上㆒有㆑道。

〈Memo〉

第10講　PART2　確認問題

①「為人所資。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　人の為に所として資する。
イ　人に資する所と為る。
ウ　人の為に所の資するなり。
エ　人の資する所と為る。

②「為楚相所辱。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　楚(そ)の宰相に侮辱された。
イ　楚の宰相のために侮辱に耐えた。
ウ　楚の宰相が侮辱されることになった。
エ　楚の宰相が侮辱を受けた場所である。

③「不レ信二乎朋友一、…」の「乎」と同じ働きを持つ漢字として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 如　イ 而　ウ 于　エ 矣

④「労力者治於人。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 力を労する者を治めて人となす。

イ 力を労する者は人に治めらる。

ウ 力を労する者に於いて人を治める。

エ 力を労する者が人を治す。

⑤「内惑於鄭袖、外欺於張儀。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 内では鄭袖（ていしう）に惑わされ、外では張儀（ちやうぎ）に欺かれた。

イ 内の人は鄭袖を惑わし、外の人は張儀を欺いた。

ウ 内を惑わすのは鄭袖であり、外を欺くのは張儀であった。

エ 内の人は鄭袖に戸惑い、外の人は張儀に欺かれまいとした。

第11講　疑問・反語(1)

PART1　疑問と反語の見分け方

疑問と反語は同じ漢字を用いて表現する。
見分け方は、**送り仮名が「〜ン（や）」**の場合は、**反語**である。
よって、白文では「見た目」の判断ができず、文脈判断が必要である。

「文頭形」

〈Memo〉

第11講　PART1　確認問題

①　傍線部が「疑問」の意味となるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　何ゾ不ざランレ聞カ。

イ　何ヲカ不ざランレ知ラ。

ウ　誰カ謂(い)ハン。

エ　誰カ聞ク。

②　傍線部が「反語」の意味となるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　何為レゾ不ざルレ聞カ。

イ　何為ル者ゾ。

ウ　孰(たれ)カ知ランレ之ヲ。

エ　孰カ不ルレ聞カ。

③ 傍線部が「反語」の意味になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 我何ゾ渡ルヲ為サン。

イ 何ヲカ祈リシ。

ウ 誰カ加ヘシレ衣ヲ者ゾ。

エ 孰カ与ヘシレ之ヲ。

④ 「何為レゾ不ルレ去ラ也ト。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 早く立ち去った方がよい。

イ どうして立ち去らないのか。

ウ 早く立ち去るだろう。

エ 立ち去る必要などない。

⑤ 「何ノ辱メカ之レ有ラン。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 何を恥ずかしいと思ったのか。

イ 恥ずかしくないということなどない。

ウ どんな恥ずかしい目にあったのか。

エ 恥ずかしい思いをすることなどない。

PART2 何・奚・胡・曷・何為

① **何・奚・胡・曷＝** 疑 **なんゾ～連体形。／（どうして～か）**
反 **なんゾ～ン（や）。／（どうして～か、いや、～ない）**

（例）

何ゾ謂フヤレ無シトレ知ルモノ。〔何ぞ知るもの無しと謂ふや。〕
（どうして知る者がいないと言うのか。）

何ゾ患(うれ)ヘン三乎無キヲ二兄弟(けいてい)一也(や)。〔何ぞ兄弟無きを患へんや。〕
（どうして兄弟がいないことを悩むだろうか、いや、悩む必要はない。）

我**何**ゾ渡ルヲ為サン。〔我何ぞ渡るを為さん。〕（　　　　　）

注　為…ここでは「為(な)す」。「する」という意味。

＊左記の二字熟語としてよくでる。

「何不二〜一」＝
- 疑　**なんゾ〜ざル／(どうして〜しないのか)**
- 反　なんゾ〜ざラン(や)／(どうして〜しないのか、いや、する)

(例)　**何不**ル謂。（　　　　　　）（　　　　　　）

何遽（なんゾ）不ランレ為ラレ福ト乎。〔何遽ぞ福と為らざらんや。〕（どうして幸福とならないだろうか、　　　　）

> ※ここからは「疑問」の訳のみ掲載。
> 「反語」ならば、送り仮名が「**〜ン(や)**」で、
> 訳はひっくり返す。

②　**何**＝
- **なにヲカ〜／(何を〜か)**
- いづレノ〜／(どの〜か)
- いづクニ(カ)〜／(どこに〜か)
- いづレ〜／(どちらの〜)

(例)　**何**ヲカ祈リシ。〔何をか祈りし。〕（　　　　　　）

> **★目的語が疑問詞**の場合、**語順が倒置**する。

敵人(てきじん)**何**在ルや乎。〔敵人　　在るや。〕（敵は　　いるのか。）

何ヲカ懼おそレン。〔何をか懼れん。〕（　　）

＊**何日＝いづレノひニカ／（いつ）**

＊**何処＝いづレノところニカ／（どこ）**

③ **何為＝なんすレゾ～／（どうして～か）**

＊何ヲ為なス二～一ト。＝なにヲ～トなス／（何を～と判断するのか）

（例）

何為不レ受ケラン。〔何為れぞ受けざらん。〕（どうして　　）

何為去レル我ヤ。〔　　〕（どうして私を追い出すのか。）

奚為(なんすレゾ)不二自みづかラ織一ラ。〔奚為れぞ自ら織らざる。〕（どうして　　）

＊何為ル者ゾ＝なんするものゾ／（何者か）

（例）　客（かく）**何為者**。〔客何為る者ぞ。〕（お前は何者だ。）

第11講　PART2　確認問題

① 「牛何之。」の書き下し文と現代語訳の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　牛何をか之(ゆ)かん。　牛はどちらへ行ったのか。
イ　牛何くにか之く。　牛はどこへ行くのか。
ウ　牛何れまで之かん。　どの牛が行くのか。
エ　牛何ぞ之かざる。　牛はどうして行ったのか。

② 「奚ゾ不ル㆑曰(い)ハ。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして言わないのか。
イ　どうしても言えない。
ウ　何を言うのだ。
エ　誰が言わなかったのか。

③　「何ヲカ憂(うれ)ヘ何ヲカ懼(おそ)レン。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして心配し恐れないのか。
イ　心配し恐れるものはない。
ウ　何を心配することを恐れるのか。
エ　何を恐れるべきかを心配したほうがよい。

④　「何為痛ムコトレ之ヲ至レル二於此ニ一也。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　なんぞ　　イ　いづれぞ　　ウ　なんすれぞ　　エ　いづくんぞ

⑤　「何為其レ莫(な)カランレ知ルレ子ヲ也(や)。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうして先生を知らないのですか。
イ　みんなは先生のことを知らないでしょうね。
ウ　なぜ先生のことを知っているのですか。
エ　みんな先生のことを知っています。

④ **誰＝**

たれカ〜／（**誰が**〜か）

たれヲ（カ）〜／（**誰を**〜か）

（例）陛下**誰**憚リテ、而久シク不ルレ為サレ此ヲ。〔陛下誰か憚りて、久しく此を為さざる。〕

（陛下は誰に憚って、長い間これを実行しないのか。）

誰喜バンレ聞クヲ。〔誰か聞くを喜ばん。〕

（誰　聞くことを喜ぶ　　）

＊誰カ〜者ゾ＝たれカ〜ものゾ／（**誰が**〜**か**）

（例）**誰カ**加ヘシレ衣ヲ**者ゾ**。〔誰か衣を加へし者ぞ。〕（　　）

注　加…ここでは「かける」の意味。

⑤

孰＝
- 「多数」…**たれカ〜**／**（誰が〜か・どれが〜か）**
- 「二者択一」…**いづレカ〜**／**（どちらが〜か）**　※二者が示される

（例）

孰与ヘシレ之ヲ。〔　　之を与へし。〕（　　これを与えたのか。）

師与トとレ商也**孰**賢まさレル。〔師と商と　　賢れる。〕（師と商とは　　勝っているか。）

注　師…子張（人名）のこと。
　　商…子貢（人名）のこと。

⑥

何以＝なにヲもつテ（カ）〜／
- **（【理由】どうして〜か）**
- **（【手段】何によって〜か）**

（例）

何ヲ以テ遂つひニ得タル二天下ヲ一。〔何を以て遂に天下を得たる。〕（どうやって最終的に　　）

何ヲ以テ異ナランや哉。〔何を以て異ならんや。〕（どうして　　）

第11講　PART3　確認問題

①「孰」についての説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 「誰」と同様に使われ、「だれ」と読む。
イ 多数を対象にする場合にのみ用いられる。
ウ 二者択一を意味する場合と、多数を意味する場合で読み方が変わる。
エ 「たれカ～」や「たれヲ（カ）～」と読み、反語の意を表す場合にのみ用いられる。

②「誰(カ)不(ル)レ知(ラ)者(ゾト)。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 誰か知るべき者はいるか。
イ 誰か知っているに違いない。
ウ 誰も知らない。
エ 誰が知らないのか。

③「弟子孰為(なスカ)レ好(ムト)レ学(ヲ)。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 誰もが学問を好むだろう。
イ 誰が学問を好むか。
ウ どちらが学問を好まないだろう。
エ どちらが学問を好むか。

④「女（なんぢト）与（と）レ回（くわい）也、孰愈（まさレル）。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。（「也」はここでは一字の固有名詞に添える接尾語）

ア　どちらがすぐれているか。　イ　どちらもすぐれている。
ウ　誰がすぐれているか。　エ　誰もすぐれていない。

⑤「何以利二吾国一。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　何ぞ吾が国に利する。　イ　何を以て吾が国を利せん。
ウ　何をか吾が国に利せん。　エ　いかが吾が国に利せんとす。

第12講 疑問・反語⑵

PART1 安・悪・焉

一 「文頭形」

⑦ **安・悪・焉**＝
- **いづクニカ～／（どこに～か）**
- **いづクンゾ～／（どうして～か）**

（例）**安**所(アラン)レ得(ル)レ酒(ヲ)乎(や)。〔酒を得る所あらんや。〕

（どこに酒を手に入れるところがあるだろうか、いや、ない。）

燕雀(えんじやく)**安**知(ラン)二鴻鵠(こうこく)之志(ヲ)一哉(や)。〔燕雀　鴻鵠の志を知らんや。〕

（燕や雀などの小鳥が　鴻鵠〔＝白鳥のような大きな鳥〕の志がわかるだろうか、いや、わからない。）

⇓

【小人物には大人物の心はわからない】

〈Memo〉

第12講　PART1　確認問題

①「君安与二*項伯一有レ故。」は、「君はどうして項伯(こうはく)と縁故があるのか。」という意味である。傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

＊項伯…人名。

ア　やすくして　　イ　やすくんぞ

ウ　いづくんぞ　　エ　いづれか

②「*沛公安(クニカ)在(ル)。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

＊沛公…人名。

ア　沛公(はいこう)はどこにいるのか。

イ　沛公はどこにもいない。

ウ　沛公はどこかにいるはずだ。

エ　沛公はどこにいてもよい。

③「君子ハ去リテレ仁ヲ、悪クニカ乎成サンレ名ヲ。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　君子としての名誉を求めるなら、人を憎んではいけない。
イ　君子としての名誉を求めることは、愚かなふるまいである。
ウ　必ず君子としての名誉を成り立たせなければならない。
エ　どこに君子としての名誉が成り立とうか、いや、成り立たない。

④「焉知二*来者之不一レ如レ今也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

*来者…将来性のある人。

ア　焉くして来者の今に如かざるを知らず。
イ　焉くんぞ来者の今に如かざるを知らんや。
ウ　焉くんや来者の今に如かざるを知るなり。
エ　焉くにか来者の今に如かざるを知る。

⑤「焉クンゾ有リテ二仁人在ルレ位ニ、*罔スルヲレ民ヲ而可ケンレ為ス也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

*罔(あみ)…網。刑罰という網に追い込む。

ア　仁の心を持った人が位に即いていながら、人民を刑罰という網に追い込むようなことはしてはならない。
イ　仁の心を持った人が位に即けば、人民を刑罰という網に追い込むはずである。
ウ　仁の心を持った人が位に即いても、人民を刑罰という網に追い込むようなことはなくならないだろう。
エ　仁の心を持った人が位に即いたので、人民を刑罰という網に追い込むようなことはなくなるかもしれない。

PART2 如何・奈何・若何・何如・何奈・何若

⑧ **如何・奈何・若何～＝いかんゾ～／（どうして～か）**

＊文末にあれば「いかんセン」

（例）**如何**不ラン二涙垂レ一。〔如何ぞ涙垂れざらん。〕
（どうして涙が落ちないだろうか、いや、落ちる。）

二 「文末形」

① **如何・奈何・若何。＝いかん（セン）。／**
疑（～はどうするか）【方法】
反（～はどうするか、いや、どうしようもない）

（例）為スコトレ之ヲ、**奈何**セン。〔之を為すこと、奈何せん。〕（これをするには、どうしようか。）

＊ **如〇何。＝〇ヲいかんセン。／**
疑（〇をどうすればよいか）
反（〇をどうすればよいか、いや、どうしようもない）

（例）　**如**二吾ガ民一**何**。セン　〔吾が民　如何せん。〕（民衆　どうすればよいか。）

虞ヤ兮虞ヤ兮**奈**レ若なんぢ**何**。

注　虞…女性の名前。

〔虞や虞や　　　〕

（虞よ、虞よ、お前をどうすればよいだろうか、いや、どうにもできない。）

② **何如・何奈・何若。＝いかん。／（～はどのようであるか）【状態・結果】**

★疑問のみの用法！

（例）　以レテ五十歩ヲ笑二ハバ百歩ヲ一、則チ**何如**いかん。〔五十歩を以て百歩を笑はば、則ち何如。〕

（自分は五十歩しか逃げていないと言って百歩逃げた人を笑ったとしたら、どうだろうか。）

第12講　PART2　確認問題

①　「若何」についての説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　文頭にある場合は「いかんゾ〜」と読み、「どうして〜か」という意味になる。
イ　文頭にある場合は「いかんセン」と読み、「どうして〜か」という意味になる。
ウ　文末にある場合は「いかんゾ〜」と読み、「どうして〜か」という意味になる。
エ　文末にある場合は「いかんセン」と読み、「どうして〜か」という意味になる。

②　「為スコト㆑之ヲ、奈何。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いかんぞ　　イ　いづくにか　　ウ　いかんせん　　エ　なんぞ

③　「如㆑之何。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　これはいかん　　イ　これにしくはなんぞや
ウ　これをいかんせん　　エ　これのごときはいかん

④「今日之事何如。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　今日の事の次第はどのようであるか。
イ　今日の事の次第はどうしようか、どうしようもない。
ウ　今日の事の次第は誰が知っているのであろうか。
エ　今日の事の次第は誰が知っていようか、誰も知らない。

⑤「奈何ゾ其レ以テ養フレ鳥ヲ也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうしてそれを用いて鳥を飼育するのか。
イ　それを用いて鳥を飼育するにはどれくらいかかるだろうか。
ウ　それを用いて鳥を飼育したらどうだろうか。
エ　どうすればそれを用いて鳥を飼育することができるか。

PART3 何也・助詞（や・か）で表す疑問／反語・幾何

③ ～**何也**。＝～ハなんゾや／（～はどうしてなのか）

★疑問のみの用法！

（例）云フハレ登ルトレ第ニ、**何也**。〔第に登ると云ふは、何ぞや。〕
（試験に合格すると言うのは、　　　）

④ ～**乎・哉・耶・邪・也・与・歟**。＝**や・か**／
疑（～か）
反（～か、いや、～ない）

（例）何ノ故ニ異ナル二昨日之言一ニ**邪**。〔何の故に昨日の言に異なるや。〕
（どうして昨日の言葉と異なるの　　。）

欺カンレ天ヲ**乎**。〔天を欺かんや。〕（天を欺くだろうか、いや、欺かない。）

⑤ **幾何。** ＝**いくばく（ゾ・カ・ナラン）**／{ 疑（どれくらいだろうか）/ 反（どれくらいだろうか、いや、どれほどでもない）}

＊文中の場合も有り。

（例）

（酒を飲んでは大いに歌うべきだ。）

人生ハ**幾何**ゾ。〔人生は幾何ぞ。〕

（人生はどれだけ続くものだろうか、いや、どれほどもない。）

幾何カ離レン。〔幾何か離れん。〕

（どれくらい離れるだろうか、いや、しばらくに過ぎない。）

問一 「奈何」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　なんぞ　　イ　いづれぞ　　ウ　いかんぞ
エ　なんすれぞ　　オ　いづくんぞ

問二 「今日之事、何如。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いかんせん　　イ　なんのごとし　　ウ　いかん
エ　いかんぞ　　オ　なんぞ

問三 「何以知レ之」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　それがわかるはずがあるだろうか
イ　そのことがいつわかったのか
ウ　何としてもそれを知りたいのか
エ　どうしてそれがわかるのか
オ　誰（だれ）がそれを教えてくれたのか

問四　「割（さ）クニ㆑鶏（にわとり）ヲ焉クンゾ用（もち）キン㆓牛刀㆒ヲ」を現代語訳せよ。

注　牛刀…塊の肉を切る大きな包丁のことだが、ここでは「牛に使う大きな包丁」という意。なお、訳では「牛刀」のままでよい。

問五　「城中安得㆑有㆓此獣㆒」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まちに虎がいて安全といえるのだろうか
イ　まちに虎がいるはずがないではないか
ウ　まちに鼠がいるのは当然ではないか

問六　「此所㆑用翠（すい）羽（う）幾何」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　これを作るのに必要な翠羽はとても多い。
イ　これを作るのに必要な翠羽はいくらでもある。
ウ　これを作るにはある程度の翠羽を必要とする。
エ　これに使われた翠羽はたかが知れている。
オ　これに使われた翠羽はどれくらいか分からない。

第12講 PART3 確認問題

① 「～何也。」についての説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 文末に用いて、「～だからである」と訳す。
イ 「疑問」か「反語」は文脈判断をするしかない。
ウ 必ず「反語」になる。
エ 「～なんぞや」と読む。

② 「*寡人之民不ルハ㆑加ヘ㆑多キヲ何ゾ也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

*寡人（かじん）之民…私が治める国の民。

ア 私が治める国の民が増えないのはどうしてか。
イ 私が治める国の民が増えないのはどうしようか、どうしようもない。
ウ 私が治める国の民を増やすにはどうすればよいか。
エ 私が治める国の民はあまり増えないほうがよい。

③ 「是レ*魯ノ*孔丘与。」の書き下し文と現代語訳の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

*魯(ろ)…国名。
*孔丘(こうきゅう)…人名。

ア　是れ魯の孔丘なり。　あれが魯の孔丘である。
イ　是れ魯の孔丘か。　あれが魯の孔丘か。
ウ　是れ魯の孔丘と。　あれが魯の孔丘だということだ。
エ　是れ魯の孔丘や。　あれは魯の孔丘ではない。

④ 「父死シテ不レ葬ラ、爰(ここ)ニ及ブ二干戈一ニ、可ケンレ謂フレ孝ト乎。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　親孝行だと言ってよいだろう。
イ　親孝行だと言わなければならない。
ウ　親孝行だと言う人はどれくらいいるか。
エ　親孝行だと言えるだろうか、いや、言えない。

⑤ 「青軒桃李能幾何。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いかん　　イ　いかんせん　　ウ　いくばくぞ　　エ　いづくんぞ

第13講　疑問・反語(3)

PART1　反語特有の句法

一　「反語」特有の句法

① **豈**〜（**哉・乎**）＝**あニ〜ン（や）**／（**どうして〜だろうか、いや、〜ない**）

（例）
豈ニ古之糸竹ナランや乎。〔豈に古の糸竹ならんや。〕
（どうして昔の楽器であろうか、いや、違う。）

是レ**豈**ニ水之性ナランや哉。〔是れ豈に水の性ならんや。〕
（これが　　　　　　　　　　）

注　性…性質

② **寧**・焉・悪・安 〜（**哉・乎**）＝**いづクンゾ〜ン（や）**／（**どうして〜だろうか、いや、〜ない**）

（例）王侯将相、**寧**有レ種乎。〔王侯将相、　　　　　〕
（天子、諸侯、将軍、宰相は、どうして定まった血統があろうか、いや、ない。）

③
豈能～＝あニよク～ン／（**どうして～できるだろうか、いや、できない**）
安能～＝いづクンゾよク～**ン**／（どうして～できるだろうか、いや、できない）
誰能～＝たれカよク～**ン**／（誰が～できるだろうか、いや、誰もできない）

（例）

豈能ク佩(お)ビ二六国(りつこく)ノ相印ヲ一乎(や)。

注　相印…宰相の印綬(いんじゅ)。「相印を佩びる」は「宰相の印綬を身につける」⬇「宰相になる」こと。

〔豈に能く六国の相印を佩びんや。〕

（どうして六国の　　　　　　　　　　）

安クンゾ**能**ク避ケンヤレ罪ヲ。　〔安くんぞ能く罪を避けんや。〕

（　　　　　　　　　　　　）

孰(たれ)カ**能**ク無カランレ惑ヒ。　〔孰か能く惑ひ無からん。〕

（　　　　　　　　　　　　）

第13講　PART1　確認問題

① 「後人豈ニ応ニ二復タ得一ケンヤ。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　後の人が再び獲得することは難しい。
イ　後の人が再び獲得することはたやすい。
ウ　後の人は再び獲得できるかもしれない。
エ　後の人は再び獲得しようとしていた。

② 「寧クンゾ足レラン師トスルニ乎。」の傍線部「寧」と意味・用法が異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　焉　　イ　孰　　ウ　悪　　エ　安

③ 「豈能独楽哉。」の読み方と解釈の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まさにひとりたのしむことよくせんや。―自分一人楽しむことができるだろうか、いやできるはずがない。
イ　あにひとりたのしむことあたふ。―どうにかして自分一人で楽しめるようにする。
ウ　まさにひとりたのしむことあたふべし。―自分一人で楽しむことができるようにすべきだ。
エ　あによくひとりたのしまんや。―どうして自分一人楽しめるだろうか、いや楽しめない。

④「安クンゾ能ク謀レ趙ヲ乎。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どこで趙を陥れることができるだろうか、いやどこでもできない。
イ　どうして趙を陥れることができるだろうか、いやできない。
ウ　どこで趙を陥れるのがよいだろうか。
エ　どうして趙を陥れることができないだろうか、いやできる。

⑤「孰能※禦(ふせ)之。」を反語の意味になるように書き下し文にするとどのようになるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

注　禦…「禦(ふせ)ぐ」と読む。防ぐの意。

ア　孰か之を禦ぐこと能ふ。
イ　孰か能く之を禦ぐ。
ウ　孰か能く之を禦がん。
エ　孰の能之を禦ぐ。

PART2　敢不〜乎・何N之有・可〜乎

④ **敢不〜乎＝あへテ〜ざランや／（どうして〜しないことがあろうか、いや、〜する）**

（例）　**敢不**知**乎**。〔　　　〕
（　　　）

⑤ **何N之有＝なんノNカこレあラン／（何のNがあろうか、いや、何のNもない）**

（例）　**何**難キコトカ**之有**。〔　　　〕
（　　　）

何罪**之有**。〔　　　〕
（　　　）

⑥ **可～乎＝～ベケンや**／（～できるだろうか、いや、できない）

（例） 何ゾ**可**レケンヤ緩（ゆる）クス。

〔何ぞ緩くすべけんや。〕

（どうして緩めることができようか、いや、できない。）

※
疑問詞～**ン**
～**ンや**
疑問詞～**ンや**
｝＝反語

＊～ン＝推量

問一　「豈古之鶯花(おうか)ナラン乎。」の傍線部の読みを、送り仮名も含めて平仮名で示せ。また全文を口語訳せよ。

読み＝

口語訳＝

問二　「晏子(あんし)焉知礼」を反語の意味になるように、すべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでもよい）。

問三　「汝為レ人、何黄之有」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　汝の人と為り、何れの黄の有るや
イ　汝は人の為に、何ぞ黄の之れ有らん
ウ　汝は人為り、何の黄か之れ有らん
エ　汝は人を為りて、何をか黄の有るや
オ　汝の人を為むるや、何れに黄の之く有るか

問四　「天下之乱寧有レ窮(きはマリ)乎。」の傍線部を現代語訳せよ。

注　窮…終わり。

〈Memo〉

第13講　PART2　確認問題

① 「不㆓敢献㆒。」について、（Ⅰ）その読み方と、（Ⅱ）これを「敢不㆑献。」と変えた場合の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（Ⅰ）あへてけんぜず。　（Ⅱ）あへてけんぜざらんや。
イ　（Ⅰ）あへてけんぜざる。　（Ⅱ）けんじることをあへてせざらんや。
ウ　（Ⅰ）あへてけんぜざらんや。　（Ⅱ）あへてけんぜず。
エ　（Ⅰ）けんじることをあへてせず。　（Ⅱ）あへてけんぜざる。

② 「子帥(ひき)(ヰルニ)以(テセバ)㆑正(シキヲ)、<u>孰(たれ)(カ)敢(ヘテ)不(ラン)㆑正(シカラ)。</u>」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　決して正しくなろうとしないのはどちらだろうか。
イ　誰が正しくならないことがあろうか、いや誰もが正しくなる。
ウ　決して正しくなろうとしないのは誰だろうか。
エ　どちらが正しくないことがあろうか、いやどちらも正しい。

③「何※懼之有。」の読み方と解釈の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

注　懼…おそれ、心配。

ア　なんぞここにあることのおそれある。―どうしてここにいることをおそれるのか。
イ　なんのおそれかこれあらん。―何のおそれがあろうか、いや、何のおそれもない。
ウ　なんぞおそれのあらん。―どうしておそれようか、いやおそれることはない。
エ　なんのおそれかここにある。―何のおそれがここにあるのか。

④「可二以為レ美乎。」を反語の意味になるように書き下し文にするとどのようになるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　以て美と為すべきか。　イ　以て美たること可なるか。
ウ　以て美たるべし。　エ　以て美と為すべけんや。

⑤「可ケンレ謂フレ孝ト乎。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　親孝行と言えないこともない。　イ　親孝行と言うべきだ。
ウ　親孝行と言うことはできない。　エ　親孝行と言えるだろうか。

解答

第2講　PART1　解答

三

① 〔之を食らふ。〕

② 〔舟を移して煙渚に泊す。〕

③ 〔人の日辺より来たるを聞かず、…〕

第2講　PART2　解答

三

④　⑧レ⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲。

⑤　〔土佐は物として有らざる無し。〕

⑥　〔之に師事す。〕

問一　②二-③①一④⑥レ⑤。

問二　⑦レ⑥三①②⑤二③④一。

問三　単于欲レ降レ之。

第３講　PART2　解答

① （君主**が怒る**。）

② （昭王がすぐれた人物**を**招こうとした。）

（病気の子が薬を飲む。）

③ （私は帝にお願いする。）

（公が人**に**語って言うことには…）

第3講　PART3　解答

④（衣装**を**君主の（体の）上**に**かけた。）

（不死の薬を荊王に献上する。）

⑤（子路が人に一箪の食を与える。）

★〔臣忠信を以て罪を上に得る者なり。〕

（私は忠信でありながら**罪を上位の人に得る**〔＝罪を上位の人からうける〕ものである。）

問一　②

第4講　PART1　解答

問一　ウ

問二　吾已作二薬酒一待レ之矣。

第４講　PART2　解答

二

〔宋人に**田を耕す者有り。**〕

〔傍らに**人無きがごとし。**〕

〔岐多くして羊を亡ふ。〕

問三　使ム二甸人ヲシテ献ゼレ麦ヲ。

問四　雪珠如クレ豆ノ打ツ二茅茨ヲ一。

第4講　PART3　解答

問五　a　や　　b　なり

問六　ウ

第５講　PART1　解答

①〔未だ還らず。〕
〔前代に**未だ聞かず**。〕

②〔将に食せんとす。〕
〔且に之を飲まんとす。〕（今にもこれを飲もうとする。）

問一　ア

問二　Ａ　ア　　Ｂ　ウ

問三　まさにせいにゆかんとし、

第５講　ＰＡＲＴ２　解答

③〔当に汝を帰がしむべし。〕
〔当に悪願を発すべからず。〕
④〔応に之を知るべし。〕
〔応に未だ眠らざるべし。〕

問四　ア

問五　当に子の為に酒を沽ふべし。

第５講　PART3　解答

⑤〔宜しく高位に在るべし。〕
⑥〔須らく学ぶべし。〕（学ばなければならない。）
⑦〔今の楽、猶ほ古の楽のごとし。〕

問六　妾は宜しく身を以て其の棺槨に薦め、其の幼孤を守り養ふべし。

問七　宜しく速やかに之を改むべし。

問八　ウ

問九　A　イ　　B　エ

第６講　PART１　解答

① ⅰ
〔求めしむ。〕
〔還らしむ。〕
〔歩行せしむ。〕

ⅱ
〔武**をして**還らしむ。〕（蘇武**に**帰還させる。）
〔人をして愁へしむ。〕（人に愁えさせる。）

第6講　PART2　解答

①　iii　〔我**をして**百獣に長たらしむ。〕

〔涓人をして千里の馬を求めしむ。〕

iv　〔定伯鬼をして渡らしむ。〕（定伯は**幽霊に**（川を）渡らせる。）

v　〔項王都尉陳平をして沛公を召さしむ。〕（項王は軍の部隊長の陳平に沛公を呼ばせる。）

第６講　PART３　解答

〔例題〕

(1)
　S　　N　V　O
王使臣書文。

(2)
　S　　N　V
王使臣書。

(3)
　S　　V　O
王使書文。

(4)
　V
使書。

問一　人をして中射の士を殺さしむ。

問二　こうをしてうまをもってひとをころさしむ

問三　使二相聘一レ焉。

問四　あなたの妻に私のために絹の布を百疋織らせなさい。

第7講　PART1　解答

一

① 〔知らず。〕
〔取らざるなり。〕

② 〔人無き処に…〕
〔言ってはならない〔＝言うな〕。〕

③ 〔子は**魚に非ず。**〕〔あなたは**魚ではない。**〕
〔人は聖人に非ず。〕〔人は聖人ではない。〕

問一　イ

問二　イ

第７講　PART２　解答

二
①〔出づべからず。〕（出ることができない。）
②〔隠す（こと）能はず。〕（隠すことができない。）
※〔隠るる（こと）能はず。〕（隠れることができない。）でも可。
③〔撃つを得ず。〕（攻撃する**ことができない**。）

問三　ウ

問四　得ることができないのである。

問五　かえ〔へ〕る（こと）あたわ〔は〕ず。

問六　君と難に陥る（こと）能はず。

第7講　PART3　解答

三　①～④〔治まらざる（は）莫し。〕（治まらないものはない。）
〔寒を悪まざるに非ざるなり。〕（寒さを嫌がらないのではない（のである）。）
〔其の謂無きに非ず。〕（その理由がないのではない。）
〔王土に非ざる（は）莫し。〕（王の土地ではないものはない。）

問七　観ざる者莫し。

問八　ウ

問九　知らない〔＝記憶しない・覚えておかない〕わけにはいかないのである。

第８講　PART１　解答

一

①〔常に先に食らはず。〕（いつも先に食べない。）

〔家貧にして**常には油を得ず。**〕（家が貧しくて**いつも灯火の油があるとは限らない。**）

②〔倶には生きじ。〕（両方ともは生きてはいないだろう。）

第８講　PART2　解答

一

⑤〔必ず果たさず。〕（必ず果たさない。）

〔必ずしも貴からず。〕（必ず（しも）貴いとは限らない。）

〔未だ必ずしも佳ならず。〕（まだ必ず（しも）立派な人物とは限らない。）

⑥〔復た与に言はず。〕（今回もまた一緒に話さない。）

〔復た与に言はず。〕（二度とは一緒に話さない。）

〔復た琴を鼓せず。〕（二度とは琴を演奏しない。）

問一　エ

問二　いまだことごとくはりょうせず。

問三　二度とはこれを聴かない

第9講　PART1　解答

二

① （**今まで一度も**夜中に（書物を）読んだことが**ない**。）

② 〔未だ嘗て束帯せずんばあらず。〕（今まで一度も正装しなかったことはない。）

③ 〔敢へて知らず。〕（決して知らない。）

④ 〔敢へて尽さずんばあらず。〕（どうしても尽くさないわけにはいかない。）

問四　未だ嘗て暫くも去らず

問五　今まで一度も石荊州の人柄をあわれまなかったことはないのである。

問六　決して私を食べてはいけない。

問七　**〈書き下し文〉**　敢へて慎まずんばあらず

〈現代語訳〉　どうしても慎まないわけにはいかない

第９講　PART２　解答

一

①〔星勝げて数ふべからず。〕
〔星数ふるに勝ふべからず。〕

②〔貴と無く賤と無く、…〕（身分の高い者と低い者の区別なく、…）
〔人として情け無きは無し。〕（人はみんな思いやりがある。）

③〔人として学ばざるは無し。〕（学ばない人はいない。）

問一　**〈書き下し文〉**　穀食ふに勝ふべからず
〈現代語訳〉　穀物は食べきれないほど多い

問二　国として之無きは無し。

問三　山と川の区別なく

問四　土佐には（どんなものでも）無い物はない。（＝土佐にはなんでもある。）

第10講　PART1　解答

二

①〔用ゐらる。〕
〔疑はる。〕

問五　あいせらる

問六　君主に追放された。

第10講　PART2　解答

二　②

(1)〔唐廷の文士**の推奨する所と為る**。〕（唐廷の文士**に推奨される**。）
〔且に沛公の虜とする所と為らんとす。〕（そのうち沛公に捕虜にされてしまうだろう。）

(2)〔先んじて発すれば人を制し、後れて発すれば**人に制せらる**。〕
（先に行えば人を支配することができるが、遅れて行えば**人に支配される**。）

問七　**〈書き下し文〉**　人の制する所と為る。
〈現代語訳〉　人に支配される。

問八　ウ

第11講　PART2　解答

① （私はどうして渡ることをしようか、いや、渡らない。）
〔何ぞ謂はざる。〕（どうして言わないのか。）
（どうして幸福とならないだろうか、**いや、なる**。）

② （何を祈ったのか。）
〔敵人**何くに**在るや。〕（敵は**どこに**いるのか。）
（何を恐れるだろうか、いや、恐れない。）

③ （どうして**受けないだろうか、いや、受ける**。）
〔何為れぞ我を去るや。〕
（どうして**自分で織らないのか**。）

第11講　PART3　解答

④〔陛下誰**を**憚りて、久しく此を為さざる。〕（陛下は誰**を**憚って、長い間これを実行しないのか。）

〔誰**か**聞くを喜ばん。〕（誰**が**聞くことを喜ぶ**だろうか、いや、喜ばない。**）

（誰が衣をかけたのか。）

⑤〔**孰か**之を与へし。〕（**誰が**これを与えたのか。）

〔師と商と**孰れか**賢れる。〕（師と商とは**どちらが**勝っているか。）

⑥（どうやって最終的に**天下を得たのか。**）

（どうして**異なるだろうか、いや、異ならない。**）

第12講　PART1　解答

一

⑦〔**安くにか**酒を得る所あらんや。〕

〔燕雀**安くんぞ**鴻鵠の志を知らんや。〕（燕や雀などの小鳥が**どうして**鴻鵠の志がわかるだろうか、〜）

第12講　PART2　解答

二

①〔吾が民を如何せん。〕〔民衆をどうすればよいか。〕

〔虞や虞や若を奈何せん。〕

第12講　PART3　解答

二　③（試験に合格すると言うのは、**どうしてなのか。**）
④（どうして昨日の言葉と異なるの**か。**）

問一　ウ
問二　ウ
問三　エ
問四　鶏を割くのにどうして牛刀を用いるだろうか、いや、用いない。
問五　イ
問六　エ

第13講　PART1　解答

一

① （これが**どうして水の性質だろうか、いや、違う。**）

② 〔王侯将相、**寧くんぞ種有らんや。**〕

③ （どうして六国の**宰相になることができるだろうか、いや、できない。**）

（どうして罪を避けることができるだろうか、いや、できない。）

（誰が迷うことがないようにできるだろうか、いや、誰もできない。）

第13講　PART2　解答

一
④〔敢へて知らざらんや。〕（どうして知らないことがあろうか、いや、知っている。）
⑤〔何の難きことか之れ有らん。〕（何の難しいことがあろうか、いや、何も難しくない。）
〔何の罪か之れ有らん。〕（何の罪があろうか、いや、何の罪もない。）

問一　〈読み〉　あに
〈口語訳〉　どうして昔の鶯や花であろうか、いや、違う。

問二　あんしいず〔づ〕くんぞれいをしらん

問三　ウ

問四　どうして終わりがあろうか、いや、ない。

確認問題　解答

第1講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「白文」とは、漢字だけの文を指す。よって、アが正解。

②漢文を読む際には、漢字の右下にカタカナで送り仮名をつける。その際、日本の古典文法に従って歴史的仮名遣いで書くという点に注意する。

③「返り点」とは、「日本語の語順で読むため」の記号であり、漢字の左下につける。よって、イが正解。

④返り点は、漢字の左下につける。よって、ウが正解。

⑤「訓点」とは、「送り仮名」と「返り点」のこと。送り仮名は漢字の右下にカタカナでつける。漢字の横の平仮名は振り仮名。よって、イが正解。

〔解答〕

①ア　②エ　③イ　④ウ　⑤イ

第1講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「書き下し文」のルールは、①返り点に従って順番に読む。②置き字は書かない。③助詞・助動詞として読む漢字は平仮名で書く。④漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。⑤再読文字は最初の読みを漢字で、二度目の読みを平仮名で書く。という五つに加え、基本として平仮名は歴史的仮名遣いで書く、というものである。

② 訓読文（訓点のついた状態の文）に返り点がついていないので、通常のように上の漢字から下の漢字の順に読んでいく。その際、漢字の右下の送り仮名は平仮名に直して書く。

③ ②と同じく返り点がついていないので、上から下に読んでいけばよい。その際、歴史的仮名遣いで書かれた送り仮名はそのまま平仮名にあてはめて書く。ただし、助詞の「は」は「わ」には直さず、そのまま書くことに注意する。

④ 第4講で改めて学習するが、「而」は置き字であるため、書き下し文に直す際には書かない文字となる。また、「不」は助動詞として使用されている文字であるため、平仮名に直して書く。「ず・ざ（る）」などのように使われる。

⑤ 「不」は助動詞として使用されており、活用によって「ず」以外にも「ざ＋送り仮名」となるので、注意して平仮名に直す。引用文は「〜れば」と送り仮名があるので已然形で書き下す。

〈解答〉

① エ　② ウ　③ イ　④ ウ　⑤ エ

第2講 PART1 確認問題 解答

〔解説〕

① 「レ点」は、すぐ下の一字からすぐ上の一字に返って読む、という記号である。基本的には上から見ていき、返り点のついていないものから読み、返り点が出てきた時点でその指示に従う。一字目はそのまま、二字目は「レ点」がついているのでその下の三字目から読む、という手順を繰り返していく。

② ①②③は上から順番に読み、③から④へは二字以上返って読むので、③の下と④の下に一・二点をつける。⑤は順番通りに読むので何もつけず、⑥⑦から⑧へは①②③から④へと同様に二字以上返って読むので、⑦の下と⑧の下に一・二点をつける。

③ 「上・中・下点」は、一・二点をはさんで上に返って読む、という記号である。まず一字目は「下」が、二字目は「二」がついているので保留、三字目↓四字目と読み、四字目に「一」がついているので二字目に返って読む。その後、五字目を読み、六字目は「中」がついているので保留、七字目↓八字目↓九字目と読み、九字目に「上」がついているので、六字目（中）、一字目（下）と順に返って読む。

④ 「之」は助詞「の」、「不」は助動詞「ざ（る）」・「ず」として、書き下し文では平仮名で書かれている点に注意する。最初の二字は書き下し文から考えると最後に読むので保留にし、まずは「人之」を読む。「不己知」の部分は「己を知らざる」と二字以上返って読むので「不二己知一」となる。更に、保留にしていた「不患」に返って「患へず」と読むために、「患」に三点、「不」にレ点がつく。

⑤「客」ははじめに読むので返り点はつかない。「有」は最後に読むので上点はつかない。次に、「能 為 狗 盗」の部分は書き下し文では「能→狗→盗→為」という語順なので、「盗」から一字はさんで「為」に返って読むため「一・二点」を使用する。この部分を読んだ後、一番下にある「者」を読み、そこから一・二点を使用した部分をはさむ形で最後まで保留にしていた「有」に返って読むので、「上・下点」を使用する。

〔解答〕

①エ　②ア　③イ　④ウ　⑤エ

第２講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 一・二点をはさんで上に返る場合は上・中・下点を、上・中・下点をはさんで上に返る場合は「甲・乙点」を使う。まずは二字以上返る④②③の③と④に一・二点をつけ、④②③をはさんで返る⑤と⑥に上・下点をつける。更に、⑥④②③⑤をはさんで返る⑦と⑧に甲・乙点をつける。

② 「組み合わせ点」には「レ・上レ・甲レ」の三種類がある。例えば、「A二 B C レ D 一」となる場合、「B→D→C→A」というように、その記号がついている文字を読む前に、すぐ下の文字を読んでから上に返って読む、というルールとなる。まず記号のないものから二字目→四字目→五字目→六字目（「一」）→三字目（「二」）と返って読む。更に七字目を読み、八字目に「上レ」がついているので、その下の九字目→八字目と返って読み、最後に「下」のつく一字目に返る。

③ 「ハイフン（－）」は、二字の熟語へ返る、という記号である。例えば、「A二-B C D一」となる場合、「A二-B」で一つのかたまりと考え、「C→D→A→B」というように読む。三字目はなにもついていないが、上の文字と「－」でつながっているため上の文字とセットで読むので保留、四字目→五字目（「一」）と読み、「二」のついている二字目、「－」でつながった三字目、と読んでいく。後は、なにもついていない六字目→七字目（「上」）→一字目（「下」）と返る。

④ まず、最初の二字はそのままの語順なので返り点はつけず、三字目の「而」は置き字なので読まない。書き下し文の通り読むと「心→欲→所→従」という語順になるので、それに合った「レ点」、「二点」がついたウを選ぶ。

⑤　最初の二字はなにも記号がついていないのでそのままの語順でまず読み、三字目の「三」とその下の「省」は「二」と「レ」がついているため保留にする。そして、五字目（「吾」）→六字目（「身」）と読み、「身」に「一」がついているためそこから「二」のついた三字目、そしてその文字と「レ」でつながれた四字目を読む。

〔解答〕

①　エ　②　ア　③　ア　④　ウ　⑤　イ

第3講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「我読書」は「我（主語）＋読（動詞）＋書（目的語）」となり、日本語で表すと「我は書を読む（私は書物を読む）」という意味となる。

②「修飾」・「被修飾」の語順は、漢文でも日本語と同様に「修飾語」は「被修飾語」の前に置かれる。よって、イが正解。

③「怒れる」がこの文の述語（動詞）なので、「呼」は補語。この場合、連体形か連体形＋コト（モノ）の形で読み下す。

④返り点に従って読み下したとき、述語は最後にくる場合が多い。アは最後に読む「称」が述語。

⑤返り点に従い、「獣之を見て皆走る。」と読み下す。「之」に「～ヲ」の送り仮名がついているので、目的語である。

〔解答〕

①　ア　②　イ　③　ウ　④　ア　⑤　エ

第3講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 送り仮名に着目して考える。「政を」とあるので「政」は目的語。「孔子に」とあるので「孔子」は補語、動詞として扱われている「問」は述語。「季康子」は主語、「於」は対象を表す置き字である。

② 「語気詞」は文末に置く。よって、アが正解。

③ 読み下すと「都」が文末にくることから、述語だとわかる。ア・イ・エは「都」を主語・目的語・修飾語として読んでいるので誤り。主語が省略されているが、S＋V＋Cの形である。

④ 「恵王」を補語として送り仮名をつけているのはウ・エ。この語順に目的語は含まれていないことから、「梁」に「〜を」と送り仮名をつけて目的語として読んでいるウは不適切。よって、エが正解。「孟子梁の恵王に見ゆ。」と読み下す。

⑤ ａは「観」が述語、「華」が補語、「于」は置き字。したがってＶ＋于＋Ｃの語順。ｂは「紂」は主語、「不悛」が述語。したがってＳ＋Ｖの語順。ｃは「封」が述語、「延陵」が補語。したがってＶ＋Ｃの語順。ｄは「視」が述語、「吾」は修飾語、「舌」は目的語。したがって、Ｖ＋修飾語＋Ｏの語順。よって、述語と補語の関係を中心として組み立てているａとｃが同じ語順である。

〔解答〕

①　イ　②　ア　③　ウ　④　エ　⑤　イ

第3講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 目的語は「〜を」、補語は「〜に・と・より」を補って読み下す。この文の述語は「敗」、目的語は「越（えつ）」、補語は「夫椒（ふせう）」、「于」は置き字である。

② 現代語訳から、目的語が「鬼神へのつかえ方」となっているウのみ他と異なる語順（S＋V＋O）である。イ・エは主語が省略され述語から始まっているが、S＋V＋O＋Cの語順である。

③ 返り点に従って読むと、「沛公（はいこう）」が主語（名詞）、「破」が述語（動詞）、「咸陽（かんやう）」が目的語であることがわかる。「已に」は「に」と送り仮名がついているが、述語の上に置かれていることからも、補語ではなく「すでに」と読む副詞である。

④ 現代語訳を参照すると、「仁」が補語、「其力」が目的語であるとわかる。また、全体の述語（動詞）は「有」であり、「用」は動詞としては用いられていないことから、連体形に活用したり、連体形に「〜こと・もの」を補って体言として読み下したりしているものを選べばよい。よって、エが正解。

⑤ 読み下すと、「〜は…に…を…する」という形をとっていることがわかる。しかし、漢文において補語は、述語と強く結びつくものである。この文の場合「下流」は「居下流（下流にいること）」というまとまりで考えるため、補語ではない。よって、イが正解。

〔解答〕

①ア　②ウ　③イ　④エ　⑤イ

第4講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「而」は置き字。ここでは「～して」と順接の意味を表す。

② a「矣」は断定・強意の働きがある置き字。b「兮」は詩の中でしか用いられない置き字で、語調を整える働きがある。

③ 置き字は、文中または文末に置かれる。よって、文頭にあるエの「於」は置き字ではなく、「おイテ」と読む。

④ いずれも置き字。ア「肱(ひぢ)を曲げて」、ウ「謀を好みて」、エ「兵を曳きて」と直前の読む漢字に「テ」の送り仮名がつき、順接の働きをする。イは「至るも」と送り仮名を送り、「至ったが」という意味の逆接の働きをしている。よって、イが正解。

⑤ 問題文の「於・而・於」は置き字なので読まない。よって、イ・ウは不適。「於」は直後の送り仮名（「言に」・「行に」）に、「而」は直前に読む字に送り仮名（「訥にして」）を送る。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ エ　④ イ　⑤ ア

第４講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「有」「無」「所」「多」は返読文字である。「者」は返読文字ではない。よって、オが正解。

② 助動詞として用いられている「為」は「たリ」と読む返読文字で「～である（断定）」の意を表す。

③ 「与」は「と・より」と読む返読文字で並列（「～と」「いっしょに」）の意味を持つので、「范蠡（はんれい）」の後に読むように返り点がつく。よって、アが正解。

④ 返読文字にはかならず返り点がつく。「令」は「しム」と読む返読文字で使役を表す。また「与」も返読文字で並列（「～と」「いっしょに」）の意味を持つ助詞。どちらも付属語であるので、平仮名で書き下す。よってウが正解。

⑤ 「繇をして之を治めしむ。」と書き下す。「使」は「しム」と読む返読文字で使役（「～させる」）の意味を持つ助動詞。

〈解答〉

① オ　② イ　③ ア　④ ウ　⑤ ウ

第４講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 文末にある「也」は上に疑問・反語の副詞があるかないかを確認する。ここでは疑問・反語の副詞がないので「なり」と読む。よって、ア・ウ・オは不適。イは「なり」と読んでいるが、返り点の語順で書き下しができていない。よって、エが正解。

② 文末にある「也」は上に疑問・反語の副詞があるかないかを確認する。ここでは疑問・反語の副詞がないので「なり」と読み、「断定」の意味を表す。よって、ウが正解。

③ 文中にある「也」は「や」と読んで、「提示・強調」の意味を表す。よって、イが正解。

④ 文末にある「也」は上に疑問・反語の副詞があるかないかを確認する。ａは疑問・反語の副詞がないので「なり」と読み、「断定」の意味を表す。ｂは疑問を表す副詞「何」があるので「や」と読み、疑問の意味を表す。この「何…也」は疑問形である。よって、エが正解。

⑤ 文中の「也」は「や」と読むので、ウとエは不適。文末の「也」は、上に疑問・反語の副詞がないので、この場合は「なり」である。よって、アが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ア

第5講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① 「未」は再読文字で「いまダ〜ず」と読む。よって、ウが正解。

② 再読文字の「未」に気をつけること。「未だ厭かざる」と読むことから、「未」の一字下の「厭」から再度戻っているので、「未」の下に「レ点」をつける。さらにそこから「有」に戻るには、二字以上戻るため、「未」は「レ」となり、「有」には「二点」をつける。よって、イが正解。

③ アは「まさニ〜べシ」、ウは「よろシク〜べシ」、エは「すべかラク〜べシ」と読む再読文字。よって、イが正解。

④ 再読文字の「将」は「まさニ〜ントす」と読む。よって、アが正解。

⑤ 再読文字の「未」は「いまダ〜ず」と読み、「まだ〜ない」という意味になる。「嘗」は打ち消しの表現とともに使って「一度も〜ない」という否定の意味を表す。よって、エが正解。

〈解答〉

① ウ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ エ

第5講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「当」は再読文字で「まさニ〜ベシ」と読む。「当レ如」とレ点があるので「当（まさ）に〜ごとくなるべし」となる。よって、イが正解。

② 「どうしても〜（し）なければならない」（＝当然〜すべきだ）という意味から、「当」は再読文字として「まさニ〜ベシ」と読むことがわかる。よって、イが正解。

③ 「応」は再読文字で、書き下し文にするときには「応（まさ）に〜べし」とする。よって、アが正解。

④ 再読文字の「応」は「まさニ〜ベシ」と読むので、「応復得」は「まさにまたうべけんやと」となる。よって、エが正解。

⑤ 再読文字の「当」は「当然〜すべきだ」という意味。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　イ　②　イ　③　ア　④　エ　⑤　ウ

第5講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

①「宜」は再読文字で、「よろシク～ベシ」と読む。よって、イが正解。

②「須」は再読文字で、書き下し文にするときには「須らく～べし」とする。よって、アが正解。

③再読文字「猶」は、「ちょうど～と同じだ」の意味。よって、エが正解。

④再読文字の「盍」は「なんゾ～ザル」と読む。よって、イが正解。

⑤再読文字「猶」は「猶ホ～（ガ・ノ）ごとシ」と読む。よって、アが正解。

〔解答〕

①イ　②ア　③エ　④イ　⑤ア

第6講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① いずれも助動詞としての働きはあるが、使役の用法はエのみ。よって、エが正解。

② 「使」は使役の助動詞として用いる場合は「しム」と読む。よって、イが正解。

③ 「NヲシテVしム」という使役の句形。まず、使役の助動詞「使」の直下にある使役の対象Nを「ヲシテ」という送り仮名を補って読む（「人をして」）。次に「〜させる」内容である動詞を未然形で読み（「呼ば」）、最後に助動詞「使」を「しむ」と読む。この順で読めるのはエ。よって、エが正解。

④ 「〜させた」という意味から、「使」は使役の助動詞「しム」と読むことがわかる。下の部分から動詞を探すと「立」がある（ここでは「相継」が上についている）。「使」の直下にある「三子」が使役の対象で「をして」の送り仮名を送る。よって、イが正解。

⑤ 「令」に「ム」と送り仮名があり、その直下の「四面騎」にも「ヲシテ」と送り仮名があることから、「NヲシテVしム」（＝NにVさせる）という使役の句形であることがわかる。使役で訳しているものはウ。よって、ウが正解。

〔解答〕

① エ　② イ　③ エ　④ イ　⑤ ウ

第6講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「〜させようとした」という意味から、「使」は使役の助動詞で「しム」と読むことがわかる。「使」の下から動詞を探すと「償」がある。「使」の直下にある「相」が使役の対象で、「をして」と送り仮名を送る。よって、イが正解。

② 使役の助動詞「使」より下に動詞「撃」があり、「使」の直下には使役の対象である人「当陽君」がある。さらに、「撃」の下には動作の目的「関」があるので、「NにOをVさせる」という意味になる使役の句形。よって、アが正解。

③ 使役の助動詞「使」より下に動詞「問」があり、「使」の直下には使役の対象である人「子路」がある。さらに、「問」の下には動作の目的「津」があるので、「NヲシテOヲVしム」という形で「NにOをVさせる」という意味になる使役の句形。よって、エが正解。

④ 返り点に従って読めているものはアかイ。よって、「使」は使役の助動詞「しム」。「使」の下から動詞を探すと「書」がある。「使」と「書」の間にある「臣」が使役の対象、動詞の下の「文」が目的語、「使」の上が主語となる。使役の対象の「臣」には「をして」と送り仮名を送る。よって、アが正解。

⑤ 主語である「吾」ははじめに読む。使役の助動詞「令」は最後に「しム」と読むので飛ばし、使役の対象「人」に送り仮名「ヲシテ」をつけて読む。次に、動作の目的「其の気を」、動詞「望ま」の順に下から返って読み、最後に「令」を読む。この順で読めるものはイ。よって、イが正解。

〔解答〕

①　イ

②　ア

③　エ

④　ア

⑤　イ

第６講　PART３　確認問題　解答

〔解説〕

① 「～させて」とあるので「使」は使役の助動詞「しム」。動詞は「出」と「居」の二つで、「使」はこの両方にかかる。使役の対象は「公子馮」、動作の目的は「鄭」。これらを使役の句形に当てはめて読めばよい。よって、エが正解。

② 使役を暗示する動詞「遣」を用いた使役の句形。「遣」は「つかハシテ」と読み、「派遣する」の意。動詞「守」は送り仮名に「シム」を補って読み、「守らせる」の意となる。よって、アが正解。

③ 使役を暗示する動詞「命」を用いた使役の句形。「命」は「めいジテ」と読む。動詞「弐」は送り仮名に「シム」を補って「弐せしむ」と読む。よって、イが正解。

④ 使役を暗示する動詞「説」を用いた使役の句形。「説」は「とキテ」と読み、「説得して」の意味。動詞「赦」は送り仮名に「シム」を補って「赦さしむ」と読み、「許させる」の意味となる。よって、ウが正解。

⑤ 使役を表す助動詞や動詞がなくても、送り仮名に「シム」がついていれば使役の用法となる場合がある。「至」＝「行く」に「シム」がついているので「行かせる」という訳になる。よって、アが正解。

〔解答〕

① エ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ ア

第7講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「毋」は「なシ」と読み、「〜ない」という意味を表す。同じ意味の語は、「無・莫・勿」。よって、エが正解。

② 返り点に従って読むと、「人の己を知らざるを患へず。」となる。「人の己を知らざる（＝他人が自分のことを知らない）」ことを「患へず（＝心配しない）」という文脈。よって、アが正解。

③ 「非」は「（〜ニ）あらズ」と読むので、「非レ人」は「ひとにあらず」。「弗」は「ず」と読むので、「弗レ語」は「かたらず」。「人ではないので語らない」という意味。よって、エが正解。

④ 禁止（〜するな・〜してはいけない）を表す語は「無・莫・毋・勿」で、「なカレ」と読む。よって、ウが正解。

⑤ 否定を表す「不」は「ず」（ここでは「ざル」）と読む。「勿」は「なシ」、または禁止文で「なカレ」と読む。よって、イが正解。

〔解答〕

① エ　② ア　③ エ　④ ウ　⑤ イ

第7講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「不可～」は「～ベカラず」と読み、「～できない」という意味。よって、ウが正解。

② 「弗（＝不）能～」は「～（コト）あたハず」と読む。断定「也」が続くので、「ず」は「ざル」となる。よって、アが正解。

③ 「不能～」は「～（コト）あたハず」と読み、「～できない」という意味。よって、イが正解。

④ 「不得～」は「～ヲえず」と読み、「～できない」という意味。「不得」の下が体言であれば、「～が手に入らない」という意味である。ここでは「入る」という動詞なので、「入ることができない」となる。よって、ウが正解。

⑤ 「不可～」は「～ベカラず」と読む。よって、エが正解。

〈解答〉

① ウ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ エ

第７講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

①「無不〜」は「〜ざル（ハ）なシ」と読む二重否定の句形。よって、イが正解。

②「不為也」は「為さざるなり」と書き下し、「しないのだ」と訳す。「非不〜」は「〜しないのではない」という意味の二重否定の句形。動詞「能」は「あたフ」と読み、「できる」という意味。よって、エが正解。

③「非無〜」は「〜がないのではない＝〜がたくさんある」という意味の二重否定の句形。よって、アが正解。

④「莫匪〜」は「無非〜」と同じく、「〜ニあらザル（ハ）なシ」と読む二重否定の句形。よって、イが正解。

⑤「〜しないわけにはいかない」という意味の二重否定の句形は「不可不〜。」。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　イ　　②　エ　　③　ア　　④　イ　　⑤　ウ

第8講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「不倶～」は「ともニハ～ず」と読む部分否定の句形。ここでは「両方ともは生きない」という意味なので、片方は死んでしまうということ。よって、アが正解。

② それぞれ読み下すと、アは「常に酒を飲まず。」（全部否定）。イは「秋風吹いて尽きず。」（単純否定）。ウは「仲尼は已甚しきことを為さざる者なり。」（単純否定）。エが「甚だしくは富まず。」で「はなはダシクハ～ず」という部分否定の形をとっている。よって、エが正解。

③ 「すべて～とは限らない」という部分否定の訳が含まれているので、「未～尽」を部分否定ととらえて「ことごとくは」と読み下す。全体では「未だ必ずしも能く尽くは新開湖の漁人に附せざるなり。」となる。よって、イが正解。

④ 「不倶～」は部分否定で「倶には～ず」と読み下す。よって、アが正解。

⑤ 否定を表す「無」の下に「常」があることから、「無常職」は部分否定だと判断できる。「いつも職があるとは限らない」という意味のものを選ぶ。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ イ　④ ア　⑤ ウ

第８講　PART２　確認問題　解答

〔解説〕

① 「復」は「まタ」と読み、「ふたたび」の意味。イかエに絞る。返り点通りに読むと、次に読むのは「天下〜」となる。よって、イが正解。

② アは全部否定「必不〜」の形で「かならズ」、イは副詞で「かならズ」、ウは部分否定の「不必〜」の形で「かならズシモ」、エは全部否定「必不〜」の形で「かならズ」。よって、ウが正解。

③ 「必ず〜とは限らない」とあるので、部分否定「不必〜（＝かならズシモ〜ず）」となるように返り点と送り仮名を付す。「大人なる者は、言必ずしも信ならず、行ひ必ずしも果ならず。」と読む。よって、ウが正解。

④ 「勿」は禁止を表す否定。部分否定「勿復〜」の形をとっているので、「二度と〜してはならない」と訳すのが妥当。よって、エが正解。

⑤ 「二度とは〜ない」とあることから、一度は使ったが二度目はないという意味。したがって、部分否定「不復〜」の形になっているものを選ぶ。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ ウ　④ エ　⑤ ア

第９講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

① 「不敢～」は「あヘテ～ず」と読み、「決して～ない」の意。よって、エが正解。

② 「不敢不～」は「どうしても～しないわけにはいかない」の意。よって、ウが正解。

③ 「未嘗不～」は「いまダかつテ～ずンバアラず」と読み、「今まで一度も～しなかったことはない（＝いつも必ず～する）」の意。よって、アが正解。

④ 「今まで一度も～ない」の意味を表す句形は「未嘗～」。よって、エが正解。エは「未だ嘗て敗北せず。」と書き下し、「今まで一度も敗北したことがない」と訳す。

⑤ 「不敢～」は「決して～ない」という強い否定の意味を表す。「敢不～（乎）」は「どうして～ないことがあろうか、いや～する」という反語の意味を表す。よって、アが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ア　④ エ　⑤ ア

第9講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「無…不～」は「～しない…はない（＝…なら必ず～する）」の意。よってここでは、「消滅しないものはない（＝どんなものでも消滅する）」となる。よって、アが正解。

② 「不レ…無レ～」の形で「もし…しなければ～がない」と上が仮定条件の否定形になる。よって、イが正解。

③ 「不レ…不レ～」は「…（セ）ずンバ～（セ）ず」の否定の仮定形。「もし…しなければ～しない」の意となる。よって、エが正解。

④ 「無二A不一レB」は「AトシテBざルハなシ」と書き下す。よって、イが正解。

⑤ 「A不レ可二勝B一」は「AあゲテBべカラず」と読み、「AはBきれないほど多い」の意。ここでは、「材木勝げて用ふべからず。」と書き下せるものを選ぶ。よって、アが正解。

〔解答〕

①　ア　②　イ　③　エ　④　イ　⑤　ア

第10講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「見レV」の「見」は受身の助動詞で「～される」という意味。よって、イが正解。

② 「見」は下の動詞から返って読む場合は受身の助動詞で、読みは「る・らル」。よって、ウが正解。

③ 「被」は下の動詞から返って読む場合は受身の助動詞「る・らル」。直前が「せ」でa段ではないので「らる」。選択肢は活用しているが、「らる」と読んでいるものはエ「られ」のみ。よって、エが正解。

④ 下に動詞があるので「被」は受身の助動詞。返り点をつけると「被謗」は「被レ謗」となり、訓読では「謗らる」となる。よって、アが正解。

⑤ 下の動詞から返って読むので「見」は受身の助動詞。「見レ非」は「非（そし）らる」と読み、「非難される、そしられる」という意味になる。「於世」の「於」は置き字で読まない。したがって、訓読は「世に非らる。」となり、意味は「世間の人に非難される」となる。よって、イが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ エ　④ ア　⑤ イ

第10講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「為二N所一レV」は「NのVする所と為る」と読み、「NにVされる」という受身の句法。「為人所資。」の読みは、「人の資する所と為る。」となる。よって、エが正解。

② ①と同じく「為二N所一レV」という形の受身の句法が使われている。読みは「楚(そ)の相の辱(はづかし)むる所と為る。」となり、「楚の宰相に侮辱される」という意味になる。よって、アが正解。

③ 「乎」「於」「于」は「V二乎（於・于）N一」という形で受身を表す。よって、ウが正解。

④ 「治於人」は受身形で、返り点をつけると「治二於人一」となり、「人に治めらる」と読む。よって、イが正解。

⑤ 「於」に注意する。「惑於鄭袖」は「鄭袖に惑わされる」、「欺於張儀」は「張儀に欺かれる」という意味。よって、アが正解。

〈解答〉

① エ　② ア　③ ウ　④ イ　⑤ ア

第11講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 疑問と反語は同じ漢字を用いて表現する。見分け方として、送り仮名がついている場合は「〜ン（や）」があれば反語である。「ン」の送り仮名がないエのみが「疑問」の意味となる。よって、エが正解。

② 送り仮名から考えると、「〜知ラン」と「ン」の送り仮名があるウのみが「反語」の意味となる。よって、ウが正解。

③ 送り仮名から考えると、「〜為サン」と「ン」の送り仮名があるアのみが「反語」の意味となる。よって、アが正解。

④ 送り仮名から考えると、「ン」の送り仮名がない文のため、「疑問」の意味となるような訳を選ぶ。「何為(なんす)レゾ〜」で「どうして〜か」という意味となる。よって、イが正解。

⑤ 送り仮名から考えると、「〜有ラント」と「ン」の送り仮名があるため、「反語」の意味となるような訳を選ぶ。直訳としては、「何の恥ずかしい思いをすることがあるであろうか、いや、恥ずかしい思いをすることなどない」となる。よって、エが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ア　④ イ　⑤ エ

第11講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「何」は「なにヲカ〜（何を〜か）」・「いづレノ〜（どの〜か）」・「いづクニ（カ）〜（どこに〜か）」・「いづレ〜（どちらの〜）」と、読み方によって意味も異なる。ここでは「之く」という文脈から「いづクニ（カ）」。よって、イが正解。

② 「ン」の送り仮名がない文のため、「疑問」の意味となるような訳を選ぶ。「奚」は「何」と同様、「なんゾ〜」と読む。書き下し文は「奚ぞ曰はざる」となり、「どうして言わないのか」という意味となる。よって、アが正解。

③ 「懼れン」と送り仮名に「ン」がついているので、「反語」の意味となる文であることがわかる。「なにヲカ〜」で、「何を〜か、いや、〜ない」となり、「何を心配し何を恐れるというのか、いや、心配し恐れるものはない。」という意味となる。よって、イが正解。

④ 「何為」で「為」に返り点がついていない場合は、「なんすレゾ〜」と読む。書き下し文は「何為れぞ之を痛むこと此に至れるや。」となる。よって、ウが正解。

⑤ 「莫カラン」と送り仮名に「ン」がついているので、「反語」の意味となる文であることがわかる。「なんすレゾ〜ン（や）」で、「どうして〜のか、いや、〜ない」という意味となる。直訳は「どうして子（先生）のことを知る人がいないというのでしょうか、いや、知っています」となるので、「みんなが知っている」という意味となる。よって、エが正解。

〔解答〕

① イ

② ア

③ イ

④ ウ

⑤ エ

第11講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「孰」は多数の人物を対象とする場合には、「たれカ〜」と読み（誰が〜か）と訳し、二者択一で比較や選択をする場合には、「いづレカ〜」と読み（どちらが〜か）と訳す。よって、ウが正解。

② 「誰〜者」で「たれカ〜ものゾ」と読み、「誰が〜か」という意味となる。書き下し文は「誰か知らざる者ぞと。」となり、送り仮名には「ン」がついていないので、ここでは「疑問」の意味となる。よって、エが正解。

③ 「孰」には、①多数を対象とした「たれカ〜（誰が〜か・どれが〜か）」、②二者択一となる「いづレカ〜（どちらが〜か）」の二つの使い方がある。傍線部の直前に「弟子」と多数の対象が示されているので、ここでは①の意味となる。書き下し文は、「孰（たれ）か学を好むと為すか。」となる。よって、イが正解。

④ 傍線部の直前に「女（なんぢト）与レ回（くわい）也」とあり、「女」と「回（也）」の二者を示しているので、ここでは二者択一で使用される「いづレカ〜（どちらが〜か）」の意味となる。書き下し文は、「孰（いづ）れか愈（まさ）れる」となる。よって、アが正解。

⑤ 「何以」で「なにヲもつテ〜」と読み、①「どうして〜か（理由）」、②「何によって〜か（手段）」という意味となる。よって、イが正解。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ イ　④ ア　⑤ イ

第12講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「安」は疑問・反語の句形で用いられるときは「いづクニカ～」と読んで「どこに～か」、「いづクンゾ～」と読んで「どうして～か」という意味になる。よって、ウが正解。

② 「安くにか～」は「どこに～か」という意味。よって、アが正解。

③ 「悪(いづ)くにか～」は疑問・反語の句形で「どこに～か」の意味。「どこに～か。いや、～ない」と反語で訳す。よって、エが正解。

④ 「焉」は文頭に置かれて「いづクンゾ～」と読み、疑問・反語を表す。よって、イが正解。

⑤ 「焉くんぞ～」は疑問・反語の句形で「どうして～か」の意味。設問文を直訳すると「どうして仁の心を持った人が位に即いていながら、人民を刑罰という網に追い込むようなことをしてよいだろうか、いや、してはならない。」となる。この訳に最も近いのはア。よって、アが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ エ　④ イ　⑤ ア

第12講　PART2 確認問題　解答

〔解説〕

① 「若何」は文頭で用いられている場合は「いかんゾ〜」と読み、「どうして〜か」という意味になる。よって、アが正解。

② 「奈何」が文末で用いられている場合は「いかんセン」と読み、疑問「〜はどうするか」あるいは反語「〜はどうするか、いや、どうしようもない」という意味になる。よって、ウが正解。

③ 「如何」は文末にあるときは「いかんセン」と読む。目的語（O）は「如」と「何」の間に入り、「Oをいかんせん」と読む。よって、ウが正解。

④ 「何如」は文末で用いられて「いかん」と読み、「〜はどのようであるか」という意味になる、疑問のみの用法である。よって、アが正解。

⑤ 「奈何」は文頭で用いられて「いかんゾ〜」と読み、「どうして〜か」という意味になる。よって、アが正解。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ ウ　④ ア　⑤ ア

第12講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「～何也。」は文末で用いて「～（ハ）なんぞや。」と読み、疑問のみの用法である。よって、エが正解。

② 「何也」は文末で用いられて疑問を表す。「～はどうしてなのか」という意味。よって、アが正解。

③ 「与」は文末で用いられて「か」「や」と読み、疑問（～か）・反語（～か、いや、～ない）を表す。読み方と訳が一致しているのはイ。よって、イが正解。

④ 「乎」は文末で用いられて「か」「や」と読み、疑問（～か）・反語（～か、いや、～ない）を表す。文末が疑問か反語になっているのはウかエだが、ウの「どれくらいか」という意味はない。よって、エが正解。

⑤ 「幾何」は文末に用いられるときは「いくばく（ゾ・カ・ナラン）」と読む。よって、ウが正解。

〔解答〕

① エ　② ア　③ イ　④ エ　⑤ ウ

第13講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 設問の文は「後人豈に応に復た得べけんや。」と書き下す。「豈〜ン（や）」は反語の句形なので、直訳すると「後の人はどうして再び獲得できるだろうか、いや、獲得できない。」となる。よって、アが正解。

② 設問の文は「寧くんぞ師とするに足らんや。」と書き下す反語の句形。同じく「いづクンゾ」という読み方で、「どうして〜だろうか、いや、〜ない。」という意味になるのは、ア・ウ・エ。イは「たれカ〜／いづレカ〜」と読む。よって、イが正解。

③ 「豈能〜」は「あニよク〜ン（や）」と読み、「どうして〜できるだろうか、いや、できない」という意味の反語の句形。よって、エが正解。

④ 「安能〜」は「いづクンゾよク〜ン（や）」と読み、「どうして〜できるだろうか、いや、できない」という意味の反語の句形。よって、イが正解。

⑤ 反語形では、文末が「〜ン（や）」となる。選択肢の中で文末が「〜ン（や）」であるのはウのみ。「誰〔孰〕能〜」は「たれカよク〜ン（や）」と読み、「誰が〜できるだろうか、いや、誰もできない」という意味。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② イ　③ エ　④ イ　⑤ ウ

第13講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点通りに読むと、どちらも最初が「敢」なので、アかウ。「不敢～」は「あヘテ～ず」で、「決して～ない」の意味。「敢不～」は「あヘテ～ざランや」で、「どうして～しないことがあろうか、いや、～する」の意味。よって、アが正解。

② 「敢不～」は「あヘテ～ざラン（や）」と読み、「どうして～しないことがあろうか、いや、～する」という意味の反語の句形。よって、イが正解。

③ 「何N之有」は「なんノNカこレあラン」と読み、「何のNがあろうか、いや、何のNもない」という意味の反語の句形。よって、イが正解。

④ 文末が「ン（や）」であるものはエのみ。また、「～べけんや」は「～できるだろうか、いや、できない」という意味の反語の句形。よって、エが正解。

⑤ 「～べけんや」は「～できるだろうか、いや、できない」という意味の反語の句形。したがって、直訳すると「親孝行と言えるだろうか、いや、言うことはできない。」となる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② イ　③ イ　④ エ　⑤ ウ

ベーシックレベル　漢文

はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。
それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。
そんな人でも大丈夫！
この講座は基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人、大歓迎！です。

漢文って確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。
ですが、漢文は入試科目の中で、おそらく**一番少ない知識で高得点が取れる科目**です！
ただし、古文文法の知識がないと少しやっかいなので（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したから）、まずは古文文法を仕上げてくださいネ。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけ学ぶ」という意味ではありません。
基本から説明をして、入試問題を解くために必要な力もつくように構成してあります。

『スタンダードレベル漢文講座』との大きな違いは、
●各チャプター時間が短時間〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように。〕
●用例ごとの例文が豊富〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず。〕
●句法の学習の後には、教科書でも扱うような有名な文章にも取り組む〔学校の予復習に最適。〕

●大事なことは繰り返し説明〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる。〕
●丁寧にじっくり解説〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「じっくり何度も確実に！」**の姿勢で。〕

「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？
でも、「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」
そんな悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実です。
――なぜでしょう？
実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。
一番基本となる**「文構造」**や**「『置き字』の知っておくべき知識」**を理解できていないと、漢文は正しく読めません。
これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。
なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。
本講座では、最初に基本知識をきっちり学んだ上で、入試に必要な「重要句法」に取り組みます。
漢詩を扱った後は、文章を読む練習をし、最後に実際の過去問を使用した実践演習にチャレンジ！
基本からしっかり理解して、実践演習で問題が解けるように、最後まで一緒に頑張りましょう！

ベーシックレベル　漢文

予復習・授業の受け方について

「実践演習」までは予習不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。

「実践演習」は予習が必要です。
よって、**動画を見る前に先に問題を解いてください**。
予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ましょう。
自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることをオススメします。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄に自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚えこむまで何度も復習してください。
復習が終われば、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。
確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

ベーシックレベル　漢文

第14講　詠嘆形・仮定形……p. 6
第15講　比較形・限定形……p. 18
第16講　累加形・願望形・抑揚形……p. 30
第17講　その他の句法・複数の句法に使用される漢字……p. 44
第18講　漢字の読み／意味・漢詩の基礎知識……p. 58
第19講　漢詩・「漱石枕流」……p. 76
第20講　「先従隗始」・「蘇武持節」……p. 88
第21講　「鴻門之会」……p. 96
第22講　「四面楚歌」・漢文読解法・実践演習(1)……p. 104
第23講　実践演習(2)……p. 116
第24講　実践演習(3)……p. 126
第25講　実践演習(4)……p. 138
第26講　実践演習(5)……p. 150

PART1　詠嘆形

二　詠嘆形

①　**不亦(また)A乎。**　＝**またAずや／（なんとまあAではないか）**

＊乎＝哉

（例）**不亦楽乎。**（　　　　　　）（　　　　　　）

②　**豈(あ)ニ不A乎。**　＝**あニAずや／（なんとまあAではないか）**

＊乎＝哉

★　豈不〜乎＝「**豈に〜ざらんや**」と読めば「　　　　」の意味になり、（　　　　　　）と訳す。

（例）**豈不学乎。**（　　　　　　）（　　　　　　）

豈不遠乎。（　　　　　　）（　　　　　　）

③ **何ゾ（其レ）A（＝連体形）（也）。＝なんゾ（そレ）A（や）／（なんとAではないか）**

（例）**何其**浅**也**。〔　　　　　　〕（なんと浅薄であろうか。）

何楚人（そひと）之多**也**。〔　　　　　　〕（　　　　　　）

④ **A（＝連体形）哉（かな）、N也（や）。＝Aかな、Nや／（Aだなあ、Nは）**

（例）美**哉**、花**也**。〔　　　　　　〕（　　　　　　）

⑤ **～乎・哉・矣・夫・与。＝～かな／（～だな）**

（例）嗚呼（ああ）美**哉**。〔嗚呼美しきかな。〕（ああ、美しいなあ。）

⑥ **宜（むベナル）乎。＝むベナルかな／（もっともだな）**

＊乎＝哉

⑦　已(やンヌル)矣乎(かな)。＝ヤンヌルかな／（もうだめだ・どうしようもない）

問五　「不二亦宜一乎。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　またよろしからず。
イ　またむべならずや。
ウ　またもむべならざらん。
エ　またよろしくせざるなし。
オ　またもよろしくすべからざるなり。

問六　「何其壮也」を書き下し文にし、また口語訳もせよ。

注　壮…形容動詞「壮なり」。いさましく元気な様子。

〈書き下し文〉

〈口語訳〉

〈Memo〉

第14講　PART1　確認問題

① 文の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

不㆓亦君子ナラ㆒乎。

ア　これこそ、再び優れた君子になるために必要なことだったのだなあ。
イ　どうして優れた君子になれようか、いや、なれない。
ウ　このようなふるまいをする人は、優れた君子と言うべきではない。
エ　いかにも、優れた君子と言うべきではないか。

② 「豈不㆓誠廉士㆒哉。」を詠嘆の意味になるように読んだものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あにまことのれんしならざらんや。
イ　あにまことのれんしならんかな。
ウ　あにまことのれんしならずや。
エ　あにまことのれんしならざらん。

③ 「何ゾ其レ久也。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ひさしく　　イ　ひさし　　ウ　ひさしき　　エ　ひさしけれ　　オ　ひさしかれ

④ 「賢哉回也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　回…人名。孔子(こうし)の弟子、顔回(がんかい)のこと。

ア　賢明なことだなあ、顔回は。
イ　顔回のように賢明だなあ。
ウ　賢明なのは顔回だろうか。
エ　顔回は賢明なのだろうか。

⑤ 文は、どれも詠嘆の意を表している。傍線部の読み方が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　悲シイ夫。　　イ　唯我ト与レ爾有ルレ是レ夫。
ウ　嗚呼哀シイ哉。　　エ　管仲之器小ナル哉。
オ　不二亦遠一カラ乎。　　カ　已ンヌル乎矣。

PART2　仮定形

一　仮定形

① 若～ / 如～ ＝もシ～バ／（もし～ならば）

※下から返らない

（例）若然（しかラバ）、…　〔然らば、…〕（　　　　）

> ＊下から返る場合は、助動詞「若（ごと）シ・如（ごと）シ」などの用法。
>
> （例）若レ水。〔　　　　〕（　　　　）

② **苟～＝いやしクモ～バ／（もし～ならば・かりにも～）**

＊①より強い仮定

（例）**苟**遭ハバ二其ノ時ニ一、…　〔其の時に遭はば、…〕（しかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③

縦～
仮令～ ＝**たとヒ～トモ**／（たとえ～としても）

（例）

仮令我保ツコトレ寿ヲ百年、ナリトモ…　〔　　　　我寿を保つこと百年なり　〕

（　　　　　私が寿命を百年保つことができた　　　　　　）

縦江東ノ父兄憐レミテ而王トストモレ我ヲ、…　〔　　江東の父兄憐れみて我を王とす　　〕

（　　江東の父兄〔＝農村の指導者層〕が同情して、私を王とした　　　）

④

雖～＝～トいへどモ／（たとえ～としても・～だけれども）

（例）　**雖**モレ賢ナリト　…　〔賢なりと雖も…〕（たとえ賢者であっても…／賢者であるけれど…）

其レ或イハ継グレ周ヲ者、**雖**モ二百世(ひゃくせい)一可キレ知ル也。

注　其レ或イハ…もし仮に。
　　百世…現在（＝周の時代）より後の百の王朝のこと。

〔其れ或いは周を継ぐ者、百世　　知るべきなり。〕

（もし仮に周を継ぐ王朝があるとしたら、　　知ることができるのである。）

苟私意蔽固（へいこ）ナレバ、則チ**雖**レ有リトレ過チ、而（しか）モ不レ能レ知ルコトレ之ヲ。

〔　　　私意蔽固なれば、則ち過ち有りと　　　、而も之を知ること　　　〕

（　　自分勝手な心で道理に暗く頑固であるならば、過ちを犯した　　　これを知ることが　　）

鶴ノ脛（はぎ）ハ**雖**レ長、断タバレ之ヲ則チ悲シマン。

〔鶴の脛は　　　、之を断たば則ち悲しまん。〕

（鶴のすねは　　　、これを（短くしてあげようと）切ったならかえって悲しむだろう。）

⑤ **使メバ二NV一、…＝N Vしメバ、…／（もしNがVするならば、…）**

（例）使メバ二公ヲシテ有ラレ知ル、…　〔公をして知る有らしめば、…〕

（　　　　　　　　　　　）

⑥ **微（な）カリセバ二〜一、…＝〜なカリセバ、…／（〜がなかったならば、…）**

（例）**微**二斯ノ人一、…　〔斯の人　　　〕（　　　　）

問一　次の文の傍線部ａの読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。また傍線部ｂをすべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでよい）。

「ａ若必ズ禁ジテ、其レ不レバ㆑変ゼ、則チｂ雖㆓造物（ぞうぶつ）㆒有㆑所㆑不㆑能。」

ａ＝

ｂ＝

第14講 PART2 確認問題

① 「苟能ク弭メレ兵ヲ、…」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いづくんぞ　　イ　いやしくも　　ウ　しかも　　エ　けだし

② 「雖二貧賤ノ斯養(しやう)一、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　であれば　　イ　であっても　　ウ　だけではなく　　エ　よりはむしろ

③ 現代語訳の空欄にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選べ。

微カリセバ二管仲一、吾其被リレ髪ヲ左ニセンレ衽ヲ矣。

（［　　］、私の髪は乱れ、着物もまともには着ていなかっただろう。）

ア　管仲がいなかったならば　　イ　これが管仲であったならば

ウ　管仲が一緒にいたならば　　エ　管仲と同じでなかったならば

④ 空欄にあてはまる字として最も適当なものを、次の中から選べ。

□我レ不レ往(ゆ)カトモ、子寧ゾ不レ来タラル。

ア 苟　イ 若　ウ 雖　エ 縦　オ 微

⑤ 仮定の用法を含まないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 使メバ二狗ヲシテ用ヰレ之ヲ一、…

イ 将軍若シ遇(あ)ハバ二真ノ虎ニ一、…

ウ 如シ二時雨ノ降ルガ一。

エ 縦ヒ江東(かうとう)ノ父兄憐ミテ而王トストモレ我ヲ、…

二　比較形

① A二シ・タリ・ナリ **於・于・乎** N一ヨリ（モ）　＝Nヨリ（モ）A／（Nより（も）A）

（例）

霜葉紅二**於**二月花一。

注　二月花…ここでは桃の花のこと。

〔霜葉は二月の花　　　紅なり。〕

（霜にあたって紅葉した葉は二月の花　　　　　）

青ハ取リテ二之ヲ於藍一ヨリ、而青ク二**於**藍一、…

注　藍…草の名前。

〔青は之を藍より取りて、　　　〕

（青色（の染料）は藍の草から取るが、（できあがる青色はもとの）　　　）

⇐

【弟子が師匠よりも優れた者になること＝『出藍（しゅつらん）の誉（ほま）れ』】

② **不レ如カ**・**弗レ若カ**　～ニ ＝ **～ニしカず**／（**～の方がよい・～に及ばない**）

（例）百聞ハ**不如**一見。〔　　〕（　　）

不レ如レ釈（ゆるスニ）臣ヲ。〔臣を釈すに　　〕（　　）

注　釈…許す。

③ **莫レ如クハ**・**無レ若クハ**　～ニ ＝ **～ニしクハなシ**／（**～にこしたことはない・～が一番よい**）

（例）**莫如**良医。〔　　〕（　　）

④ **莫**レ／**無**レ **A**ハ **於**二**N**一ヨリ（モ）　＝**Nヨリ（モ）Aハなシ／（NよりもAなものはない）**

（例）存スル二於人一ニ者ハ、**莫**レシ良キハ**於**二眸子(ぼうし)一ヨリ。

注　眸子…瞳。　良…素直。

〔人に存する者は、眸子より良きは莫し。〕

（人が身にもっているもので、　　　　　　）

⑤ **莫**レ**A**（＝連体形）ハ**焉**(これ)レヨリ　＝**これヨリAハなシ／（これよりAなものはない・これが一番Aだ）**

（例）天下**莫強焉**。　（天下　　　　　　）（天下で　　　　　　）

問二　「侵レス官ヲ之害ハ甚二於寒(かん)一」の傍線部を書き下し文にせよ。

注　甚…「甚(はなは)だし」。

問三　「云ハバレ無シトレ効、則不如貧医。」の傍線部を平仮名で書き下し文にせよ。

問四　「夫鬱莫下甚二於病一者上。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　夫（そ）れ鬱は病より甚しき者（もの）莫し。
イ　夫れ鬱は病より甚しき者（こと）莫きか。
ウ　夫れ鬱は病を甚しくする者（こと）莫し。
エ　夫れ鬱より病を甚しくする者（もの）莫し。
オ　夫れ鬱として病を甚しくする者（こと）莫かれ。

第15講　PART1　確認問題

①「苛政ハ猛㆓於虎㆒也。」の傍線部の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　於いて虎は猛なり。　　イ　虎よりも於いて猛なり。
ウ　虎よりも猛なり。　　エ　虎を猛くするなり。

②「無㆑友㆓不㆑如㆑己者㆒。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　己よりも如かざる者に友は無し。　　イ　己に如かざる者を友とすること無かれ。
ウ　己の如き者は友とならざるなり。　　エ　己に如かずして者と友になること無し。

③「不㆑如㆑学也。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　学ぶ方がよい。　　イ　学ばないにこしたことはない。
ウ　学ぶよりもよい。　　エ　学ばない方がよい。

④「莫(シ)レ若(クハ)二六国従親(しょうしんシテ)以(テ)擯(しりぞクルニ)レ秦(ヲ)。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　従親…ともに戦う同盟を結ぶ。
擯…追い払う。
秦…国名。

ア　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うようなものだ。
イ　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うことはできない。
ウ　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うほうがましだ。
エ　六国がともに戦う同盟を結んで秦を追い払うにこしたことはない。

⑤「莫レ良二於眸子(ぼうし)一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　眸子…瞳。

ア　於いて眸子に良き莫し。
イ　眸子より良きは莫し。
ウ　眸子に於いては良きもの莫かれ。
エ　眸子は良きこと莫し。

一　限定形

①

徒　特　直　但　只　惟　唯

～(ダ)　～(ノミ)　＝たダ～ノミ／（ただ～だけだ）

（例）　惟士為(ス)レ能(クスルヲ)。

注　士…学問を修め、道理を得た人。
為レ能…ここでは「できることである」という意味。

〔能くするを為す。〕

（学問を修め、道理を得た人　　　ができることである。）

唯不(ルノミ)レ喜(バ)二人(ノ)唾(つばきヲ)一。〔　　人の唾を喜ばざるのみ。〕

（ただ人間の唾を好まないだけだ。）

②

独リ～ノミ ＝ひとリ～ノミ／（ただ～だけだ）

（例）　今**独**臣有リレ船。　〔今　　　　船有り。〕（　　　　）

妾独以テレ衛ヲ為スレ有リト二蘧伯玉（きょはくぎょく）一**爾**（のみ）。

注　以レ衛…ここでは「衛の賢明な人物は」の意味。

蘧伯玉…人名。

〔妾　　衛を以て蘧伯玉有りと為すのみ。〕

（私は衛の賢明な人物は　　　蘧伯玉　　　と思っていた。）

③

～已（のみ）**。**

～而已。

～而已矣。

～耳。

～爾。

＝～のみ／（～だけだ）

（例）　若（なんぢハ）不ル二忠信ナラ一**耳**。　〔若は忠信ならざる　　。〕（お前が忠信でない　　。）

問一　「徒宋ノミ…」の傍線部の読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。

問二　「不ランレ能ハレ安ンズル耳。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。

問三　「惟有ル二蛤蜊(かふり)一艘(いつさう)一耳。」を現代語訳せよ。

注　蛤蜊…ハマグリとアサリ。
　　一艘…船一そう分。

〈Memo〉

第15講 PART2 確認問題

① 「唯」と異なる意味・用法を持つ語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 但　イ 蓋　ウ 惟　エ 徒

② 「直海ノミ。」の傍線部の読みを送り仮名も含めて平仮名で表したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア すぐに　イ じかに　ウ ただ　エ なおす

③ 「非ザル三独リ賢者ノミ有ルニ二是ノ心一也。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア ひとりの賢者の心があるというわけではない。

イ ただの賢者ならばこの心があるというわけではない。

ウ ひとりの賢者がこの心を持っているだけだ。

エ ただ賢者だけがこの心を持っているのではない。

④「不ル二百歩ナラ一耳。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　わずか百歩進んだだけだ。　イ　百歩でなかっただけだ。

ウ　百歩にならなかったのだ。　エ　百歩でなかったに違いない。

⑤「有ル二仁義一而已矣。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　じんぎのあるべきや。　イ　ただじんぎあるのみ。

ウ　じんぎあるのみや。　エ　じんぎあるのみ。

二 累加形

① **不**（ず）**ニ唯**（た）**ダニ** [A] **一ノミナラ、（而**（しか）**シテ）亦**（また） [B] ＝ **ただニAノミナラず、（しかうシテ）またB**

（ただ単にAだけでなく、またBでもある）

＊唯＝独（ひと）**リ**

（例）叔（しゅく）**不ニ惟薦ムルノミナラ**レ仲（ちゅう）ヲ、**又能**ク左ニ右スルコト之ヲ一如レ此（か）クノシ。

注　叔…斉の国の鮑叔（ほうしゅく）のこと。
　　仲…斉の国の管仲（かんちゅう）のこと。

〔叔　仲を薦むるのみならず、又能く之を左右すること此くのごとし。〕

（鮑叔は管仲を　推薦した　、（管仲を）このようにうまく補佐していた。）

※鮑叔は管仲のことを信頼しており、斉の宰相の桓公（かんこう）に管仲を推薦し、自分は管仲の下につき、うまく補佐をした。
また、管仲も鮑叔の名誉を守り、お互いの立場が変わろうが、深い友情は変わらなかった。

⇐

『管鮑（かんぽう）**の交わり』**＝お互いに信頼しあうきわめて親密な関係のこと。

②
非₂唯(あらズただ)Ａ₁、亦(また)Ｂ＝たダニＡノミニあらズ、またＢ
（ただ単にＡだけでなく、またＢでもある）

（例）非₂徒無₁レ益、而(シテ)又害(スレ)之(ヲ)。
〔　　　　　　　　、而して又之を害す。〕
（　　　　　　　　、またかえって害がある。）

③
豈₂唯(ダニ)Ａ₁(ノミナラン)哉(や)＝あ二たダニＡノミナランや
（どうしてＡだけであろうか、いや、Ａだけではない）

（例）豈独我(ガ)義也哉。
〔豈に独り我が義のみならんや。〕
（どうして私のためだけの道義であろうか、いや、私だけではない。）

問四　「何ゾ独リ丘(きう)ノミナラン哉(や)。」はどういうことを言っているのか。最も適当なものを次の中から選べ。

注　丘…孔子の名。ここでは自称。

ア　世に認められないのは、私だけではない。
イ　世に認められるかどうかは、私のことだけで考えない。
ウ　世に認められないなかに、私のような者はいない。
エ　世に認められなくても、私は私以外の何者でもない。

問五　「豈独我ガ父哉。」を書き下し文にせよ。

〈Memo〉

第16講　PART1　確認問題

① 累加の句形「不㆓唯ダニA㆒ノミナラ而シテ亦B」の傍線部と同じ意味・用法をもつ語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　何　　イ　夫　　ウ　哉　　エ　独

② 「不㆓唯ダニ忘㆑ルルノミナラ帰ルヲ、可㆓以テ終㆑フ老ヲ。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　帰ることを忘れることはないだろうし、ここで生涯を終えることもない

イ　ただ単に帰ることを忘れるだけでなく、このままここで生涯を終えてもよい

ウ　どうして帰ることを忘れることがあるだろうか、いや、忘れることはない

エ　帰ることなどすっかり忘れてしまっており、ここで生涯を終える決心をした

③ 「非㆓唯雨降㆒、亦風吹。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯だ雨降らざれば、亦風吹く。

イ　唯だに雨降るのみに非ず、亦風吹く。

ウ　雨のみ唯だ降るに非ず、風亦吹く。

エ　雨のみ唯だ降らず、風亦吹く。

④　「豈徒順レ之。」は「どうしてこれを押し通そうとするだけであろうか、いや、押し通そうとするだけではない」という意味である。読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ただにいたづらにこれにしたがふのみ。
イ　ただにこれにしたがふのみならず。
ウ　あにただにこれにしたがふのみならんや。
エ　あにいたづらにこれにしたがはんとす。

⑤　「豈ニ唯ダ群臣ノミ頼ランヤレ之ニ。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　群臣…私たち臣下。
　　頼レ之…おかげをこうむる。

ア　私たち臣下だけがそのおかげをこうむるのではなく、下々の民にまで及びます。
イ　私たち臣下がそのおかげをこうむることはなく、下々の民だけに及びます。
ウ　私たち臣下がそのおかげをこうむったとしても、下々の民には及びません。
エ　私たち臣下だけがそのおかげをこうむるので、下々の民に及ぶことはないでしょう。

PART2　願望形

三 願望形

① **願＝ねがハクハ～**
- **～ン**／どうか～させてください＝【　　　の願望】
- **命令**／どうか～してください＝【　　　の願望】

（例）

願ハクハ聞カン二其ノ説ヲ一。
〔願はくは其の説を聞かん。〕
（どうかその説明を　　　　。）

願ハクハ察セヨレ之ヲ。
〔願はくは之を察せよ。〕
（どうかこれを　　　　。）

②

請＝こフ～
- **～ン**／どうか～させてください＝**【自分の願望】**
- **命令**／どうか～してください＝**【相手への願望】**

（例）請フ講ゼヨ㆑之ヲ。〔請ふ之を講ぜよ。〕（　　　　　　）

③

庶＝こひねがハクハ～
- **～ン**／どうか～させてください＝**【自分の願望】**
- **命令**／どうか～してください＝**【相手への願望】**

＊庶＝幾／庶幾

（例）**庶幾**改メヨ㆑之ヲ。〔庶幾はくは之を改めよ。〕（　　　　　　）

問六　「臣請フ、道(い)ハン㆓三言(さんげん)ヲ㆒而已。」を現代語訳せよ。

第16講　PART2　確認問題

① 文の空欄に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「願」「請」「庶」はいずれも願望の句形で用いられる語である。文末が「〜ン」となる場合は「[A]」という意味の[a]の願望を表し、命令の表現となる場合は「[B]」という意味の[b]への願望を表す。

ア　A　どうか〜してください　a　相手　B　どうか〜させてください　b　自分
イ　A　どうか〜してください　a　自分　B　どうか〜させてください　b　相手
ウ　A　どうか〜させてください　a　相手　B　どうか〜してください　b　自分
エ　A　どうか〜させてください　a　自分　B　どうか〜してください　b　相手

② 「願ハクハ大王急ギ渡レ。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうか大王、急いで渡らせてください。
イ　どうか大王、急いで渡ってください。
ウ　大王は急いで渡ることを願った。
エ　大王は急いで渡らせることを願った。

③ 「願夫子(ふうし)輔(たす)㆓吾志㆒、明以教我。」は「どうか先生、私の志を助け、はっきりと私に教えてください。」という意味である。書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　願ふ夫子吾が志を輔け、明らかに以て我に教へん。
イ　願はくは夫子吾が志を輔け、明らかに以て我に教へよ。
ウ　願はん夫子吾が志を輔け、明らかに以て我に教へよ。
エ　願へ夫子吾が志を輔け、明らかに以て我に教へんことを。

④ 「請フ、以テ㆑剣ヲ舞ハン。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうか剣を使った舞をさせてください。
イ　どうか剣を使った舞をしてください。
ウ　剣を使った舞をしなくてはいけません。
エ　剣を使った舞をしてはいけません。

⑤ 願望を表す「庶幾」の送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ねがはくは　　イ　ねがはん　　ウ　こひねがへ　　エ　こひねがはくは

四　抑揚形

① **A 且(スラかツ) B。況(いはンヤ) C 乎(ヲや)。**　＝**AスラかツB。いはンヤCヲや。**

（AでさえB。ましてCはなおさらだ。）

＊且＝猶(なホ)・尚(なホ)

（例）　死馬**且**買(フ)レ之(ヲ)、**況**生(ケル)者**乎**。

〔　　　　　　　　〕

（　　　　　　　　）

臣死(スラ)**且**(ツ)不レ避(ケ)。〔臣死すら且つ避けず。〕

（私は　　　　　　　　）

② **況(いはンヤ)〜乎(ヲや)。**　＝**いはンヤ〜ヲや。**／**（まして〜にあってはなおさらだ。）**

（例）　**況**衆人**乎**。　〔　　　　　　〕（　　　　　　　　）

注　衆人…多くの人。

③ **而況於㆓〜㆒乎。＝しかルヲいはンヤ〜ニおイテヲや。／（まして〜にあってはなおさらだ。）**

（例）**而況於人乎。**〔　　　　　　　　　　〕
（　　　　　　　　　　）

問七　「不㆑適㆓於用㆒、人猶貴㆑之。**況其適㆓於用㆒者乎。**」の傍線部をすべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでよい）。

注　傍線部中の「適」…サ変動詞「適す」。

問八　「児衣在㆑側、尚齧、況鞍懸㆑柱乎。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。
イ　身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。
ウ　身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
エ　太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
オ　身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、鞍を柱に懸けておくべきではなかった。

第16講　PART3　確認問題

①「天尚如此、況於君乎。」にはどのような句形が用いられているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　受身　　イ　疑問　　ウ　反語　　エ　抑揚

②「抑揚」の表現法には、どのような表現意図があるといえるか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まず困難な状況を述べ、次に「いはんや」に続けてそれ以上に困難な状況を述べることで、後者の状況の困難さがきわめて深刻であることを示す意図がある。

イ　まず既知の事実を述べ、次に「いはんや」に続けて未知の事実を述べることで、前者の既知であったはずの事実さえも未知であるかのように見せる意図がある。

ウ　まずある状況への判断を述べ、次に「いはんや」に続けて一層進んだ状況への判断を述べることで、後者の判断が自明のものであることを強調する意図がある。

エ　まず当たり前の事実を述べ、次に「いはんや」に続けてあり得ない事実を述べることで、前者の当たり前の事実が当然とまでは言い切れないことを示す意図がある。

③ 「蔓草（まんそう）猶不レ可レ除。況君之寵弟（ちょうてい）乎。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　蔓草…つるくさ。　寵弟…母から寵愛を受けている弟。

ア　蔓草すら猶ほ除くべからず。況んや君の寵弟をや。
イ　蔓草は猶ほ除くべからず。況んや君の寵弟を。
ウ　蔓草すら猶に除くべからず。況んぞ君の寵弟や。
エ　蔓草は猶ほ除くべからず。況んぞ君の寵弟かあらん。

④ 「好（よ）キコトスラ尚ホ不レルニ可レカラ為ス、其レ況ンヤ悪キコトヲ乎。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　よいことであればしてはいけないわけではないが、悪いことはしてはいけない。
イ　よいことでさえしてはいけないのに、まして悪いことはなおさらしてはいけない。
ウ　よいことをしていなければならないのに、悪いことばかりをしていてはいけない。
エ　よいことをふだんからしていれば、少しくらい悪いことをしてもよいだろう。

⑤ 「而況於君。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　しかしていはんやきみにおいてか。
イ　しかもいはんやきみにおいてをや。
ウ　しかるにいはんやきみにおいてか。
エ　しかるをいはんやきみにおいてをや。

一　その他の句法

① **以～＝～ヲもつテ【　　や　　　　を示す】**

(1) 以テス二～ヲ一。＝～ヲもつテス。／（～でする。）

（例）道（みちび）クニレ之ヲ**以**テスレ政（まつりごと）ヲ。〔之を道くに政を以てす。〕（政治によって人民を導く。）

注　之…ここでは「人民」のこと。

(2) 以テ二～ヲ一也。＝～ヲもつテなり。／（～からである。）

（例）**以**テレ知ルレ時ヲ**也**。〔時を知るを以てなり。〕（時勢を見抜く　　　　）

②　以為

（1）**以為**（おもヘラク）――ト　＝**おもヘラク――ト**／（――と思う）

（2）**以**（もつテ）**為**（なス）レ**Ａ**ト　＝**もつテＡトなス**／（Ａと思う・Ａとする）

（例）**以為**神（しん）。（　　　　）（不思議な力を持っている者）

注　神…不思議な力を持っている者。

（3）**以**（もつテ）レ**Ａ**ヲ**為**（なス）レ**Ｂ**ト　＝**ＡヲもつテＢトなス**／

ＡをＢ
- **にする**
- **と思う**
- **と考える**

（例）趙（てう）王**以**二藺相如（りんしょうじょ）一**為**二上卿（じゃうけい）一。

注　藺相如…人名。
上卿…天子・諸侯の臣下の最高位の者。最高の家来。

〔趙王藺相如　　　　〕

（趙王　　藺相如　　　　）

③「すなはチ」の訳し方

＊(1)〜(5)の読みは全て「すなはチ」

(1) 則＝（もし〜たら）

＊〜バ(ハ) 則チ ―― …「則」＝訳さない

（例）則チ践二鋒刃（ほうじん）一ヲ、入二湯火（とうか）一ニ、…〔則ち鋒刃を践み、湯火に入れば、…〕

（鋭い刃を踏み、熱湯や火中に入ったならば、…）

(2) 即＝（すぐに）

（例）樹（じゅ）即チ応レ声ニ、…〔樹即ち声に応へて、…〕（木は　声に反応して、…）

(3) 便＝（すぐに・たやすく・簡単に）

（例）便チ合二財産一ヲ、…〔便ち財産を合せて、…〕（すぐに財産を一緒にして、…）

(4) 乃＝（そこで・やっと・なんと）

（例）乃チ告レグ之ニ。〔乃ち之に告ぐ。〕（やっとこの人に告げた。）

注　之…ここでは「この人」の意味。

(5) **輒**＝（**そのたびごとに・いつも・すぐに**）

（例）至リテハ二於百姓ひやくせいノ租税一ニ、動ややモスレバ**輒チ**蠲免けんめんス。

注　蠲免…租税を免除する。

〔百姓の租税に至りては、動もすれば輒ち蠲免す。〕

（　　の租税に至っては、とかく　　　　免除する。）

問一　「病児服レシテ薬ヲ、云レハバ無レシト効、則不如貧医。」の傍線部をすべて平仮名で書き下しなさい（現代仮名遣いでよい）。

④ **欲**

(1) **欲**N＝N**ヲ**ほっス

(2) **欲**V＝V**ント**ほっス ／（**～したいと思う・～しようとする**）

（例）欲渡。〔　　　　〕（渡ろうとする。）

問二　「必欲使之在尊貴之所」について、（a）返り点のつけ方と書き下し文、（b）その解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

（a）
ア　必 欲レ 使レ 之 在二 尊 貴 之一 所　　必ず之を使はんと欲するは尊貴の在る所なり
イ　必 欲レ 使三 之 在二 尊 貴 之 所一　　必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す
ウ　必 欲三 使 之 在二 尊 貴 之 所一　　必ず使ひの尊貴の所に在らんことを欲す
エ　必 欲三 使レ 之 在二 尊 貴一 之 所　　必ず之を使ひて尊貴に在らんと欲するの所なり
オ　必 欲 使三 之 在二 尊 貴一 之 所　　必ず欲して之をして尊貴に在らしむるの所ならん

（b）
ア　必ず教え子を高い地位につかせてやりたいと思う。
イ　必ず教え子を高官のもとに派遣したいと思う。
ウ　必ず教え子を皇帝の役に立つ人物にしたいと思う。
エ　教え子をなんとかして出世させたいと思った結果である。
オ　教え子に正しい教育を施してやりたいと思う理由である。

⑤ 倒置がおこる場合

(1) **否定文**中の**目的語**か**補語**が**代名詞**の場合

(例) **未之**聞。〔未だ之を聞かず。〕（まだこれを聞いていない。）

不汝与。〔汝に与へず。〕（お前に与えない。）

(2) 「詠嘆」の「**A哉、N也。**」の句法

(例) 美**哉**、花**也**。〔美しきかな、花や。〕

(3) **目的語**が**疑問詞**の場合

(例) **何**ヲカ書ク。〔何をか書く。〕（何を書くのか。）

(4) 「**以**」を用いる場合

(例) **以**ツテレ銭ヲ与フ。〔銭を以つて与ふ。〕（お金を与える。）

(5) 「**之**」を用いる場合

(例) 此レヲ**之**レ謂フ。〔此れを之れ謂ふ。〕（これを言う。）

第17講　PART1　確認問題

① 「愚以為、宮中之事、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私は～をなしとげる
イ　私を～にしてほしい
ウ　私を～とする
エ　私は～と思う

② 「以無用為用。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　無用の用を為す。
イ　無用の用たる。
ウ　以て無用の用を為す。
エ　無用を以て用を為す。
オ　無用を以て用と為す。

③ 「荊軻（けいか）乃逐（お）秦王（しんわう）。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　荊軻乃ち秦王を逐ふ。
イ　荊軻乃て秦王を逐ふ。
ウ　荊軻秦王を逐はせんとす。
エ　荊軻乃に秦王を逐ふべし。

④ 「不ルレ欲セ者ハ便チ去レ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつも　イ　そこで　ウ　すぐに　エ　やっと　オ　なんと

⑤ 「必欲使之在尊貴之所。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　必ず之を使はんと欲するは尊貴の在る所なり。
イ　必ず使ひの尊貴の所に在らんことを欲す。
ウ　必ず欲して之をして尊貴に在らしむるの所ならん。
エ　必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す。
オ　必ず之を使ひて尊貴に在らんと欲するの所なり。

二　複数の句法に使用される漢字

①　於・于・乎（文中）

（1）　置き字

（2）「　　　」V二於N一　＊N＝Vの動作主（　　　　　　　）

（3）「　　　」A二於N一　（　　　　）

②　敢

（1）　敢（あヘテ）＝（すすんで・わざわざ・おもいきって）

（2）　安（いづクンゾ）敢（あヘテ）〜ン（ヤ）＝（　　　　　　　）

（3）　不敢〜＝［　　　］／（　　　　　　）

（4）　敢不〜乎。＝［　　　］（　　　　　　）

③ **若・如**

(1) **文頭**にあって**下から返らない**とき「　　　」／（　　　）

(2) **下から返る**とき「**比況**の助動詞」**ごとシ**／（**〜のようだ・**〜と同じだ）

(3) 「**比較**」

不レ**如**・**弗**レ**若**　〜ニ＝（〜　　　）／（　　　）

莫レ**如**・**無**レ**若**　〜ニ＝（〜　　　）／（　　　）

(4) 「**疑問**」

〈文頭〉**如何・若何**〜＝（　　　）／（　　　）

〈文末〉**如何・若何**。＝（　　　）／（〜は　　　）【　　　】

〈文末〉**何如・何若**。＝（　　　）／（〜は　　　）【　　　】

(5)「反語」

如何・若何

〈文頭〉（　　　　）／（　　　　）

〈文末〉（　　　　）／（　　　　）

④ 能

(1) **能**＝（　　　）／（　　　）

＊**善**ク(よ)＝〜することが上手だ

（例）銭明経(せんめいけい)**善**レ詩。〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2) **不**レ**能**＝（　　　）／（　　　）

(3) **安**クンゾ(いづ)**能**ク〜ン(ヤ)・**豈**ニ(あ)**能**ク〜ン(ヤ)／（　　　　）

⑤ 而

(1) 文中で読まないとき＝置き字

(2) 文頭＝読む（置き字ではない）

(3) すなはチ

(4) なんぢ〈＝汝・女・爾・若〉／（あなた・あなたたち）

第17講　PART2　確認問題

①　「敢不レ走乎。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　決して逃げることはない。
イ　すすんで逃げることはない。
ウ　どうして逃げないことがあるだろうか、いや、逃げる。
エ　どうしてわざわざ逃げたりするだろうか、いや、決して逃げない。

②　傍線部の「而」のうち、読み下すものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　民免而無恥。
イ　六十而耳順。
ウ　而後従之。
エ　学而不思即罔。

③　「苛政猛二於虎一也。」の傍線部「於」の働きとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　置き字　　イ　受身　　ウ　比較　　エ　仮定

④ 「吾盾之堅、莫二能陥一也。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 突き通せないものはない。
イ 突き通すことができるものはない。
ウ どうして突き通すことができるだろうか、いや、できない。
エ どうして突き通すことがあるだろうか、いや、決してない。

⑤ 傍線部「如」の働きとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「信如君不レ君、臣不レ臣、父不レ父、子不レ子、雖レ有レ粟、吾得而食レ諸。」

ア 仮定　イ 比較　ウ 疑問　エ 比況

一　漢字の読み・意味

【人物・人格・位・立場など】

1 **我・吾**（われ）**・己**（おのれ）**・余・予・某**（ぼう）**・某**（それがし）（私・私たち）

2 **臣**（しん）（君主に対して「私」）

3 **妾**（しょう）（女性の「私」）

4 **朕**（ちん）（天子の自称）

5 **寡人**（かじん）**・孤**（こ）（諸侯〈＝天子から領地を分与された君主〉・王の自称）

6 **不肖**（ふしょう）（〈立派な親に似ず愚かな人の意味〉）➡①私　②愚か者

7 **汝**（なんぢ）**・女**（なんぢ）**・若**（なんぢ）**・爾**（なんぢ）**・而**（なんぢ）**・子**（し）**・卿**（けい）**・吾子**（ごし）（あなた・あなたたち）

8 **君**（くん）（①あなた・あなたたち　②お殿様　③君主）

9 **足下**（そっか）（〈手紙文で〉あなた）

10 **上**（しょう）（天子）

11 **相**（しょう）（宰相）

12 **左右**（さゆう）（近臣）

13 **公卿**（こうけい）（高位高官）

14　**大夫**（たいふ）（中級の官）

15　**吏**（り）（下級役人）

16　**庶人**（しょにん）（庶民）

17　**百姓**（ひゃくせい）（民衆）

18　**故人**（こじん）（旧友）

19　**知己**（ちき）・**知音**（ちいん）（理解者・親友）

20　**君子**（くんし）（立派な人）⇕ **小人**（しょうじん）（つまらない人・身分の低い人）

21　**賢**（けん）（すぐれている人）⇕ **不肖**

22　**字**（あざな）（別名）

【その他】

1　**城**＝じょう（町）

2　**為人**＝ひとトなリ（人柄）

3　**者**＝しゃ・もの・は・昔者（むかし）・今者（いま）

4　**人間**＝じんかん（世の中・俗世間）

5　**理**＝り（道理）

6　**所以**＝ゆゑん（原因・理由・手段・方法）

7　**謂曰**＝いヒテいはク

8　**道**＝いフ（言う）

9　**対曰**＝こたヘテいはク

10　**白**＝まうス（申す・告げる）

11　**中**＝あたル

12　**竟**＝おはル

13　**困**＝くるシム

14　**卒**＝しゅつス（亡くなる）

15　**烹**＝にラル

16　**愛**＝をしム（惜しむ）

17 **事**＝つかフ（お仕えする）・ことトス（実践する）

18 **作**＝なス・つくル

19 **就**＝つク（おもむく・とりかかる）・なル（できあがる）・なス（しあげる）

20 **之**＝の・これ・ゆク

21 **已**＝すでニ・やム・のみ

22 **過**＝〜ニよギル（〜を訪問する）・すグ・あやまツ（間違える）・あやまチ

23 **悪**＝にくム・そしル・いづくンゾ・いづクニカ

24 **且**＝
- まさニ〜ントす（今にも〜しようとする）
- かツ（さらに・そのうえ・そもそも）
- しばらク（ひとまず・少しの間）

25 **為**＝
- 〜ノためニ
- 〜トなル
- 〜ヲなス（〜を行う）
- 〜トなス（〜とする）
- 〜ヲつくル
- 〜ヲをさム（〜を治める）
- たリ（断定）
- る・らる（受身）

＊下から返らないときは「ためニ」

26 **与**＝
- と　↑「読み」の問題として一番頻出。下から返る。
- あたフ
- くみス（味方する・賛成する）
- あづかル（関係する）
- ともニス
- ともニ（一緒に）
- よリハ
- か・かな　↑～与。（＝文末）

27 **寡**＝すくなシ

28 **衆**＝おほシ

29 **少**＝わかシ（若い・年少）

30 **蓋**＝けだシ（たぶん・思うに）

31 **凡**＝およソ（そもそも）

32 **夫**＝そレ（そもそも）

33 **抑々**＝そもそも

34 **数々**＝しばしば（たびたび）

35 **偶々**＝たまたま

36 **適々**＝たまたま

37 **終・卒・遂・竟**＝つひニ

38 **固**＝もとヨリ（もともと・言うまでもなく）

39 **素**＝もとヨリ（日ごろから）

40 **動**＝ややモスレバ（とかく↑そうする傾向が強いこと）

41 **毎**＝～ごとニ・つねニ

42 **方**＝まさニ（ちょうど・これから・そこで）

43 **所謂**＝いはゆる（世間一般に言われる）

44 **私**・**陰**・**窃**＝ひそかニ

45 **俄**・**卒**・**暴**・**遽**＝にはかニ（急に）

46 **早**＝つとニ

47 **嘗**＝かつテ

48 **忽**＝たちまチ（急に）

49 **徒**＝ただ～ノミ・いたづらニ

50 **因**＝ちなみニ・よりテ（そこで）

51 **如是**・**如此**＝かクノごとシ（このようだ）

52 **是以**＝ここヲもつテ（だから・こういうわけで）

53 **以是**＝これヲもつテ（これで）

54 **於是**＝ここニおいテ（そこで）

55 **未幾**＝いまダいくばくナラず（まもなく）

56　**須臾**＝しゅゆニシテ（まもなく）

57　**無幾**（**何**）＝いくばくモなク（まもなく）

58　**無幾**～＝いくばくノ～モなシ（ほんの少しのさま）

第18講　PART1　確認問題

① 傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「故人西辞二黄鶴楼一。」

ア　亡くなった人　　イ　老人　　ウ　恩師　　エ　旧友　　オ　昔の人

② 傍線部の読みと意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「堯子丹朱不肖。」

ア　ふしょう　　身分の高い人。
イ　ぶしょう　　出自がはっきりしない人。
ウ　ずしょう　　優れた能力を発揮する人。
エ　ふしょう　　立派な親に似ず愚かな人。

③「王顧(二)左右(一)而言(レ)他。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　王は近臣のほうをふり向いて、別の話をしはじめた。
イ　王はあちらこちらを見渡して、別の話をしはじめた。
ウ　王はたびたびふり返りながら、別の話をしはじめた。
エ　王は宰相のほうを顧みながら、別の話をしはじめた。

④傍線部と同じ意味を表すものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「梁惠王曰、『<u>寡人</u>之於(レ)國也、盡(レ)心焉耳矣。河内凶則移(二)其民於河東(一)、…』」

ア　惠王　　イ　國　　ウ　盡　　エ　其民　　オ　河東

⑤「<u>臣</u>死(スラ)且(ツ)不(レ)避(ケ)。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（君主に対して）あなた　　イ　（女性に対して）あなた
ウ　（君主に対して）私　　エ　（男性に対して）あなた
オ　（側近に対して）あなたたち

⑥「未(レ)幾」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　突然に　　イ　思いがけず　　ウ　おもむろに　　エ　たえず　　オ　まもなく

PART2　身分がわかる動詞・時間

【身分がわかる動詞】

1　**対**＝こたフ（**目下から目上の人に**お答えする）
2　**諫む**＝いさム（**目下から目上の人に**注意する）
3　**崩ず**＝ほうズ（**天子が**亡くなる）
4　**薨ず**＝こうズ（**諸侯が**亡くなる）
5　**弑す**＝しいス（**子・臣が親・君を**殺す）

【時間】

1　**光陰**＝こういん（時間）
2　**期年**＝きねん（丸一年）
3　**四時**＝しいじ・しじ（春夏秋冬）
4　**一旦**＝いったん（ある朝）
5　**一夕**＝いっせき（ある夜・ひと晩）
6　**夙夜**＝しゅくや（早朝から晩まで）
7　**他日**＝たじつ（以前のある日・将来のある日）
8　**百代**＝はくたい（長い時間）
9　**千載**＝せんざい（千年・長い年月）
10　**暮年**＝ぼねん（晩年）
11　**天年**＝てんねん（寿命・天寿）

〈Memo〉

第18講 PART2 確認問題

① 「孔子[a]対曰、」「伯夷・叔斉叩レ馬[b]諫曰、…」の読みの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　a＝たいして　b＝こうじて
イ　a＝こたへて　b＝いさめて
ウ　a＝いらへて　b＝ほうじて
エ　a＝つひに　b＝いさめて

② 「甫一夕死矣。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一日中　イ　夜中　ウ　寿命　エ　一晩　オ　年月

③ 空欄にあてはまるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「一寸［　　］不レ可レ輕。」（わずかな時間であっても無駄にしてはならない）

ア　一朝　イ　十方　ウ　一旦　エ　光陰

④　「叢菊両開他日涙。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　菊の花が群がっているのを見て、過去の日々を思って涙した。
イ　菊の花が群がっているのを見て、他の日を思い出して涙した。
ウ　菊の花が群がっているのを見て、あまりにも美しくて涙した。
エ　菊の花が群がっているのを見て、将来のことが心配で涙した。

⑤　「丸一年たたないうちに」という解釈になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不㆓期年㆒
イ　不㆑期年
ウ　無㆓夙夜㆒
エ　無㆑夙夜

PART3　漢詩の基礎知識

二 漢詩の基礎知識

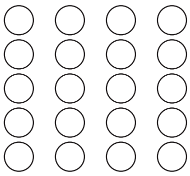
A 「形式」

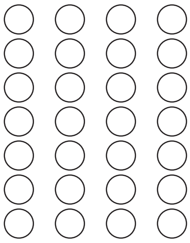
① **五言**（ごごん）詩（一行五文字）／**七言**（しちごん）詩（一行七文字）

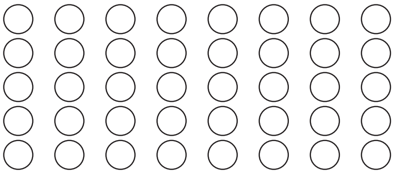
② **絶句**（ぜっく）（**四行**）／**律詩**（りっし）（**八行**）／古詩（それ以外）

＊「一行の字数」と「行数」から①と②を組み合わせる。

（例）五言絶句・七言律詩…など。







B

「押韻」（おういん）　音読みしたときに音の響きが同じであること。

（例）天（ten）・円（en）・煙（en）など

①**五言詩＝偶数句の末字**

○○○○○　○○○○●
○○○○○　○○○○●

＊●＝押韻している文字

②**七言詩＝（初句と）偶数句の末字**

○○○○○○●　○○○○○○●
○○○○○○○　○○○○○○●

★漢詩の空欄補充問題
空欄の場所＝「偶数句末」が多い⬇「押韻」の問題

C

「対句（ついく）の見分け方」

奇数句・偶数句の順で**返り点の打ち方が同じ**場合は、ほぼ対句（＊例外も多いので注意）。
品詞・文構造・意味内容ともに対称であることがポイント。

（例）
浮カビテ㆑天ニ滄海（さうかい）遠ク
去リテ㆑世ヲ法舟（はうしゅう）軽（かろ）シ

＊律詩（八行）の場合、**「三句と四句」**と**「五句と六句」**が原則として**対句**。
たとえば、李白の「送友人」は「一句と二句」「五句と六句」が対句で、このように例外もあります。両方でも、どちらかでも、また、それ以外の「一句と二句」や「七句と八句」も対句になっている場合も、対句は見ればわかるはずですので、「対句の見分け方」をしっかりおさえて確認してください。

D

「段落分け」

① 四行＝一行ずつ（**起承転結**）
② 六〜十行＝二行ずつ
③ 十二行以上＝四行ずつ

＊律詩➡**首聯（しゅれん）・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯（びれん）**

★主題は最終段落

E 「意味のまとまり」

①　五言詩＝２・３

（例）　十　月　鷹　出　籠

②　七言詩＝２・２・３

（例）　炎涼（えんりやう）昏暁（こんげう）苦（はなはダ） 推遷（すいせんシ）

注　炎涼昏暁…暑さと寒さ、夜と朝。
　　推遷…移り変わる。

第18講　PART3　確認問題

① 「一行七文字」で「八行」ある漢詩の形式名として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　七字絶句　　イ　七字律詩　　ウ　七言絶句　　エ　七言律詩

② 漢詩について、漢詩の形式名と対句の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

千山鳥飛絶　　萬徑人蹤滅
孤舟蓑笠翁　　獨釣寒江雪

ア　五言絶句　一句と二句　　イ　五言絶句　二句と三句
ウ　五言律詩　一句と二句　　エ　五言律詩　二句と三句

③ 空欄に入る漢字とその読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

越王句踐破レ呉歸　　義士還レ家盡錦衣
宮女如レ花滿ニ春殿一　　只今惟有ニ鷓鴣□一

ア　割　さく　　イ　流　ながれる　　ウ　飛　とぶ　　エ　鳴　なく

④ 空欄に入る漢字として最も適当なものを、次の中から選べ。

白髪三千丈　縁レ愁似レ箇長
不レ知明鏡裏　何處得二秋一□

ア　輝　　イ　欠　　ウ　霜　　エ　影

⑤ 左の漢詩には二つの対句が用いられている。その組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

青山横二北郭一　白水遶二東城一
此地一爲レ別　孤蓬萬里征
浮雲遊子意　落日故人情
揮レ手自レ茲去　蕭蕭班馬鳴

ア　首聯（しゅれん）と頷聯（がんれん）　　イ　頷聯と頸聯（けいれん）　　ウ　頸聯と尾聯（びれん）
エ　首聯と尾聯　　オ　首聯と頸聯

一　詩を読んで、次の問に答えよ。

『宿ルニ建徳江ニ』（けんとくかう）　孟浩然（まうかうねん）

第1句　移シテレ舟ヲ泊ス二煙渚ニ一（はく・えんしょ）
第2句　日暮客愁新タナリ（にちぼ・かくしう）
第3句　野曠クシテ天ハ低レ樹ニ（ひろ・た・き）
第4句　江清クシテ月ハ近シレ人ニ（かう）

注　建徳江…今の建徳市付近を流れる川。
　　煙渚…もやにつつまれた岸辺。
　　客…旅。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　韻字をすべて抜き出せ。

問三　対句の有無を答えよ。また、ある場合は、何句と何句が対句か答えよ。

★「盛唐の詩人」

【李白（りはく）】・「　　　　　」と称される。
・玄宗皇帝に仕えるが、後に追放される。
・自由奔放な作風。
・酒・自然・友人の歌が多い。

【杜甫（とほ）】・「　　　　　」と称される。
・玄宗皇帝に認められるものの、左遷され、その後は不遇。
・不遇な人生から、憤りや悲しい内容の詩が多い。
・政治・社会を描いたものも多い。

【その他】…**孟浩然（もうこうねん）**・**王維（おうい）**（↑「詩仏（しぶつ）」と言われる）など

★「中唐の詩人」

【白居易（はくきょい）】・字＝楽天。
・平安時代の日本に与えた影響大。『枕草子』や『源氏物語』にも引用される。
・『長恨歌』（↑玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋が題材）・『白氏文集』が代表作品。

【その他】…**韓愈（かんゆ）**・**柳宗元（りゅうそうげん）**など

二 詩を読んで、次の**問**に答えよ。

『早発白帝城』

朝辞白帝彩雲間
千里江陵一日還
両岸猿声啼不住
軽舟已過万重山

注　辞…別れを告げる。　江陵…今の湖北省荊州市。白帝城から江陵まで舟で約一日かかる。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　韻字をすべて抜き出せ。

問三　この詩の作者は別名「詩仙」と言われている。それは誰か。次の中から選べ。

ア　白居易　　イ　杜甫　　ウ　李白　　エ　王維

三　詩を読んで、次の**問**に答えよ。

我来（きた）リテ二揚子江頭（とう）ニ一望メバ
一片（いつぺん）ノ白雲数点ノ□
安ンゾ得ン丁置キ二身ヲ天柱ノ頂（いただき）ニ一
倒（さかしま）ニ看ルヲ丙日月（じつげつ）ノ走ルヲ乙人間ヲ甲

注　揚子江…長江の別名。「揚子江頭」は「長江のほとり」の意味。
　　天柱…神話の中に出てくる、天を支えているという柱。

問一　傍線部「一片白雲数点□」について、（a）空欄に入る語と、（b）この句全体の解釈との組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（a）淡――（b）白い雲の切れ間から数本の淡い光が差し込んでいる。
イ　（a）楼――（b）空の片隅に浮く白い雲と幾つかの建物が見えている。
ウ　（a）雨――（b）白い雲が空一面に広がり雨がぽつぽつと降り始める。
エ　（a）山――（b）ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。
オ　（a）鳥――（b）空には一つの白い雲が漂い数羽の鳥が飛んでいる。

四　詩を読んで、次の**問**に答えよ（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

江（注）楼夕望招ク（レ）客ヲ

第1句　海天東望夕茫（ぼう）（注）茫（ぼう）

第2句　山勢川形闊復長

第3句　灯火万家城ノ四畔

第4句　星河一道水ノ中央

第5句　風ハ吹ク（二）古木ヲ（一）晴天ノ雨

第6句　月ハ照ラス（二）平沙ヲ（一）夏夜ノ霜

第7句　能（注）ク（よ）就（注）キテ（つ）（二）江楼ニ（一）銷（け）スヤ（レ）暑ヲ否（いな）ヤ

第8句　比（注）スレバ（二）君ガ茅（ぼう）（注）舎（しや）ニ（一）校（やや）清涼ナラン

（白居易『白氏文集』）

注　江楼…江（かわ）のほとりのたかどの。
茫茫…ひろびろとしている。
能～否…～することができますか？
就…（場所）で。
比A校B…Aにくらべて少しはB。
茅舎…茅葺（かやぶ）きの家。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　韻字をすべて抜き出せ。

問三　第2句の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　山の勢い川の形の闊(ひろ)く長きを復(ふく)す。

イ　山勢川形、闊(ひろ)くして復(また)長し。

ウ　山は川の形の闊(ひろ)くして、復(また)長く勢いよし。

エ　山の勢いも川の形も、闊(ひろ)くして復(ふたたび)長し。

問四　この詩には二組の対句がある。その組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　第1句と第2句　　第3句と第4句

イ　第2句と第4句　　第5句と第6句

ウ　第3句と第4句　　第5句と第6句

エ　第4句と第5句　　第6句と第7句

五　文章を読んで、次の**問**に答えよ（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

孫子荊、年少時、欲隠、語王武子、当枕石漱流、誤曰、「漱石枕流。」王曰、「流可枕、石可漱乎。」孫曰、「所以枕流、欲洗其耳。所以漱石、欲礪其歯。」

（『世説新語』）

注　孫子荊…人名。
隠…隠遁する。
王武士…人名。

問一　傍線部a〜cの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

a＝

b＝

c＝

問二　二重傍線部の再読文字「当」と同じ読みである再読文字を、次の中から選べ。

ア　須　　イ　応　　ウ　将　　エ　宜　　オ　盍

★「漱石枕流（そうせきちんりゅう）」＝

第19講　確認問題

① 詩を読んで、次の問に答えよ（なお設問の都合で、返り点と送り仮名を省いたところがある）。

春江　（唐）白(はく)居(きよ)易(い)

第1句　炎[注](えん)涼(りやう)昏(こん)暁(げう)苦(はなはダ)推[注]遷シ

第2句　不㆑覚エ忠[注]州ニ已(すでニ)二年

第3句　閉[注](ザシテ)㆑閣ヲ只(ただ)聴ク朝[注]暮ノ鼓(つづみ)

第4句　上楼空望往来船

第5句　鶯(あう)声(せいニ)誘(いう)引(いんセラレテ)来タリ㆓花下ニ㆒

第6句　草色ニ勾(こう)留(りうセラレテ)坐ス㆓水辺ニ㆒

第7句　唯ダ有リ㆓春江ノ看レドモ未ダ(左ル)㆑厭カ

第8句　縈(めぐリ)㆑砂ヲ遶(めぐリテ)㆑石ヲ緑潺[注](せん)湲(ゑんタリ)

（『白氏文集』巻十八）

注　炎涼昏暁…暑さと寒さ、夜と朝。
推遷…移り変わる。
忠州…今の四川省忠県。作者はここに左遷され、二年間の役人生活を送った。
閉レ閣…建物にとじこもること。
朝暮鼓…朝夕の時刻を知らせる太鼓の音。
潺湲…水のさらさら流れるさま。

この詩は七言律詩である。押韻しているのはどの字か。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　遷年船湲
イ　年船辺湲
ウ　遷年船厭湲
エ　遷年船辺湲
オ　年船辺厭湲

② 「所㆓以(ノ)養レ母(フ)者(ヲ)㆒(ハ)」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いはゆる　　イ　ところをもつて

ウ　ゆゑん　　エ　ここをもつて

③ 「当極怒嘔血」は、「当に怒りを極めて血を嘔かしむべし」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　当㆓極　怒㆑嘔レ血

イ　当　極レ怒レ嘔　血

ウ　当㆓極レ怒　嘔　血㆒

エ　当レ極㆓怒　嘔㆒血

オ　当㆓極レ怒　嘔㆑血

〈Memo〉

第20講 「先従隗始」・「蘇武持節」

一 文章を読んで、次の**問**に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

昭王招賢者。隗曰、「古之君、①有以千金使涓人求千里馬者。買死馬骨五百金而返。君怒。涓人曰、『死馬且買之、[X]生者乎。馬今至矣。』不期年、千里馬至者三。今王必欲致士、先ａ従隗始。②況賢於隗者、豈遠千里哉。」

ｂ於是昭王為隗改築宮、師事之。於是士争趨燕。

（『十八史略』）

注　昭王…戦国時代の国、燕の君主。　隗…燕の賢者、郭隗。　涓人…君主の側で雑用をする人。
千里馬…一日に千里の距離を走ることができる名馬。　期年…まる一年。　致士…賢者を招く。
宮…邸宅。

問一 傍線部a・bの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

a＝

b＝

問二 空欄 X に入る漢字として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 而　イ 如　ウ 況　エ 惟

問三 傍線部①・②をそれぞれ現代語訳せよ。

①＝

②＝

★**「隗より始めよ」**＝

⬇

二　文章を読んで、次の**問**に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

武帝天漢元年、遣中郎将蘇武、使匈奴。単于欲降之。幽武置大窖中、絶不飲食。武齧雪a与旃毛、幷咽之。数日不死。①匈奴以為神、徙武北海上無人処、使牧羝曰、「羝乳乃得帰。」

昭帝始元六年、蘇武還b自匈奴。武初徙北海上、掘野鼠去草実而食之。臥起持漢節、節旄c尽落。李陵謂武曰、「人生d如朝露、②何自苦如此。」陵与衛律降匈奴、皆富貴。律亦屢勧武降。e終不肯。漢使者至匈奴。匈奴詭言、「武已死。」漢使知之言、「天子射上林中得雁。足有帛書云、武在大沢中。」匈奴f不能隠。乃③遣武還。武留匈奴十九年。始以強壮出、及還鬚髪尽白。拝為典属国。

（『十八史略』）

注　武帝…前漢第七代の天子。　天漢…年号。　中郎将…天子の護衛にあたる司令官。使者にもなる。
蘇武…前漢の人。　匈奴…中国北方の騎馬民族。秦・漢と争う。　単于…匈奴の王。
幽…閉じ込める。　大窖…大きな地中の穴。　旃毛…毛織物の毛。　神…不思議な力を持っている者。
北海…今のシベリアのバイカル湖。　羝…雄の羊。　乳…ここでは「子羊を産んで乳を出すようになったら」の意味。
昭帝…前漢第八代の天子。　始元…年号。　去…取り込む。　漢節…漢の天子より授けられた使者としての印。
節旄…漢節の旗印として付けていた旄牛（ぼうぎゅう）の尾の毛。　李陵…前漢の武将。匈奴と戦って降伏する。　衛律…前漢の武将。
上林…漢の都の長安にある天子の庭園。　帛書…絹に書いた手紙。　大沢…大きな湿地。ここでは「北海のほとり」のこと。
強壮…男盛り。　鬚髪…顎ひげと髪の毛。　拝…任命する。　典属国…少数民族対策にあたる官名。

問一　傍線部a～fの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

a＝　　b＝
c＝　　d＝
e＝　　f＝

問二　二重傍線部「使」は、動詞「使ひす」である。この一文での読み方を送り仮名に気をつけて、送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

問三　傍線部①・②をそれぞれ現代語訳せよ。

①＝

②＝

問四　傍線部③を書き下し文にせよ。

★「雁書（がんしょ）」「雁信（がんしん）」「雁帛（がんぱく）」＝

〈Memo〉

第20講　確認問題

① 「隋田・楊与二鄭法士一倶以レ能レ画名。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　田・楊・鄭法士…隋代の画家。

ア　あづかりて　イ　より　ウ　くみして
エ　と　オ　あたへて

② 「如此」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　もしこれだとしても　イ　このようだ
ウ　どうだろう　エ　どうすればよいか
オ　これには及ばない

③ 「雁書」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　手紙　イ　説明書　ウ　契約書
エ　達筆　オ　悪筆

〈Memo〉

第21講「鴻門之会」

一　文章を読んで、次の問に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

【「鴻門之会」ここまでのあらすじ】

秦の始皇帝が死ぬと、各地で反乱が起きる。秦軍を破り、函谷関に着いた項王（＝項羽。家は、代々楚の国の将軍を務める。秦軍と戦う反乱軍の最高司令官）が、沛公（＝劉邦。後に項羽を破り、漢の初代皇帝となる）に先を越されたことを知る。さらに、項王は、沛公の部下である曹無傷から「沛公は関中の王になろうとしている」と告げられ、激怒して、沛公の軍を攻撃しようとする。それを知った沛公が、数人の家来とともに項王のもとを訪れ、言い訳をしたところ、項王は怒りを鎮めた。

その日、項王は沛公を引き留め、酒宴を行う。范増（＝項王の部下）は、今、この機会に沛公を殺すように項王に目配せをするが、項王は応じなかった。そこで、范増は項荘（＝項王のいとこ）を呼び、剣の舞にかこつけて沛公を殺すように命じ、項荘は剣舞を実行する。しかし、項伯（＝項王の叔父。かつて、沛公の部下の張良に助けられたことがあり、恩がある）が、項荘が沛公の命を狙っていることを察し、項伯も剣を抜いて舞い、自分の体で沛公をかばって守ったので、項荘は沛公を攻撃する機会をみつけられない。そんな中、酒宴に同席している張良（＝沛公の部下）が酒宴を抜け出した。

a於レ是張良至リ（注）二軍門一ニ、見ル二樊噲一ヲ。樊噲曰ハク、「今日之事、①何如ト。」良曰ハク、「甚ダ（注）急ナリ。今者項荘抜キテレ剣ヲ舞フ。其ノ意常ニ在ル二沛公ニ一也ト。」噲曰ハク、「此レ（注）迫レリ矣。②臣請フ、入リテ与レ之同ジクセント命ヲ。」噲

即帯剣擁盾入軍門。交戟之衛士、欲止不内。樊噲側其盾以撞。衛士仆地。噲b遂入、披帷西嚮立、瞋目視項王。頭髪上指、目眥尽裂。項王按剣而跽曰、「客③何為者。」張良曰、「沛公之参乗樊噲者也。」項王曰、「壮士。④賜之〔A〕卮酒〔B〕。」則与斗卮酒。噲拝謝起、立而飲之。項王曰、「賜之彘肩。」則与一生彘肩。樊噲⑤覆其盾〔A〕於地、〔B〕加彘肩上、抜剣切而啗之。項王曰、「壮士。能復飲乎。」樊噲曰、「⑥臣死且不避。卮酒安足辞。⑦夫秦王有虎狼之心。殺人如不能挙、刑人如恐不勝。天下皆叛之。懐王与諸将約曰、『先破秦入咸陽者、王之。』今沛公、先破秦入咸陽、毫毛⑧不敢有所近。封閉宮室、還軍覇上、以待大王来。故遣将守X関者、備他盗出入c与非常也。労苦而功高如此、⑨未有封侯之賞。而聴細説、欲誅有功之人。此亡秦之続d耳。e窃為大王不取也。」項王

未レ有二以テ応一フル。曰ハク、「坐セヨト。」樊噲従レヒテ良ニ坐ス。坐スルコト⑩須臾ニシテ、沛公起チテ如レ厠ゆかはやニ。因リテ招二キテ樊噲ヲ一出ヅ。

沛公已ニ出ヅ。⑪項王使三都尉注陳平注（とゐちんぺい）召二沛公一。沛公曰ハク、「今者出ヅルニ、⑫未レ辞注也。為レスコト之ヲ奈何（いかん）ト。」樊噲曰ハク、「大行（たいかう）ハ不レ顧注二細謹注（さいきん）ヲ一、大礼（たいれい）ハ不レ辞二セ小譲注ヲ一。如今（いま）ハ人方（まさ）ニ為二リ刀俎注（たうそ）一、我ハ為二リ魚肉注一。⑬何ゾ辞スルヲ為サント。」於レ是遂去ル。

（『史記』）

注
軍門…陣営の門。　樊噲…人名。沛公の部下。　急…切迫している。　迫…危ない。　擁…だき抱える。
交戟之衛士…戟〔＝ほこの一種〕を交差して守る番兵。　側…傾ける。　仆…倒れる。　披…手でかき分ける。
帷…張り巡らした幕。　嚮…向く。　上指…逆立つ。　目眥…めじり。　按…手でおさえる。
跽…立膝をついて身構える。　客…ここでは「お前」の意味。　参乗…護衛のために同乗する者。　壮士…勇壮な男。
卮酒…大杯についだ酒。　斗卮酒…一斗（約二リットル）入りの大杯についだ酒。　彘肩…豚の肩の肉。
啗…むさぼり食う。　懐王…項王らによって仮に立てられた天子。　咸陽…秦の都。　毫毛…少しも。
近…自分のものにする。　覇上…地名。沛公が陣を敷いた場所。　故…わざわざ。　関…函谷関。
封侯之賞…諸侯に取り立てる恩賞。　細説…つまらない者の言うこと。　続…二の舞。　不取…賛成しない。
都尉…軍の部隊長。　陳平…人名。　辞…別れの挨拶をする。　顧…気にとめる。　細謹…小さな謹み。
小譲…小さな譲り合い。　刀俎…包丁とまな板。　魚肉…魚と肉。

問一　傍線部a～fの読みをそれぞれ送り仮名も含めてすべて平仮名で答えよ（現代仮名遣いでよい）。

a＝　　b＝

c＝　　d＝

e＝　　f＝

問二　傍線部①・③・⑦・⑩の読みを、それぞれ引用の「ト」以外の送り仮名も含めてすべて平仮名で答え、現代語訳もせよ。

①＝〈読み〉

〈訳〉

③＝〈読み〉

〈訳〉

⑦＝〈読み〉

〈訳〉

⑩＝〈読み〉

〈訳〉

問三　傍線部④・⑤中の〔A〕・〔B〕の箇所に最も適切な送り仮名をそれぞれ入れて、書き下し文にせよ。

④＝

⑤＝

問四　傍線部⑪・⑫を書き下し文にせよ。

⑪＝

⑫＝

問五　空欄［X］の部分に入る最も適切な送り仮名を片仮名で書け。なお、［X］の直後「シ」は、過去の助動詞「き」の連体形である。

問六　傍線部②・⑥・⑧・⑨・⑬をそれぞれ現代語訳せよ。

②＝

⑥＝

⑧＝

⑨＝

⑬＝

第21講　確認問題

① 「ここにおいて」と読むものを次の中から一つ選べ。

ア　是以　イ　以是　ウ　於是　エ　是於

② 副詞「窃」と同じ読みの漢字を、次の中から一つ選べ。

ア　盗　イ　私　ウ　遂　エ　已　オ　卒

③ 「幸無使王烈聞之」は、「幸（ねが）はくは王烈をして之を聞かしむること無かれ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　幸　無二使　王　烈　聞一レ之

イ　幸　無下使二王　烈一聞上之

ウ　幸　無レ使二王　烈　聞一之

エ　幸　無レ使二王　烈一聞レ之

オ　幸　無レ使二王　烈　聞一レ之

〈Memo〉

第22講 「四面楚歌」・漢文読解法・実践演習(1)

一 文章を読んで、次の問に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

> 第21講の『鴻門之会』から四年後、項王と沛公の立場は逆転しており、項王は沛公の軍に追い詰められていた。

項王軍壁（注）垓下（注）。兵少食尽。漢（注）軍及諸侯兵、囲之数重。夜聞漢軍四面皆楚（注）歌、項王乃大驚曰、「漢皆已得楚乎。①是何楚人之多也。」項王則夜起飲帳（注）中。有美（注）人、名虞。常幸（注）従。駿（注）馬、名騅。常騎之。於是項王乃悲歌忼（注）慨、自為詩曰、

力抜山兮気蓋世　時（注）不利兮騅不逝（注）

騅不逝兮可奈何　虞兮虞兮②奈若何

歌数（注）闋、美人和（注）之。項王泣数行下。a左右皆泣、莫能仰視。

（『史記』）

注　壁…砦を作って立てこもる。　垓下…地名。　漢軍…沛公の率いる軍。　楚…項王の出身地。
帳中…ここでは「本陣」の意味。　美人…女官の位の一つ。　幸…寵愛する。　駿馬…名馬。
忼慨…激しく心をたかぶらせる。　時…時勢。　逝…進む。　数闋…数回。　和…合わせて歌う。

問一　傍線部ａの意味を答えよ。

問二　傍線部①を現代語訳せよ。

問三　傍線部②をすべて歴史的仮名遣いで書き下し、現代語訳せよ。

★**「四面楚歌」**＝

★**「抜山蓋世（ばつざんがいせい）」**＝

二 漢文読解法

【手順】

① 設問チェック
　＊句法・語法で解けるもの＝即解答
　＊絞れる選択肢は絞っておく
　＊その他は何をきかれているかを確認
② 注マーク確認（センター試験は不要）
③ 前書きの有無確認→あれば必ずきちんと読むこと
④ 出典確認）

【設問別解法】

〈単語の意味〉
・仲間外れの選択肢が一つだけ＝それが解答

〈例題一〉 次の中から「過」の意味が異なるものを選べ。

ア　過度　　イ　過酷　　ウ　過失　　エ　過剰　　オ　超過

・二字熟語にして意味を類推する

〈例題二〉 次の傍線部のここでの意味と同様の意味を表す熟語として、最も適当なものを選べ。

好ミテ㆓行幸ヲ㆒不ルハ㆑息、人ノ所ナリ㆑不ル㆑堪（たへ）。

ア　棲息　　イ　利息　　ウ　嘆息　　エ　終息

〈書き下し文〉

・基本構造＝語順確認→送り仮名確認
・重要句法確認
・傍線部の前後に**対句・対文**がないか確認
・訳してみて意味不明な場合＝誤り
・選んだ訳を本文中にあてはめ、文脈確認

〈理由〉

・傍線部自体を正確に訳す

⬇傍線部を本文で確認＝設問箇所では白文でも、本文中には返り点や送り仮名がついていることもある（左記の**〈解釈・部分説明〉**も同様）。

・傍線部の前後に注目

〈解釈・部分説明〉

・傍線部を含む一文全体を読む

・指示語があれば指示内容を明確にする

・傍線部前後の文脈を確認

〈主張・主題〉

・**結末部**

三　詩は、宋代の詩人蘇軾（そしょく）が、ある年の忘年会で「別歳（べつさい）（年と別れる）」と題して作った五言古詩である。これを読んで、次の問い（**問一～六**）に答えよ。詩は十六句から成るが、最後の四句は口語訳してある。設問の都合で、⑪句は送り仮名を、⑫句は返り点と送り仮名を省いてある。

①　故（注1）人適（ゆ）ク二千里ニ一

②　臨（のぞ）ンデレ別レニ尚ホ遅（ち）（注2）遅（ち）タリ

③　人ノ行クハ猶ホ可シレ復（かへ）ル

④　歳ノ行クハ那（なん）ゾ可ケンレ追フ

⑤　問フレ歳ニ安（いづ）クニ所ゾトレ之（ゆ）ク

⑥　遠ク在リ二天（注3）ノ一涯ニ一

⑦　已（すで）ニ逐（お）ヒ二東流ノ水ヲ一

⑧　赴（おもむ）キテレ海ニ帰ルニ無シレ時

⑨　東隣ニ酒初メテ熟シ

⑩ 西 舎(注4)ニ 彘(ぶた)モ 亦タ 肥ユ

⑪ 且 為二 一 日 歓一

⑫ 慰 此 窮(注5) 年 悲

⑬ 旧(ふる)い年との別れなど、そう嘆くにはあたるまい、

⑭ やがては新しい年とも別れることになるのだから。

⑮ 旧い年よ、振り返らずにどんどんお行き、

⑯ 私の老いと衰えを、お前にお返ししよう。

（注）1 故人――古くからの友人、知人。
2 遅遅――ぐずぐずするさま。
3 天一涯――天の果て。
4 舎――小屋。
5 窮年――年末。

問一　この詩には、③句と④句のほか、⑫句までにもう一組の対句がある。それはどの句とどの句か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　①句と②句。　②　⑤句と⑥句。　③　⑥句と⑦句。
④　⑨句と⑩句。　⑤　⑦句と⑪句。

問二　④句「歳ノ行クハ那(なん)ゾ可ケンレ追フ」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　年が去ってゆくのを、誰(だれ)かに追いかけさせるべきだ。
②　年が去ってしまっても、なんとか追いかけるべきだ。
③　年が去ってしまうのを、どうして追いかけてよいものか。
④　年が去ってゆくのを、どうして追いかけることができよう。
⑤　年が去ってしまったら、なんとかして追いかけなければならない。

問三　⑤句「問フレ歳ニ安(いづ)クニ所ゾトレ之(ゆ)ク」は、作者が「歳」に対して「どこへ向かうのか」と問うている。その答えとなる内容が含まれているのはどの句までか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　⑥句。　②　⑥⑦句。　③　⑥⑦⑧句。
④　⑥⑦⑧⑨句。　⑤　⑥⑦⑧⑨⑩句。

問四　⑪句「且為二一日歓一」を、返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 且(しばら)く一日の歓を為(な)し、
② 一日の歓を且(しばら)く為し、
③ 且(まさ)に一日の歓を為すべく、
④ 且(か)つは為さん、一日の歓を、
⑤ 且(まさ)に一日の歓を為さんとし、

問五　⑫句「慰此窮年悲」は、「此の窮年の悲しみを慰めん（この暮れゆく年の悲しみをいやそう）。」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 慰レ此窮年レ悲
② 慰二此窮年一レ悲
③ 慰下此二窮年一悲上
④ 慰レ此二窮年悲一
⑤ 慰二此窮年悲一

問六　この詩の内容を述べた文として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 忘年会の席でつくられたこの詩には、出席している長寿者への祝福と来年の豊作への祈りが込められている。
② 作者は、人間の旅立ちと対比しつつ「歳」を擬人化して送り出し、新しい年をおおらかに迎えようとしている。
③ 作者は、大晦日（おおみそか）に集まった友人や親類としみじみこの一年を懐かしみ、擬人化した「歳」を引き留めようとしている。
④ 作者は、忘年会の席で酔いにまかせてこの詩を作り、擬人化した「歳」に感謝しつつも早目に追い出そうとしている。
⑤ 年末に長旅から帰った友人の無事を祝って作られたこの詩は、「歳」をも友人として扱い、明るい気分に満ちている。

第22講 確認問題

① 「自分の周りがすべて敵」という意味の故事成語を、次の中から一つ選べ。

ア　井の中の蛙大海を知らず
イ　疑心暗鬼
ウ　呉越同舟
エ　抜山蓋世
オ　四面楚歌

② 「可ケンレ謂いフレ仁ト乎や。」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　なんとかして仁と言うべきだ。
イ　なんとかして仁と言わなければいけない。
ウ　どうして仁と言うのがよいのか。
エ　どうして仁と言うことができようか。

〈Memo〉

一 文章を読んで、次の問（**問一**～**六**）に答えよ。（問題文は、前半が口語訳になっており、後半は設問の都合で返り点、送り仮名を省いたところがある。）

昔、周式という男が船で旅に出たが、途中、一人の吏（り）（役人、実は冥界（めいかい）の使者）に出会った。吏は一巻の書（実は死者の名を書き記してある帳簿）を持っており、一緒に乗せてほしいと請うた。十数里ほども進んだところ、吏は「ちょっと寄って行きたいところがある。帳簿を預けていくが、決して見てはいけない」と言い置いて出かけていった。式がこっそり開いてみると、そこには死者の名が書き連ねてあり、終わりの方には自分の名前も書いてあった。吏は帰ってきて、「『見るな』と言ったのに、どうして見たのか」と怒った。式は平謝りに謝った。

吏曰ハク、「^A^感ズルモ二卿（きみ）ノ遠ク相載スルニ一、此ノ書ヨリ不レ可レ除ク二卿ノ名ヲ一。今日已（すで）ニ去ツテ還レ家ニ。三年勿（な）クンバレ出（い）ヅル門ヲ、可キ(注1)レ得レ度（わた）ルヲ也。勿カレ道（い）フト見タルヲ二吾ガ書ヲ一。」式還リテ不ルコトレ出デ、已ニ二年余ナリ。家皆怪シム^B^レ之ヲ。

隣人卒亡(注2)ス。父怒リ、使ム二往（ゆ）キテ弔（とむら）ハレ之ヲ。式不レ得レ已（や）ムヲ、適（たまたま）出ヅルニレ門ヲ、便（すなは）チ見ル二此ノ吏ヲ一。吏曰ハク、「^C^吾令汝三年勿出。而（しか）ルニ今出ヅレバレ門ヲ、^D^知ランヤ二復（ま）タ奈何（いかん）ニスルヲ一。吾求(注3)メテ不レ見レバ、連累(注4)（れんるい）シテ為ラル二鞭杖（べんぢやう）セ一。今已ニ見レバ汝ヲ、無シレ可キ二奈何ントモス一。後三日、日中(注5)^E^当二相取一也。」式還リテ涕泣(注6)（ていきふ）シ、^F^具（つぶさ）ニ道（い）フコト如シレ此（かく）ノ。

父ハ故（もと）ヨリ不レ信ゼ。母ハ昼夜与（とも）ニ相守ル。至リ二三日日中ノ時一ニ、果見（はたシテまことニ）来タリ取リ、便チ死ス。

（干宝（かんぽう）『捜神記（そうじんき）』による）

（注）
1 可レ得レ度——生きつづけることができる。
2 卒亡——急死する。
3 求不レ見——探し出すことができなければ。
4 連累為二鞭杖一——まきぞえを食って（冥界の王に）鞭（むち）や棒で打たれる罰を受ける。
5 日中——正午。
6 涕泣——涙を流しさめざめと泣くこと。

問一　傍線部Ａ「感」の意味を二字の熟語で言い表すとすれば、どれが最も適当か。次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　感化　　②　実感　　③　感謝　　④　共感　　⑤　反感

問二　傍線部Ｂ「之」は何を指すか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　式が吏に平謝りに謝ったこと。
②　隣人が死亡した原因に不審な点があったこと。
③　吏が二年あまりも式の前に現れなかったこと。
④　式が二年あまりも家にこもりきりであること。
⑤　吏が「吾が書を見たことを口外するな」と言ったこと。

問三　傍線部Ｃ「吾 令 汝 三 年 勿 出。」は「吾（われ）汝をして三年出づること勿からしむ。」と読む。この場合、返り点はどのようにつけるのが正しいか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 吾 令㆔ 汝 三 年㆓ 勿 出㆒。
② 吾 令㆓ 汝 三 年㆒ 勿㆑ 出。
③ 吾 令㆑ 汝㆓ 三 年㆒ 勿㆑ 出。
④ 吾 令㆑ 汝㆓ 三 年 勿㆒㆑ 出。
⑤ 吾 令㆓ 汝 三 年 勿㆒㆑ 出。

問四　傍線部Ｄ「知㆓復 奈 何㆒。」はどういう意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① もうこれ以上守り通すことはできない。
② また何とか隠しだてしなければならないと思う。
③ ふたたび家に帰るべき事態になったのだと知れ。
④ これからどこに出かけていけばいいのか知っているのか。
⑤ どんなにしても父上の怒りをしずめることなどできないであろう。

問五　傍線部Ｅ「当二相取一也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

①　あひ取るにあたれるなり。
②　まさにあひ取るべきなり。
③　よろしくあひ取るべきなり。
④　まさにあひ取らんとするなり。
⑤　よろしくあひ取らんとするなり。

問六　傍線部Ｆ「具道如レ此。」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

①　三年前に帳簿を盗み見て以来の冥界の様子をことこまかに話した、ということ。
②　隣人が死亡して、その弔いに出かけて以来遭遇した不運を逐一訴えた、ということ。
③　二年あまり前の旅の途中、一人の吏に出会って以来の一部始終を打ち明けた、ということ。
④　魂を抜き取られて以来、地獄の責め苦にあっている状況を細部にわたって説明した、ということ。
⑤　旅から帰って以来、びくびくして過ごした日々を思うと自らがいたわしく、泣きながら救いを求めた、ということ。

二　文章を読んで、次の問い（**問一**～**六**）に答えよ。（問題文は、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。）

田叔（でんしゅく）は漢の景帝（けいてい）によって賢才と認められ、魯（ろ）（現在の山東省西南部に位置する、漢の王族の領地）の相（しょう）（領主である王を補佐して政務を執り行う大臣）に任命された。彼が任地に到着すると、魯王に財物を奪い取られたと田叔に訴え出た人々が百人余りいた。

田叔取（とらへ）〔二〕其ノ渠率（きよすゐ）（注1）二十人ヲ〔一〕、各（おのおの）笞（むちうツコト）（注2）五十、余ハ各搏（うツコト）（注3）二十、怒リテ之ヲ曰ハク、「^A^王ハ非ズ〔二〕若（なんぢ）ガ主ニ〔一〕邪（や）。何ニ自（よ）リテ（注4）敢ヘテ言フヤト〔二〕若ガ主ヲ〔一〕。」^B^魯王聞キテ〔レ〕之ヲ大イニ慙（は）ヂ、発シテ〔二〕中府（注5）ノ銭ヲ〔一〕、^C^使〔二〕相償〔レ〕之。相曰ハク、「王自ラ^(ア)^奪ヒ〔レ〕之ヲ、使〔二〕相償〔レ〕之、是レ王為シテ〔レ〕悪ヲ、而相為スヲ〔レ〕善也。^D^相毋（な）カラント^(イ)^与（あづ）カル〔レ〕償フニ〔レ〕之ヲ。」於イテ〔レ〕是ニ王乃チ尽（ことごと）ク償フ〔レ〕之ヲ。

（司馬遷『史記』による）

（注）
1　渠率――人々の指導者。
2　笞（むち）――笞で打つ。当時の刑罰の一つ。
3　搏――手で打つ。
4　何自――どうして。
5　中府――王の財物を保管する蔵。

問一　波線部(ア)「自」・(イ)「与」のそれぞれの本文中の意味を二字の熟語で言い表すとすれば、どれが最も適当か。次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)　自

①　自然　②　自由　③　自身
④　自在　⑤　自明

(イ)　与

①　贈与　②　関与　③　貸与
④　授与　⑤　給与

問二　傍線部A「王ハ非ズ㆓若なんぢガ主ニ㆒邪や」はどういう意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　王は君たちの主人ではないか。
②　王は君たちの主人とは限らない。
③　王は決して君たちの主人ではない。
④　王にとっては君たちが主人ではない。
⑤　王は君たちの主人であろうか。

問三　傍線部B「魯王聞キテレ之ヲ大イニ慙はヂ」とあるが、魯王はなぜ恥じたのか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 魯王は、人々からの予期しない訴えによって、着任したばかりの田叔に過ちを知られてしまったから。
② 魯王は、田叔が人々を罰したことによって、はじめて不心得な人民が多くいることに気づかされたから。
③ 魯王は、田叔が勇気ある人々の指導者たちを罰したのを、王として事前に止めることができなかったから。
④ 魯王は、田叔が人々をとがめた言葉によって、領主としての立場に対する自覚が足りなかったと悟ったから。
⑤ 魯王は、田叔が自分の過ちをあっさりと許してくれたことで、その度量の大きさにかなわないと思ったから。

問四　傍線部C「使二相償一レ之」は「相（田叔）の手で銭を弁償させようとした」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

① 相をしてこれを償ふ。
② 相をしてこれを償はしむ。
③ 相をしてこれを償ふべし。
④ 相をつかひてこれを償ふ。
⑤ 相をつかひてこれを償はしむ。
⑥ 相をつかひてこれを償ふべし。

問五　傍線部Ｄ「相毋（な）レカラント与（あづ）レカル償レフニ之ヲ」とあるが、田叔はなぜこのように述べたのか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 人々の訴えそのものが誤りであるのに自分が銭を返すことは、それを正当と認めることになると考えたから。
② 人々を罰したのは過ちだったと気づいたが、今になって自分が銭を返すのでは、行為に一貫性を欠くと考えたから。
③ 魯王の所有物である蔵の銭に、断りなく自分が手をつけると、人々によって厳しく非難されると考えたから。
④ 人々から収奪した財物であるとはいえ、魯王に返す意思がないのに勝手に賠償することはできないと考えたから。
⑤ 自分が銭を返すと人々に償おうとする魯王の意思が伝わらず、王に対する人々の信頼を回復できないと考えたから。

問六　本文において、田叔はどのような人物として描かれているか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 人々にも魯王にも厳しく対処し、常に世間から一定の距離を置く、孤高の人物。
② 人々の直訴を真摯（しんし）に受け止め、魯王に代わって銭を弁償する、慈悲深い人物。
③ 人々の怒りを内心では理解しつつ、魯王の立場にも気を配る、思慮深い人物。
④ 人々に対して弾圧の笞をふるい、身をなげうって魯王の財産を守る、忠義な人物。
⑤ 人々の訴えを巧妙に利用して、魯王から政治の実権を奪い取る、野心的な人物。

第23講　確認問題

① 「令二子犯レ罪、なほ妾に在り」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　子に罪を犯さしめる
イ　子に罪を犯さしめんとす
ウ　子をして罪を犯さしむる
エ　子に令して罪を犯さんとす

② 再読文字「当」と同じ読みをする再読文字を、次の中から選べ。

ア　将　　イ　応　　ウ　須　　エ　且　　オ　宜

③ 「豈ニ非ズレ天ニ哉や」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　決して天運ではない。
イ　なんと天運ではないか。
ウ　どうして天運なのか。
エ　天運とは限らない。

〈Memo〉

第24講 実践演習(3)

一 文章を読んで、次の問い（**問一**〜**六**）に答えよ。問題文の前半は口語訳になっている。設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

子張（春秋時代、魯（ろ）の国の賢人）が魯の哀公に会見を求めた。七日待ったが哀公は面会しようとしない。そこで子張は取り次ぎの者に、次のような伝言を託して立ち去った。

「私は殿様が賢士を好むと聞きましたので、千里の道を遠しとせず、霜露にもめげず、塵垢（じんこう）（つちぼこり）をものともせず、長い道のりのため足にまめを作っても休みもしないで、殿様に会見しようとやって参りました。ところが殿様は七日経（た）っても私を士としてもてなしてくださいません。殿様が賢士を好むという話は、どうやらあの葉公子高（しょうこうしこう）（楚（そ）の葉県の長官）が竜を好んだという話に似ております。

葉公子高好ミレ竜ヲ、鉤（おびどめ）ニハ以テ写シレ竜ヲ、鑿（ほりもの）ニハ以テ写シレ竜ヲ、屋室ノ雕文（かざりつけ）ニハ以テ写スレ竜ヲ。於イテレ是（ここ）ニ夫（か）ノ竜聞キテ而下リレ之ニ、窺頭於牖（まど）、施尾於堂。（A）葉公見ルレ之ヲ、棄（す）テテ而還走シ、（B）失ヒ二其ノ魂魄（こんぱく）ヲ一、五色無シレ主（注）。是レ葉公非（あら）ザルレ好ムニレ竜ヲ也、好二夫似レ竜而非レ竜者一也。（C）今、臣聞ク二君ノ好ムヲレ士ヲ。故ニ不レ遠シトセ二千里之外ヲ一、以テ見（まみ）エントスルモレ君ニ、七日不レ礼セ。（D）君ハ非ザルレ好ムニレ士ヲ也、好二夫似レ士而非レ士者一也。」

（劉向（りゅうきょう）『新序』による）

（注）五色無レ主——顔色を失うさま。

問一　傍線部Aは「頭を牖(まど)に窺(のぞ)かせ、尾を堂に施(ひ)く。」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 窺レ頭二於牖一、施レ尾二於堂一。
② 窺二頭於一牖、施二尾於一堂。
③ 窺レ頭レ於レ牖、施レ尾レ於レ堂。
④ 窺二頭於牖一、施二尾於堂一。
⑤ 窺二頭レ於牖一、施二尾レ於堂一。

問二　傍線部B「棄(すテテ)而還走(シ)」とはどういう様子を述べたものか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 席を立って、小走りに竜を出迎える様子。
② 竜に背を向け、慌てて堂から逃げ出す様子。
③ 手にしたものを投げ捨て、竜に走り寄る様子。
④ 武器を捨て、素手で竜を追いかけ回している様子。
⑤ 竜に対して腹を立て、足早に堂から退出する様子。

問三　傍線部C「好㆓夫似㆑竜而非㆑竜者㆒也。」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 夫(か)の竜に似て竜に非(あら)ざる者を好むなり。
② 夫の竜は竜に非ざる者を好むに似たり。
③ 夫の竜に似たる者を好むは竜に非ざるなり。
④ 夫の竜に非ざる者を好むは竜に似たればなり。
⑤ 夫の竜に似たるは而(なんぢ)の竜に非ざる者を好むなり。

問四　傍線部D「不㆑礼(セ)。」とは、どういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 哀公が竜を礼遇しないこと。
② 哀公が子張を礼遇しないこと。
③ 葉公子高が竜を礼遇しないこと。
④ 葉公子高が子張を礼遇しないこと。
⑤ 取り次ぎの者が子張を礼遇しないこと。

問五　本文の内容に合うものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 葉公子高が竜を扱う態度は、哀公が士を扱う態度を手本としたものである。
② 哀公は賢士を排斥したが、それは葉公子高が竜を撃退したのと同様である。
③ 子張は、哀公が口先だけで士を好むさまを、葉公子高が竜を好む話に喩（たと）えて非難した。
④ 取り次ぎの者は子張を歓待したが、それは葉公子高が竜を歓待したのとよく似ている。
⑤ 子張は、葉公子高をほめたたえることによって、哀公が自分を門前払いしたことを批判した。

問六　この葉公子高の話から「葉公好ㇾ竜（葉公竜を好む）」という成句ができたが、それはどういう意味を表すと考えられるか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 似た者同士は集まりやすいという意味。
② 実際は下手なのに、上手なふりをするという意味。
③ 立派な人物は危険なものに近寄らないという意味。
④ 良いことが続くと悪いことも起こりやすいという意味。
⑤ ただうわべを飾っているだけで、実質が伴わないという意味。

二　文章を読んで、次の問い（**問一**〜**六**）に答えよ。（設問の都合で返り点と送り仮名を省いたところがある。）

楊光遠（注1）之叛青州也、有孫中舎（注2）居囲城中。族人（注3）在州西別墅（注4）。城閉既久、内外隔絶、（ア）食且尽、ⓐ挙族愁嘆。有畜犬傍徨（注5）其側、若有憂思。A中舎因嘱曰、「爾能為我至荘（注6）取米邪。」犬揺尾応之。至夜、為置一布嚢（注7）、幷ⓑ簡繋犬背上。犬即（イ）由水竇出、至荘、鳴吠。居者開門、識其犬、取簡視之、B令負米還投暁入城。如此数月、比至城開、C孫氏闔門（注8）数十口独得不餒。

（王闢之『澠水燕談録』による）

（注）
1　楊光遠――人名。このとき、五代の後晋王朝にそむき、青州のまちを占拠していた。
2　孫中舎――人名。後晋王朝に仕える青州の役人。
3　族人――親戚。
4　別墅――別荘。荘園。
5　徬徨――歩き回る。
6　荘――別墅に同じ。
7　布嚢――布の袋。
8　闔門――一家全員。

問一　二重傍線部ⓐ「挙」・ⓑ「簡」と同じ意味の「挙」「簡」を含む熟語として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

ⓐ「挙」

① 挙動　② 挙国　③ 挙手
④ 選挙　⑤ 快挙

ⓑ「簡」

① 簡略　② 簡潔　③ 簡便
④ 繁簡　⑤ 書簡

問二　波線部(ア)「食且ニレ尽キント」・(イ)「即チ由(よ)リ二水(すい)竇(とう)一出デ」の解釈として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)「食且レ尽」

① 食糧の補給がしばらく途絶えたために
② 食糧はまだまだ十分あるはずだと思い
③ 食糧でさえ極めてとぼしい事態なので
④ 食糧がいよいよ無くなりそうになって
⑤ 食糧がもしも絶たれてしまったならば

(イ)「即由[二]水竇[一]出」

① ようやく水路をくぐり抜け
② 一目散に水路へと駆け出し
③ からくも水路にたどり着き
④ 何度も水路伝いに逃げ切り
⑤ すぐさま水路から抜け出し

問三　傍線部A「中舎因リテ嘱(たの)ミテ曰ハク」とあるが、孫中舎は飼い犬に何をさせようとしたのか。その内容として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 城外との連絡を絶たれた孫中舎たちを救うため、別荘から食糧を運んで来ること。
② 城外との連絡を絶たれた孫中舎たちを逃がすため、別荘から武器を盗み出すこと。
③ 青州のまちを占拠した楊光遠と和睦(わぼく)するため、別荘から金品を運び込ませること。
④ 青州のまちを占拠した楊光遠を苦しめるため、敵陣にある食糧を盗み出すこと。
⑤ 青州のまちを占拠した楊光遠に抵抗するため、敵陣から武器を盗んで来ること。

問四　傍線部Ｂ「令負米還投暁入城」は、「米を負ひて還(かへ)り暁に投(いた)りて城に入らしむ」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 令㆓負㆑米還投㆒㆑暁入㆑城
② 令㆓負㆑米還投㆑暁入㆒㆑城
③ 令㆔負㆑米還㆓投㆑暁入㆒㆑城
④ 令㆑負㆑米還㆑投㆑暁入㆑城
⑤ 令㆑負㆑米還投㆑暁入㆑城

問五　傍線部Ｃ「孫氏ノ闔(かふ)門(もん)数十口独リ得㆑不㆑餒(うゑ)ルヲ」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 孫中舎の一家数十人のうち、誰(だれ)ひとり最後まで生き残った者は無かった。
② 孫中舎の一家数十人のうち、結局ひとりだけが飢え死にせずに済んだ。
③ 孫中舎の一家数十人だけは、城内でかろうじて飢えに苦しまずに済んだ。
④ 孫中舎の一家のみならず、城内では誰ひとり飢えに苦しむ者は無かった。
⑤ 孫中舎の一家のほか、わずか数十家族だけが、飢え死にせずに済んだ。

問六　本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 州の西郊外の別荘に住み着いていた犬が、孫中舎一家を助けるため、何か月もかかって主人のもとに走った。
② 孫中舎の飼っていた犬は、主人を励まそうと、けなげに尾を振り、夜には忍び込んできた敵に吠えかかった。
③ 飼い犬を見知っていた者は、ただちに孫中舎の窮状を理解したが、結局は犬を敵陣へと追い返してしまった。
④ 反乱が終息して城門が開くまでの間、飼い犬は、青州のまちと州の西郊外の別荘との間を何度も行き来した。
⑤ 一晩中走り続けた飼い犬の美談は、孫中舎の親戚たちにもいち早く伝えられ、彼らをしみじみと感動させた。

〈Memo〉

第24講　確認問題

① 「好二夫似レ士而非レ士者一也。」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　夫(か)の士は士に非(あら)ざる者を好むに似たり。
イ　夫の士に似たる者を好むは士に非ざるなり。
ウ　夫の士に似て士に非ざる者を好むなり。
エ　夫の士に非ざる者を好むは士に似たればなり。

② 「吾将レ迎レ之」の書き下し文と解釈の組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　吾、之を将迎せんと
　　私が彼を送迎するつもりだ、と。
イ　吾、将(ひき)ゐて之を迎へんと
　　私が彼を連れて出迎えよう、と。
ウ　吾、将に之を迎へんとすと
　　私が彼を迎えるつもりだ、と。
エ　吾、之を迎へて将ゐると
　　私が彼を迎えて引き連れるつもりだ、と。

〈Memo〉

一 文章を読んで、次の問い（**問一**～**六**）に答えよ。設問の都合で返り点、送り仮名を省いたところがある。

新安(注1)ノ人閻居敬(えんきよけい)(注2)、A所レ居ル為ニ二山水ノ所一レ浸ス。恐レ二屋ノ壊レンコトヲ一、B移二榻(たふ)(注3)於戸外一而寝。夢ミル二一烏衣(うい)(注4)ノ人一ヲ。曰ハク、「君避ケテレ水ヲ在リ二此ニ一、我モ亦タ避ケテレ水ヲ至ル二此ニ一。於イテレ君ニ何ヲカ害(そこな)ヒテ而迫(せ)(注5)二迮(まる)コト我一ニ如クナルヤレ是クノ。C不ルレ快ナル甚ダシト矣。」居敬寤(さ)メ、不レ(ア)測ラ二其ノ故ヲ一。爾(この)夕(ゆふべ)三タビ夢ミル。居敬曰ハク、「D豈吾(われ)不当止此耶。」因リテ命ジテ移サシムルニ牀(しやう)(注6)ヲ、乃チ牀脚斜メニ圧ス二一亀ヲ於戸限(注7)ノ外ニ一。(イ)放テバレ之ヲ乃チ去ル。

（徐鉉(じよげん)『稽神録(けいしんろく)』による）

（注）
1 新安――地名。現在の河南省洛陽市の西。
2 閻居敬――人名。
3 榻――長いす兼用の細長い寝台。
4 一烏衣人――ひとりの黒い服を着た人。
5 迫迮――虐げる。おびやかす。
6 牀――ここでは「榻」と同じ。
7 戸限――敷居。

問一　傍線部(ア)「測」・(イ)「放」のそれぞれの本文中の意味を二字の熟語で言い表すとすれば、どれが最も適当か。次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)　測
① 実測　② 測定　③ 推測
④ 目測　⑤ 計測

(イ)　放
① 追放　② 解放　③ 放棄
④ 放置　⑤ 放任

問二　傍線部A「所レ居ル為二山水ノ所一レ浸ス」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 住んでいるところが山から湧（わ）き出てくる水の流れのほとりにあった。
② 住んでいるところが山から流れてきた水によって水浸しにされてしまった。
③ 住んでいるところが山から流れてきた大水で水没してしまった場所であった。
④ 住んでいるところは山の中で、湧き水のあふれ出てくる場所が近くにあった。
⑤ 住んでいるところは山の中で、湧き出した水によって水浸しになっていた。

問三　傍線部B「移㆓榻(たふ)於戸外㆒而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 榻を戸外より移して寝(い)ねたり。
② 戸外より榻を移して寝ねたり。
③ 榻を戸外に移して寝ねたり。
④ 戸外に寝ねて榻を移したり。
⑤ 榻を移して戸外に於いて寝ねたり。

問四　傍線部C「不快ナルコト甚シト矣」とあるが、その理由を具体的に述べたのは本文中のどの部分か。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 所㆑居ル為ル㆓山水ノ所ト㆑浸ス。
② 我モ亦タ避ケテ㆑水ヲ至ル㆑此ニ。
③ 居敬寤(さ)メ、不㆑測ラ㆓其ノ故ヲ㆒。
④ 爾(こ)ノ夕(ゆふべ)三タビ夢ミル。
⑤ 牀脚斜メニ圧ス㆓一亀ヲ於戸限ノ外㆒ニ。

問五　傍線部Ｄ「豈吾（われ）不当止此耶」は「豈に吾当に此に止（とど）まるべからざるか（私はここに止（とど）まっていてはいけないのではなかろうか）」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　豈 吾 不レ 当レ 止レ 此 耶

②　豈 吾 不レ 当二 止 此一 耶

③　豈三 吾 不二 当 止一レ 此 耶

④　豈 吾 不二 当レ 止 此一 耶

⑤　豈二 吾 不レ 当 止一レ 此 耶

問六　本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　閻居敬の家が水害で壊れて、飼っていた亀が家具と敷居の間に挟まれて身動きがとれなくなったため、神が亀を助けに現れた。

②　閻居敬の夢の中に黒い服を着た人が現れて、飼っていた大事な亀が閻居敬のもとに逃げて行ったので返してほしいと訴えた。

③　閻居敬が水害で寝台と敷居の間に挟まれて身動きがとれなくなったため、かつて閻居敬に恩を受けた亀が姿を変えて助けに現れた。

④　一匹の亀が閻居敬の寝台と敷居の間に挟まれて身動きがとれなくなったため、閻居敬の夢の中に姿を変えて現れ窮状を訴えた。

⑤　一匹の亀がかつて住処（すみか）が水浸しになって苦しんでいた時に閻居敬に助けられたため、その恩返しをしようと閻居敬の夢に現れた。

二 文章を読んで、次の問い（**問一**〜**六**）に答えよ。設問の都合で返り点と送り仮名を省いたところがある。

張鄧公(注1)(ちやうとう)嘗(かつ)テ謂(い)ヒテレ予(われ)ニ曰ハク、「某(注2)(それがし)挙(注3)ゲラレシ二進士一ニ時、寇萊公(注4)(こうらい)ト同(とも)ニ遊二ビ相国寺(注5)(しやうこくじ)一ニ、前(すす)ミテ詣(いた)ル二一卜肆(注6)(ぼくし)一ニ。

A 卜者曰ハク、『二人ハ皆宰相ト也。』 既ニ出デ、逢二ヒ張相斉賢(注7)(ちやうしやうせいけん)・王相随(わうしやうずい)一ニ、復(ま)タ往キテ詣レル之ニ。B 卜者大イニ

驚キテ曰ハク、『一日之内、而有リ二四人ノ宰相一ト。』C 相(あひ)顧ミテ大イニ笑ヒテ而退ク。因リテレ是ニ卜者ハ声望日ニ消エ、

D 亦不復有人問之、卒(つひ)ニ窮餓シテ以テ死スト。」四人ハ其ノ後皆為リ二宰相一ト、E 共欲二為レ之作(注8)一レ伝、未レ能也。

F 其ノ人亦可レキ哀レムかな哉。

（范鎮(はんちん)『東斎記事』による）

（注）
1 張鄧公――宋代の宰相、張士遜(しそん)のこと。
2 某――自分を指す言い方。
3 挙二進士一――官吏登用試験の受験資格者に選抜される。
4 寇萊公――宋代の宰相、寇準のこと。
5 相国寺――宋の都にあった寺。
6 卜肆――占いの店。
7 張相斉賢・王相随――それぞれ宋代の宰相、張斉賢・王随のこと。「相」は宰相の意味。
8 作レ伝――伝記を書く。

問一　傍線部Ａ「卜者曰、『二人皆宰相也。』」とあるが、「卜者（占い師）」はどのようなことを告げたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 張鄧公と寇萊公の二人は宰相の経験者であるということ。
② 張鄧公と寇萊公の二人は宰相の地位まで至るということ。
③ 張鄧公と寇萊公の二人は宰相の役職についているということ。
④ 張鄧公と寇萊公の二人は宰相に劣らない人望があるということ。
⑤ 張鄧公と寇萊公の二人は宰相としての見識を備えているということ。

問二　傍線部Ｂ「卜者大驚」とあるが、「卜者」はなぜ驚いたのか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① この一日で、思いがけなく四人の優れた才能の持ち主と知り合えたから。
② わずか一日のうちに、まれに見る運勢の人物ばかりを四人も占ったから。
③ 普段はあまり当たらない占いが、この日に限って、四人とも当たったから。
④ 帰ったはずの二人が、その日のうちに、別の二人を連れて戻って来たから。
⑤ たった一日で、大した評判もない店に四人の立派な客が次々に現れたから。

問三　傍線部C「相(あひ)顧ミテ大イニ笑ヒテ而退ク」は、「卜者」の占いに対する張鄧公たちのどのような反応を述べたものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 占いの内容があまりにもめでたいので、お世辞にしてもとても気が利いていると思い、幸先(さいさき)がよいと笑って大喜びした。

② 占いの内容があまりにも似通っているので、不思議なことだと思いながらも、とても縁起がよいとうれしそうに笑いあった。

③ 占いの内容があまりにも当たっているので、わざと身分を隠して占わせたことをきまり悪く思い、笑ってその場を取り繕った。

④ 占いの内容があまりにもよすぎるので、かえってあり得ないと思い、へつらいしか言わない占い師だと笑って取り合わなかった。

⑤ 占いの内容があまりにも期待はずれなので、受け入れる気持ちにはなれず、当てにならない占い師だとあざ笑って問題にしなかった。

問四　傍線部Ｄ「亦不復有人問之」は、「亦た復(ま)た人の之に問ふこと有らず」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 亦 不レ 復 有二 人 問一レ 之
② 亦 不二 復 有レ 人 問一レ 之
③ 亦 不二 復 有一レ 人レ 問レ 之
④ 亦 不二 復 有一レ 人 問レ 之
⑤ 亦 不三 復 有二 人 問一レ 之

問五　傍線部Ｅ「共 欲二為レ之 作一レ伝、未レ能 也」を、返り点に従って書き下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 共に之が為(ため)に伝を作らんと欲すれども、未だ能(あた)はざるなり。
② 共に之が為に伝を作らんと欲すれども、未だ能ふべけんや。
③ 共に之を為(な)して伝を作らんと欲するは、未だ能はざらんや。
④ 共に之を為して伝を作らんと欲するは、未だ能(よ)くするなり。
⑤ 共に之を為して伝を作らんと欲すれども、未だ能くせざるなり。

問六　傍線部Ｆ「其ノ人亦タ可レ キ哀レムかな哉」とあるが、筆者がそのように述べた理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 相国寺の占い師は予知能力があまり高くなかったために、時の宰相たちに笑われて世間からも認められず、ついには餓死して今ではすっかり忘れられているから。
② 相国寺の占い師はたまたま当たらなかった占いを張鄧公たちから批判され、世間にそのうわさが広まって評判を落とし、ついには餓死して伝記も書かれなかったから。
③ 相国寺の占い師は高い能力を持っていたが、張鄧公たちがその占いを信じなかったために世間の評判を落とし、ついには餓死して伝記も書かれていないから。
④ 相国寺の占い師は高い予知能力を持っていたために、時の宰相たちに危険人物と見なされて世間からも恐れられ、ついには餓死して名前も伝わらなかったから。
⑤ 相国寺の占い師は高い能力を持っていたが、張鄧公たち以外は誰(だれ)もそれを知らなかったために占いを頼む人がなく、ついには餓死して占い方も伝わっていないから。

〈Memo〉

第25講　確認問題

① 「為ル二官家ノ所トレ疾（にく）ム。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　官家…朝廷。

ア　朝廷に憎まれる。
イ　朝廷が憎い場所となる。
ウ　朝廷で憎む寸前だ。
エ　朝廷の憎みあいとなった。

② 「未レ能也」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未だ能（よ）くするなり。
イ　能に未だにや。
ウ　未だ能（あた）ふべけんや。
エ　未だ能はざるなり。
オ　能は未だなり。

〈Memo〉

一 文章を読んで、次の問い（**問一～六**）に答えよ。（設問の都合で送り仮名を省いたところがある。）

東坡(注1)先生初官鳳翔(注2)、日、遇一老僧。謂ⓐ之曰、「我有煅法(注3)、欲以相授。幸少憩我廬也。」坡語(注4)僧曰、「聞之、太守(注5)陳公(注6)嘗求而不与。A［我固無欲、乃以見授、何也。］」僧曰、「我自度老死無日。而（ア）［法当伝人］。然為之者、多因致禍。B［非公無可授者。］但勿妄伝貪人(注8)耳。」後陳公知坡得ⓑ之、懇求甚力、（イ）［度不可不与］。陳得而為之、不久C［果敗官而帰］。

（何遠『春渚紀聞』より）

（注）
1 東坡――人名。北宋の文人蘇軾のこと。
2 鳳翔――地名。
3 煅法――不老長寿の薬を作る方法。
4 坡――東坡を指す。
5 太守――郡の長官。

6　陳公――人名。
7　公――相手に対する敬称。
8　貪人――欲の深い人。

問一　傍線部ⓐ「之」・ⓑ「之」の指示内容の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

①　ⓐ…老僧　ⓑ…煆法
②　ⓐ…老僧　ⓑ…官
③　ⓐ…東坡　ⓑ…煆法
④　ⓐ…東坡　ⓑ…官
⑤　ⓐ…陳公　ⓑ…煆法
⑥　ⓐ…陳公　ⓑ…官

問二　波線部(ア)「当ニ㆑伝フ㆑人ニ（シ）」・(イ)「不㆑可ルヲ㆑不カラ㆑与ルヘ」の解釈として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)「当㆑伝㆑人」

① 誰（だれ）かに伝えておくこともできる
② 誰かに伝えてくれないだろうか
③ 誰かに伝えようとしたところだ
④ 誰かに伝えておかねばならない
⑤ 誰かに伝えておくかもしれない

(イ)「不㆑可㆑不㆑与」

① 与えないこともないというように
② 与えないわけにはいかないように
③ 決して与えてはならないように
④ 全く与えるつもりはないように
⑤ 与えたくてしかたがないように

問三　傍線部A「我固（もとヨリ）無（キニ）レ欲（スル）、乃（チ）以（テ）見（ラルルハ）レ授（ケ）、何（ゾ）也（ヤト）」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 私は煅法を伝えてほしいとはまったく思っていませんが、それなのにお教えいただけるのは、どうしてですか。
② 私の方は煅法を伝えようとはまったく思っていませんが、いまここで教えあおうというのは、どうしてですか。
③ 私はあなたに出会えるとも思っていませんでしたが、お住まいにまでお招きいただけるのは、どうしてですか。
④ 私はこれまで無欲を旨として暮らしてきましたが、それだけで煅法をお教えいただけるのは、どうしてですか。
⑤ 私は自分の煅法を伝えたいとは思ってもいませんが、あなたが教えてもらいたいと願うのは、どうしてですか。

問四　傍線部B「非レ公無二可レ授者一」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 公を非として授くを可とする者無し
② 公の非は授くべき者無からんや
③ 公を可とすること無ければ授者に非ず
④ 公に非ざれば授くべき者無し
⑤ 公に非ざれば授者を可とする無かれ

問五　傍線部C「果シテ敗レ官ヲ而帰ル」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 陳公が願ったとおり、陳公は官職から解放されて故郷に帰ることになった。
② 東坡が予言したとおり、陳公は官職から解放されて故郷に帰ることになった。
③ 東坡が心配したとおり、陳公は官職を失って故郷に帰ることになった。
④ 老僧が画策したとおり、陳公は官職を失って故郷に帰ることになった。
⑤ 老僧が語っていたとおり、陳公は官職を失って故郷に帰ることになった。

問六　本文の内容に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。

① 東坡は煅法を習得する目的で、はるばる鳳翔にまでやってきた。
② 老僧は陳公に煅法を伝えなかったことを、ずっと後悔していた。
③ 老僧は自分の死期が近づいたことを知り、東坡に煅法を伝えた。
④ 老僧は欲の深い人に煅法を伝えないよう、東坡に注意を与えた。
⑤ 陳公は様々な手段を用い、結局老僧から煅法を聞き出した。
⑥ 東坡は老僧との約束を固く守り、誰にも煅法を伝えなかった。

二 文章を読んで、次の問い（**問一**～**六**）に答えよ。（設問の都合で送り仮名を省いたところがある。）

哀王沖（注1）、字倉舒、少聡察岐嶷（注2）。時ⓐ軍国（注3）多事、用刑厳重。太祖（注4）馬鞍在庫、而為鼠所齧。庫吏懼必死、ⓑ議欲面縛（注5）首（ア）罪、猶懼不免。沖謂曰、「ⓒ待三日中、然後自帰。」沖於是ⓓ以刀穿単衣、如鼠齧者、ⓔ謬為失意、貌有愁色。太祖問之、沖対曰、「世俗以為ⓕ鼠齧衣者、其主不吉。今単衣見齧、是以憂戚（注6）。」太祖対曰、「A此妄言耳。無所苦也。」俄而庫吏以齧鞍聞（注7）。太祖笑曰、「B児衣在側、尚齧、況鞍懸柱乎。」C一無所問。D沖仁愛識達、皆此類也。

凡応罪戮、而為沖微所弁理（注8）、頼以済宥（注9）者、前後数十。太祖数対群臣称述（イ）、有欲伝後（注10）意。年十三疾病（注11）、太祖親為請命（注12）。及亡、哀甚。文帝（注13）寛喩（注14）太祖、太祖曰、「E此我之不幸、汝曹之幸也。」

（陳寿『三国志』による）

（注）

1　哀王沖――三国時代魏(ぎ)の曹操(そうそう)の子、曹沖(そうちゅう)。

2　岐嶷――才知に秀でていること。

3　軍国――軍事と国政。

4　太祖――魏の曹操。

5　面縛――自ら両手を後ろ手に縛ること。罪に服する気持ちをあらわす。

6　憂戚――恐れ心痛める。

7　聞――申し上げる。

8　弁理――処理する。

9　済宥――救済し、罪を赦(ゆる)すこと。

10　伝レ後――後継者にする。

11　疾病――病気が重く危篤におちいること。

12　請レ命――死なないように祈ること。

13　文帝――曹操には二十五人の息子がいたが、その嫡男、曹丕(そうひ)のこと。この時にはまだ帝位にはついていないが、後に即位したので、ここでは「文帝」と記されている。

14　寛喩――なだめる。

問一　傍線部(ア)「首」・(イ)「称」と同じ意味で用いられている語として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア)「首」

①　部首　②　首位　③　斬首
④　首肯　⑤　自首

(イ)「称」

①　敬称　②　称賛　③　対称
④　称号　⑤　呼称

問二　傍線部Ａ「此妄言耳。」とあるが、太祖はどのようなことを「妄言」とみなしているのか。文中の語句（波線部ⓐ〜ⓕ）で答えるとすればどれか。最も適当なものを、次の①〜⑥のうちから一つ選べ。

①　ⓐ　軍国多事、用レ刑厳重。
②　ⓑ　議欲二面縛首一レ罪、
③　ⓒ　待二三日中一、然後自帰。
④　ⓓ　以レ刀穿二単衣一、
⑤　ⓔ　謬為二失意一、貌有二愁色一。
⑥　ⓕ　鼠齧レ衣者、其主不吉。

問三　傍線部Ｂ「児衣在レ側、尚齧、況鞍懸レ柱乎。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
② 太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
③ 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、鞍を柱に懸けておくべきではなかった。
④ 太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。
⑤ 身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。

問四　傍線部Ｃ「一無レ所レ問。」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① いっさい責任を追及しなかった。
② すこしも疑いの余地がなかった。
③ すこしも聞きただすものがいなかった。
④ だれ一人として見舞うものがなかった。
⑤ だれ一人として怪しむものがなかった。

問五　傍線部Ｄ「沖 仁 愛 識 達、皆 此 類 也。」とあるが、「此」は哀王のどのような行動を指すのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

① 自分の衣に刀で鼠がかじったような穴をあけてしまったが、鞍を鼠にかじられた倉庫番とともに進んで自分たちの罪を認めることで、かえって太祖を感嘆させたこと。

② 太祖の鞍を鼠にかじられたのみならず、太祖の衣にまで穴をあけてしまったが、忠義の心に厚い倉庫番の忠告を素直に聞き入れて謝罪し、太祖の我が子に対する期待に十分こたえたこと。

③ 太祖の鞍を鼠にかじられた倉庫番の身を思いやり、わざと自分の衣に穴をあけ鼠にかかわる俗信に対する太祖の反応を利用することによって、太祖の倉庫番に対する怒りをそらせ命を救ったこと。

④ 鼠が鞍までもかじらざるをえないことから倉庫の中の穀物が横領されている事実に気づき、わざと太祖の衣に穴をあけて太祖の関心を巧みに倉庫番に向けさせることによって、強欲な倉庫番をこらしめたこと。

⑤ 倉庫番の不注意から大切な鞍を鼠にかじられ、それを不吉の予兆だとする俗信にとらわれて失意にあった太祖の気持ちを察し、自分の衣にも穴をあけるという子供らしい機知によって太祖の笑いを誘って慰めたこと。

問六　傍線部Ｅ「此 我 之 不 幸、汝 曹 之 幸 也。」とあるが、ここで太祖が「不幸」・「幸」といったのはなぜか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 哀王が死んだことは、太祖にとっては優れた後継者を失ったことを意味し、文帝らにとっては有力な競争相手がいなくなったことを意味しているから。

② 哀王が死んだことは、太祖にとっては賢明な臣下を失ったことを意味し、文帝らにとっては平素は近よりがたい父をこの機会を利用してなだめえたことを意味しているから。

③ 哀王が死んだことは、太祖にとっては的確な助言をしてくれる人物を失ったことを意味し、群臣にとっては後継者が嫡男である文帝に決着し、争いに巻き込まれなくてすむようになったことを意味しているから。

④ 哀王の死に対して太祖がひどく悲しんだことは、太祖にとっては愛情に溺(おぼ)れたさまを群臣の前にさらすことを意味し、文帝らにとってはふだんは冷徹な父のみせた情愛にふれることができたことを意味しているから。

⑤ 哀王の死に対して太祖がひどく悲しんだことは、太祖にとっては一時的に後継者問題を的確に処理する能力を失ったことを意味し、群臣らにとっては文帝を後継者に推す絶好の機会が到来したことを意味しているから。

〈Memo〉

第26講 確認問題

① 「不レ可レ不レ語（つゲ）。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　告げないわけにはいかない。
イ　告げたくてしかたがない。
ウ　決して告げてはいけない。
エ　告げないこともない。
オ　全く告げるつもりはない。

② 「夫レ以二無知之禽獣一、猶且変レ勇為レ怯、況人之霊」の趣旨として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　禽獣は無知なものだが、霊長類である人間ならば、なおさら勇敢さが変じて卑怯になるなどということはないと夫は言ったのである。
イ　そもそも、知恵のない禽獣でさえ、勇猛だったものが臆病になることがあるのだから、ましてや知恵をもつ人間ならなおさらである。
ウ　夫と知恵のない禽獣とを比べるということは、勇敢と卑怯とを比べるようなもので、霊妙な人間というものがわかっていないのである。
エ　あの無知の禽獣ですら、しばらくは臆病から勇猛へと性格が変わったのだから、人の霊魂も少しの間なら変化することができるのである。
オ　それゆえ、士人は無知の禽獣の性格が勇猛でなくなっても大切にしたのだから、優れた人間ならなおさら大切にするであろう。

〈Memo〉

解答

第14講　PART1　解答

二

① 〔亦楽しからずや。〕（なんと楽しいではないか。）

② ★「反語」（どうして～しないだろうか、いや、する）

〔豈に学ばざらんや。〕（どうして学ばないだろうか、いや、学ぶ。）

〔豈に遠からずや。〕（なんと遠いではないか。）

③ 〔何ぞ其れ浅きや。〕

〔何ぞ楚人の多きや。〕（なんと楚の人〔＝兵〕が多いことよ。）

④ 〔美しきかな、花や。〕（美しいなあ、花は。）

問五　イ

問六　**〈書き下し文〉**　何ぞ其れ壮なるや

〈口語訳〉　なんといさましく元気ではないか

第14講　PART2　解答

一

①〔**若し**然らば、…〕（もしそうならば、…）

〔水のごとし。〕（水のようだ。）

②〔**苟くも**其の時に遭はば、…〕（**かりにも**しかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③〔**仮令ひ**我寿を保つこと百年なり**とも**、…〕（**たとえ**私が寿命を百年保つことができた**としても**、…）

〔**縦ひ**江東の父兄憐れみて我を王とす**とも**、…〕（**たとえ**江東の父兄が同情して、私を王とした**としても**、…）

④〔其れ或いは周を継ぐ者、百世**と雖も**知るべきなり。〕（もし仮に周を継ぐ王朝があるとしたら、**たとえ現在より後の百の王朝のことだとしても**知ることができるのである。）

〔**苟くも**私意蔽固なれば、則ち過ち有りと**雖も**、而も之を知ること**能はず**。〕（**もし**自分勝手な心で道理に暗く頑固であるならば、過ちを犯した**としても**、これを知ることが**できない**。）

〔鶴の脛は**長しと雖も**、之を断たば則ち悲しまん。〕（鶴のすねは**長いけれども**、これを～）

⑤〔もし公が知ったならば、…〕

⑥〔斯の人**微かりせば**、…〕（この人がいなかったならば、…）

問一

a　もし

b　ぞうぶつといえどもあたわざるところあり。

第15講　PART1　解答

二

① 〔霜葉は二月の花**より**(**も**)紅なり。〕（霜にあたって紅葉した葉は二月の花**よりも赤い**。）

② 〔青は之を藍より取りて、**藍よりも青く**、…〕（青色は藍の草から取るが、**藍の草よりも青く**、…）

〔百聞は一見に如かず。〕（百回聞くより一回見たほうがよい。）

③ 〔臣を釈すに**如かず**。〕（私を許したほうがよい。）

④ 〔良医に如くは莫し。〕（良医が一番よい。）

〔人が身にもっているもので、**瞳より素直なものはない**。〕

⑤ 〔天下**焉より強きは莫し**。〕（天下で**これより強いものはない**。）

問二　寒より(も)甚だし

問三　ひんいにしかず。

問四　ア

第15講　PART2　解答

一

① 〔**惟だ士のみ**能くするを為す。〕（**ただ**学問を修め、道理を得た人**だけ**ができることである。）
〔**唯だ**人の唾を喜ばざるのみ。〕

② 〔今**独り臣のみ**船有り。〕（今ただ私だけが船を持っている。）
〔妾**独り**衛を以て蘧伯玉有りと為すのみ。〕（私は衛の賢明な人物は**ただ**蘧伯玉**だけだ**と思っていた。）

③ 〔若は忠信ならざる**のみ**。〕（お前が忠信でない**だけだ**。）

問一　ただ

問二　やすんずるあたはざらんのみ。

問三　ただハマグリとアサリが船一そう分あるだけだ。

第16講　PART1　解答

二 ①〔叔惟だに仲を薦むるのみならず、又～〕（鮑叔は管仲を**ただ**推薦した**だけでなく、また**～）

②〔**徒だに益無きのみに非ず、**而して又之を害す。〕（**ただ益がないだけでなく、**またかえって害がある。）

問四　ア

問五　豈に独り我が父のみならんや。

第16講　PART2　解答

三

①（どうかその説明を**聞かせてください。**）

（どうかこれを**察してください。**）

②（どうかこれを講義してください。）

③（どうかこれを改めてください。）

問六　どうか私に三言だけ言わせてください。

第16講　PART3　解答

四
①〔死馬すら且つ之を買ふ、況んや生ける者をや。〕
（死んだ馬でさえ買う（なら）、まして生きている馬（を買うの）はなおさらだ。）
（私は**死でさえ避けない**。）
②〔況んや衆人をや。〕（まして多くの人にあってはなおさらだ。）
③〔而るを況んや人に於いてをや。〕（まして人にあってはなおさらだ。）

問七　いわんやそれようにてきするものをや。
問八　イ

第17講　PART1　解答

一

①　【理由や手段を示す】

(2)〔時勢を見抜く**からである**。〕

②　(2)〔以て神と為す。〕（不思議な力を持っている者**だと思う**。）

(3)〔趙王藺相如**を以て上卿と為す**。〕（趙王**は**藺相如**を最高の家来だと考える**。）

③　(1)〔**もし**鋭い刃を踏み、〜〕

(2)〔木は**すぐに**声に反応して、…〕

(5)〔**人民**の租税に至っては、とかく**いつも**免除する。〕

④　(2)〔渡らんと欲す。〕

問一　すなわちひんいにしかず。

問二　(a) イ　(b) ア

第17講 PART2 解答

二

① (2)「受身」（NにVされる）

(3)「比較」（Nより（も）A）

② (2)（どうしてわざわざ～しようか、いや、決して～しない）

(3)〔敢へて～ず〕（決して～ない）

(4)〔敢へて～ざらんや〕（どうして～しないことがあろうか、いや、～する）

③ (1)「仮定」（もし～ならば）

(3)〔～に如〔若〕かず〕（～の方がよい・～に及ばない）

〔～に如〔若〕くは莫〔無〕し〕（～が一番よい・～にこしたことはない）

(4)〔如何（いかん）ぞ～〕（どうして～か）

〔如何（いかん）（せん）。〕（～は**どうするか。**）**【方法】**

〔何如（いかん）。〕（～は**どのようであるか。**）**【状態・結果】**

(5)〔如何（いかん）ぞ～ん〕（どうして～だろうか、いや、～ない）

〔～（は）如何（いかん）せん。〕（～はどうしようもない。）

④ (1)〔能（よ）く〕（～できる）

(2)〔能（あた）はず〕（～できない）

(3)（どうして～できるだろうか、いや、～できない）

第19講　解答

★【李白】…「**詩仙**」

【杜甫】…「**詩聖**」

一

問一　五言絶句

問二　新・人

問三　有り　／　第3句と第4句

二

問一　七言絶句

問二　間・還・山

問三　ウ

三

問一　エ

四

問一　七言律詩

問二　茫・長・央・霜・涼

問三　イ

問四　ウ

五

問一　a　わかき　b　べく　c　ゆえんは

問二　イ

★「漱石枕流」＝負け惜しみの強いこと。

〔現代語訳〕

一

『建徳江で舟に宿る』

舟を移動して、夕もやにつつまれた岸辺に泊まる。
日暮れに、旅の愁いが新たに湧いてくる。
野原は広々とし、天は木に垂れそうなほど低く、
川は澄んでいて、月は手に届きそうなほど近い。

二

『早朝に白帝城を出発する』

朝早く、白帝城に朝焼けの雲がたなびくころ、（白帝城に）別れを告げる。
千里も離れた江陵まで、一日で帰る。
両岸の猿の鳴き声が絶えることなく、
軽快な舟はすでに幾重にも重なっている山々を通り過ぎる。

三

私が揚子江のほとりに来て望見すれば、
ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。
我が身を天柱の先端に置いて、
太陽や月が人間界を巡っていくのを上から逆に眺めてみることができようか、いやできない〔が、眺めてみたい〕。

四

『河のほとりの高殿で夜の景色を望み、客を招く』
海の水平線のかなたを東に見ると、薄暗い夜の景色が広々と果てしなく広がっている。
山の姿も川の形も、広くかつ長くつながっている。
灯が多くの家々に灯り、街の四辺にまでも広がり、
天の川が一筋に、河の真ん中にかかっている。
颪は枯れ木に吹きかかり、晴れているのに降っている雨の音のようである。
月は砂を照らし出し、夏の夜の霜のように白く光っている。
水辺の高殿で、暑さを忘れてみないか。
君の茅葺きの家に比べて、少しは涼しいであろう。

五

孫子荊は、若い時、隠遁しようと思い、王武士に語るときに、石を枕にして川の流れで口をすすごうと言うべきなのに、間違って言うことには、「石で口をすすぎ川の流れを枕にする」と。王武士が言うには、「川の流れを枕にできたり、石で口をそそぐことができたりするのか」と。孫子荊が言うには、「川の流れを枕にする理由は、耳を洗いたいと思うからである。石で口をそそぐ理由は、歯を磨こうと思うからである」と。

第20講　解答

一

問一　a　より　　b　ここにおいて

問二　ウ

問三　①　千金で君主の側で雑用をする人に、一日に千里を走ることができる名馬を買いに行かせた者がいた。

②　まして隗よりすぐれた者が、どうして千里の道を遠いと思うだろうか、いや、思わない。

★「**隗より始めよ**」＝賢者を招くなら、身近な者から優遇せよ。⬇言い出した者から実行せよ。

二

問一　a　とを　　b　より　　c　ことごとく

d　ごとし　　e　ついに　　f　あたわず

問二　つかいせしむ

問三　①　匈奴は不思議な力を持っている者と思って

②　どうして自分からこのように苦しんでいるのか

問四　武をして還らしむ。

★「**雁書**」「**雁信**」「**雁帛**」＝手紙。

〈現代語訳〉

一

昭王がすぐれた人物を招こうとした。郭隗が言うには、「昔の君主に、千金で君主の側で雑用をする人に、一日に千里を走ることができる名馬を買いに行かせた者がいました。（その雑用係は）死んだ馬の骨を五百金で買って帰ってきました。君主は怒りました。雑用係が言うには、『死んだ馬（の骨で）さえ買うのです、まして生きている馬ならなおさら（高いお金で買うと思う）でしょう。名馬はまもなく来るでしょう』と。（そして）まる一年経たない間に、千里の名馬が三頭も来ました。今、王様が必ず賢者を招きたいと思うのならば、まず私から始めてください。まして隗（＝私）よりすぐれた者が、どうして千里の道を遠いと思うでしょうか、いや、思わないでしょう」と。

そこで昭王は隗のために新しく邸宅を築いて、隗を先生として隗に師事した。そこで賢者が（我先にと）争って燕の国にやって来た。

二

武帝の治世の天漢元年、護衛にあたる司令官である蘇武を、匈奴に使者として送った。匈奴の王が蘇武を降伏させようと思った。（蘇武は降伏しなかったので、匈奴の王は）蘇武を閉じ込めて大きな地中の穴ぐらの中に置いて、決して飲食をさせなかった。蘇武は雪と毛織物の毛とを噛んで、合わせてこれを飲んだ。数日経っても死ななかった。匈奴は不思議な力を持っている者と思って、蘇武を北海のほとりの人がいない所に移して、雄の羊を飼わせて言うには、「雄の羊が子羊を産んで乳を出すようになったら、そこで漢に帰ることができるだろう」と。

昭帝の治世の始元六年、蘇武は匈奴から帰還した。蘇武は初め北海のほとりに移されると、野鼠が取り込んだ草の実を掘って、これを食べた。寝るときも起きているときも、漢の天子から授けられた使者としての印を持っていたので、その旗印に付いていた旄牛の尾の毛がすべて抜け落ちた。（降伏した）李陵が蘇武に言うことには、「人生は朝露のようだ（＝はかない）。どうして自分からこのように苦しんでいるのか」と。李陵と衛律とは匈奴に降伏し、二人とも豊かで身分も高くなっていた。衛律もまた何度も蘇武に降伏することを勧めた。結局（蘇武は）承知しなかった。

（蘇武とは違うまた別の）漢の使者が匈奴に来た。匈奴が偽って言うには、「蘇武はすでに死んだ」と。漢の使者はこれが嘘だと知っていて言った、「天子が漢の長安にある庭園の中で狩りをして、雁を得た。足に絹に書いた手紙があり書いていた、蘇武は北海のほとりで生きている」と。匈奴は隠すことができなかった。そこで蘇武を帰らせた。
蘇武が匈奴に留まること十九年間。始めは男盛りのときに（漢を）出たが、帰還するときには顎ひげと髪の毛がすべて真っ白であった。（昭帝は、匈奴に長く捕らえられて事情に詳しい蘇武を）少数民族対策にあたる官に任命した。

第21講　解答

一

問一　a ここにおいて　b ついに　c とに　d のみ　e ひそかに　f すでに

問二　① 〈読み〉いかん　〈訳〉どうであるか（どんな様子か）
③ 〈読み〉なんするものぞ　〈訳〉何者だ
⑦ 〈読み〉それ　〈訳〉そもそも
⑩ 〈読み〉しゅゆにして　〈訳〉まもなく

問三　④ 之に卮酒を賜へ（と）。
⑤ 其の盾を地に覆せ、

問四　⑪ 項王都尉陳平をして沛公を召さしむ。
⑫ 未だ辞せざるなり。

問五　ラシメ

問六　② どうか私に、宴席に入り沛公と生死をともにさせてください。
⑥ 私は死でさえ避けない。まして、大杯についだ酒などどうして辞退しようか、いや、しない。
⑧ 決して自分のものにすることがなかった。
⑨ まだ諸侯に取り立てる恩賞もない。
⑬ どうして別れの挨拶をしようか、いや、しない。

〔現代語訳〕

一

そこで張良は陣営の門へ行き、樊噲を見た。樊噲が言うには、「今日の会見は、どのようだ」と。張良が言うには、「とても切迫している。今、項荘が剣を抜いて舞を舞っている。その狙いは常に沛公にあるのだ〔＝沛公を殺そうとしている〕」と。樊噲が言うには、「これは危ない。どうか私に、宴席に入り沛公と生死をともにさせてください」と。樊噲はすぐに剣を腰につけて盾をだき抱えて陣営の門から入ろうとした。戟を交差して守る番兵が、中に入れないように留めようとした。樊噲はその盾を傾けてそして（それで）突いた。番兵は地面に倒れた。樊噲はついに中に入り、張り巡らした幕を手でかき分けて西を向いて立ち、怒って目をむいて項王を見た。頭髪は逆立ち、めじりはすっかり裂けていた。項王は剣を手でおさえて立膝をついて身構えて言うには、「お前は何者だ」と。張良が言うには、「沛公の護衛のために同乗する者で樊噲という者です」と。項王が言うには、「勇壮な男である。このものに大杯についだ酒を差し上げよ」と。そこで一斗入りの大杯についだ酒を与えた。樊噲は拝礼して立ち、立ったままこれを飲んだ。項王が言うには、「このものに豚の肩の肉を差し上げよ」と。そこで一つの（塊の）生の豚の肩の肉を与えた。樊噲は持っていた盾を地面に伏せて、豚の肩の肉を上に載せて剣を抜いて切ってこれをむさぼり食べた。項王が言うには、「勇壮な男である。また飲むことができるか」と。樊噲が言うには、「私は死でさえ避けない。まして、大杯についだ酒などどうして辞退しようか、いや、しない。そもそも秦王には虎狼の心〔＝残忍な心〕がありました。人を殺すことが数えることができないほどで、人を罰することも数えられないほどで（処刑しきれないことを）恐れるほどでした。（だから）天下の人々はみんな秦王に背きました。懐王は諸将と約束をして言うには、『先に秦を破って咸陽に入った者は、その地の王としよう』と。今、沛公が、先に秦を破り咸陽に入りましたが、少しも決して自分のものにすることがなかった。宮室を閉鎖し、軍を陣を引いた場所の覇上に返して、大王様〔＝項王〕がいらっしゃるのを待っていました。わざわざ将兵を派遣して函谷関を守らせたのは、他の盗賊が出入りするのと非常事態とに備えたのです。苦労がとてもひどく功績が高いことはこのようですが、まだ諸侯に取り立てる恩賞もありません。しかし（項王は）つまらない者の言うことを聴いて、功績がある人を殺そうとお考えです。これは滅亡した秦の二の舞なだけです。個人的に大王様には賛成はしません」と。項王はまだ何も答えない。「座れ」と言った。樊噲は張良に従って座った。座ってまもなく、

沛公は立って厠に行った。ついでに樊噲を招いて出て行った。
　沛公はすでに（項王のもとを）出た。項王は軍の部隊長の陳平に沛公を呼ばせた。沛公が言うには、「今出てきたが、まだ別れの挨拶をしていない。（もう一度酒宴の席に戻って）これをするのは、どうだろうか」と。樊噲が言うには、「大きな行い（をするに）は小さな謹みなど気にとめず、大きな礼（を行うに）は小さな譲り合いなど問題にしない。今、人〔＝項王側〕は包丁とまな板で、私〔＝沛公側〕は魚と肉です。どうして別れの挨拶をしようか、いや、しない」と。そこで、そのまま立ち去った。

第22講　解答

一

問一　側近（近臣）

問二　これはなんと楚の国の人〔＝兵〕が多いことよ。

問三　**〈書き下し文〉**　なんぢをいかんせん（と）。

〈訳〉　お前をどうしようか、いや、どうにもできない。

★**「四面楚歌」**＝周りがすべて敵。孤立無援の状態であること。

★**「抜山蓋世」**＝気力が極めて充実していること。

二

〈例題一〉　ウ　　**〈例題二〉**　エ

三

問一　④　**問二**　④　**問三**　③

問四　①　**問五**　⑤　**問六**　②

〈現代語訳〉

一

項王の軍は垓下に砦を作って立てこもった。兵士も少なく食糧も尽きた。漢軍〔＝沛公の率いる軍〕及び諸侯の兵が、これを何重にも囲んだ。夜、漢軍が四方で皆、楚の歌を歌っているのを（項王が）聞き、項王はそこでとても驚いて言うには、「漢は皆すでに楚の地も取り込んだのか。これはなんと楚の国の兵が多いことよ」と。項王は夜起き出して本陣で飲んだ。女官がいて、名前は虞（といった）。いつも寵愛されて一緒にいた。名馬もいて、名前は騅（といった）。（項王は）常にこれに乗った。そこで項王は悲しく歌い激しく心をたかぶらせ、自分で詩を作って言うには、

力は山を引き抜き、気力は天下を覆いつくす。
時勢は有利ではなく、騅も進まない。
騅が進まないのをどのようにしようか、どうにもできない。
虞よ、虞よ、お前をどうしようか、いや、どうにもできない。
歌うこと数回、女官もこの歌に合わせて歌う。項王は涙を幾筋か流した。側近は皆泣いて、（項王を）仰ぎ見ることができる者はいなかった。

三

古くからの友人が千里の彼方に旅立つ。
別れに際して、やはりぐずぐずしてしまう。
人が去って行ってもまた帰ってくることができる。
年が去ってゆくのを、どうして追いかけることができよう（いや、できない）。
歳に問う、「どこへ向かうのか」。
「遠く天の果てです。
ひとたび東へと流れる水を追いかけ（ても）、
海に向かって流れたら最後、帰ってくる時はない。」
東側の隣でやっと酒を醸し出したばかりで、
西側の小屋では子豚もまた太っている。
ひとまず今日を楽しんで、
この暮れゆく年の悲しみをいやそう。

第23講　解答

一

問一　③　問二　④　問三　⑤
問四　①　問五　②　問六　③

二

問一　(ア)　③　(イ)　②　問二　①　問三　④
問四　②　問五　⑤　問六　③

〔現代語訳〕

一

役人〔＝冥界の使者〕が言うには、「あなたが遠くまで一緒に（船に）乗せてくれたので感謝はしているが、この書〔＝死者の名を記してある帳簿〕からあなたの名前を除くことはできない。今日はもう去って家に帰りなさい。（これから）三年間、門〔＝家〕から（外に）出ることがなければ、生きつづけることができるのだ。私の書を見たことを（他人に）言ってはいけない」と。周式は（家に）帰って（門から外に）出ないことが、もう二年あまりである。家族は皆、このこと〔＝周式が二年あまりも家にこもりきりであること〕を不思議がった。隣人が急死した。（周式の）父は怒って、（周式に）隣人の家に行かせて亡くなった隣人を弔わせた。周式はしかたなく、門を出たところ偶然に、すぐにこの役人に会った。役人が言うには、「私はあなたに三年間（家から）出ることがないようにさせた。しかし今、門から出たので、もうこれ以上守り通すことはできない。私は探し出すことができなければ、まきぞえを食って（冥界の王に）鞭や棒で打たれる罰を受ける。今もはやあなたを見つけたので、どうすることもできない。三日後、正午にどうしても（あなたを）つかまえなければならない」と。周式は（家に）帰って涙を流しさめざめと泣いて、このように〔＝二年前の旅の途中に、役人に出会って何があったのか〕詳細を話した。父はまったく信じない。母は昼も夜も一緒にいて（周式を）守った。三日後の正午になり、ついに

本当に（役人は）やって来て（周式を）つかまえ、あっけなく死んだ。

二

田叔はその人々の指導者二十人を捕らえ、それぞれを笞で打つこと五十回、他はそれぞれ手で打つこと二十回、（そして）この人々を怒って言うことには、「王は君たちの主人ではないか。どうしてすすんで君たちの主人を（悪く）言うのか」と。魯王はこれ〔＝田叔が人々をとがめた言葉〕を聞いて（領主としての立場に対する自覚が足りなかった自分を）非常に恥じて、王の財物を保管する蔵を開いて、相〔＝田叔〕の手で銭を弁償させようとした。相〔＝田叔〕が言うには、「王様はご自身でこれを奪い取り、相〔＝私〕にこれを弁償させようとしていますが、これは王様が（人民に対して）悪いことをして、相〔＝私〕が（人民に対して）良いことをすることになります。（私が）これを弁償する（ような、王様の意志が伝わらないばかりか、王様の立場がさらに悪くなるような）ことに関与することはないでしょう」と。そこで魯王はようやくすっかりこれを弁償した。

第24講　解答

一

問一 ④　問二 ②　問三 ①

問四 ②　問五 ③　問六 ⑤

二

問一 ⓐ ②　ⓑ ⑤　問二 (ア) ④　(イ) ⑤

問三 ①　問四 ②　問五 ③　問六 ④

〔現代語訳〕

一

葉公子高が竜を好んで、帯どめには竜（の絵）を写して、彫物にも竜（の絵）を写して、屋根や室内の装飾にも竜（の絵）を写した。そこでこの（本物の）竜が（このことを）聞いて、ここ〔＝葉公子高のところ〕に（天から）下りてきて、頭を窓に覗かせて、尾を堂に引きずった。葉公子高はこれを見ると、竜に背を向け、慌てて堂から逃げ出し、魂を失い〔＝気が動転し〕、顔色を失った。これは葉公子高は竜を好んでいるのではなく、竜に似ているが（本物の）竜ではないものを好んでいたのである。今、私は殿様〔＝哀公〕が賢士を好むと聞きました。だから千里の道を遠いとも思わず、殿様に拝謁しようとしましたが、七日間経っても（殿様は私を）礼遇してくれません。殿様は賢士を好むのではなく、賢士に似ていて賢士ではないものを好んでいるのであります。」

二

楊光遠が（反乱を起こし）青州の町を占拠したとき、孫中舎は包囲された青州の町の中にいた。（孫中舎の）親戚が青州の西（郊外）の別荘にいた。町は閉鎖してすでに長い時間が経ち、町の外との連絡を完全に絶たれ、食糧がいよいよ無くなりそうになって、孫中舎の家の者は皆、嘆き悲しんだ。（孫中舎には）飼い犬がいて孫中舎の周囲を歩き回り、心配しているように見えた。そこで孫中舎は（犬に）頼んで言うことには、「おまえは私のために（親戚の）別荘に行き米を取ってきてくれるか」と。犬はしっぽをふってこれに答えた。夜になると、一枚の布の袋を用意し、手紙とともに犬の背中にしばりつけた。犬はすぐさま水路から抜けだし、別荘に行き、鳴いて吠えた。別荘にいた（親戚の）者が門を開け、その犬が孫中舎の犬だと気づき、手紙をとってこれを読むと、（親戚の者は）米を（犬に）背負わせて帰らせ夜明け前の時間に町の中に入らせた。このように〔＝犬に青州の町と西郊外の別荘との間を何回も行き来させ食糧を運ばせたこと〕数ヶ月間、（反乱が終わり）町の門が開くまでの間、孫中舎の一家数十人だけは、飢えずにすんだのであった。

第25講　解答

一
問一　(ア) ③　(イ) ②
問二　②
問三　③
問四　⑤
問五　①
問六　④

二
問一　②
問二　②
問三　④
問四　⑤
問五　①
問六　③

〈現代語訳〉

一

新安の人、閻居敬の、住んでいるところが山から流れてきた水によって水浸しにされてしまった。部屋が壊れることを恐れて、長いす兼用の寝台を外に移して寝た。ひとりの黒い服を着た人を夢に見た。（その人が）言うには、「あなたは水を避けてここにいて、私もまた水を避けてここにいる。あなたに何をしたからといって、私を虐げることがこのようなのか。不快なことこの上ない」と。閻居敬は（夢から）覚めて、（こんな夢を見る）その理由が推測できない。この夜三回（同じ）夢を見た。閻居敬が言うには、「私はここに止（とど）まっていてはいけないのではなかろうか」と。そこで命じて寝台を移させたところ、寝台の脚が傾いて一匹の亀を（寝台と）敷居との間に圧迫していた。この亀を放してやればやっと（そこから亀は）去る。

二

張鄧公が以前私に言うことには、「私が官吏登用試験の受験資格者に選抜されたとき、寇萊公と一緒に相国寺に遊びに行き、導かれるようにある占いの店に行った。占い師が言うには、『(張鄧公と寇萊公の) 二人は宰相である〔＝二人とも宰相の地位まで至る〕』と。そのまま (店を) 出て、張相斉賢・王相随に会い、ふたたび占いの店に行った。占い師が非常に驚いて言うことには、『一日のうちに、四人の宰相がいる〔＝占った四人ともが宰相の地位になる〕』と。お互いに結果を振り返りおもいっきり笑って店から出た。こういうわけで占い師は評判が日に日に落ちていき、また他にこの占い師に占ってもらう人がいなくなり、ついに (占い師は) 困窮して飢えて死んでしまった」と。(その) 四人はその後、全員 (占い師の占った通りに) 宰相となり、一緒に占い師のために伝記を書こうとしたが、まだできていないのである。その人〔＝占い師〕のことはまた憐れむべきだなあ。

第26講　解答

一

問一　③　問二　(ア)④　(イ)②　問三　①

問四　④　問五　⑤　問六　③・④

二

問一　(ア)⑤　(イ)②　問二　⑥　問三　⑤

問四　①　問五　③　問六　①

〔現代語訳〕

一

東坡先生が初めて鳳翔の官吏になって赴任した日、一人の老僧に会った。（老僧が）東坡に言うことには「私は不老長寿の薬を作る方法を知っていて、（あなたに）授けようと思っている。どうかしばらく私の草庵に来て休憩してください」と。東坡が僧に話して言うことには、「これを聞いたことがあります、郡の長官の陳公様が以前（不老長寿の薬の作り方を教えてほしいと）求めたのに教えなかったと。私は（煅法〔＝不老長寿の薬を作る方法〕を）もともと伝えてほしいとは（まったく）思っていませんが、それなのにお教えいただけるのは、どうしてですか」と。老僧が言うには、「私は自分で年老いて死期が迫っていることをわかっている。しかし道理として誰かに伝えておかねばならない。しかし、これを教えられた者は、多くそれによって不幸になる。あなたでなければ教えることのできる者はいない。ただむやみに欲の深い人に教えることはしないでおくれ」と。後に陳公が、東坡が煅法を得た〔＝教えられた〕ことを知って、熱心に教えてほしいと懇願するので、与えないわけにはいかないようになってしまった。陳公は（その作り方を）手に入れ実行したが、まもなく（老僧が語っていたとおりに）官職を失って（故郷に）帰った。

二

哀王沖〔＝曹操の子である曹沖〕は、字は倉舒で、若くして才知に秀でていた。

時に、軍事と国政がいろいろ騒がしく、刑罰を行うことが厳重であった。太祖〔＝曹操。哀王沖の父〕の馬の鞍が倉庫にあって、鼠にかじられた。倉庫番が必ず死刑になることを恐れて、自ら両手を後ろ手に縛り（罪に服する気持ちを表して）罪を自首しようとしたが、やはり（それでも）死刑を免れないことを恐れた。哀王沖が言うことには、「三日間（どこかに行って）待って、その後で自分から帰ってきなさい」と。哀王沖はそこで刀で自分の衣に穴をあけ、鼠がかじったようにして、偽って落ち込んだふりをして、不安な表情でいた。太祖がこの理由を問うと、哀王沖が答えて言うには、「世間では鼠が衣をかじったら、その衣の主は不吉なことになると（言われているそうです）。今、衣が（鼠に）かじられました、そういうわけで恐れて心を痛めているのです」と。太祖が答えて言うには、「それはただの俗信である。苦しむことなどない」と。その後すぐに倉庫番が（太祖の馬の）鞍が（鼠に）かじられたことを申し上げた。太祖が笑って言うには、「身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ」と。（そうして太祖は）いっさい（倉庫番の）責任を追及しなかった。哀王沖が思いやりにあふれ才知に秀でているのは、すべてこのようであった。

そもそも刑罰で殺されるところを、哀王沖にこっそり処理されて、それに頼って救済され、罪を赦された者が、数十人前後いた。太祖はしばしば家来たちに対して、（哀王沖のことを）称賛して話していて、後継者にしようと考えていた。（哀王沖が）十三歳のときに病気が重く危篤におちいり、太祖は自分で哀王沖のために死なないように祈った。（祈りが届かず結局哀王沖は）亡くなり、（太祖が）悲しむことこの上ない。文帝〔＝太祖の長男の曹丕〕が太祖をなだめると、太祖が言うには、「これは私の不幸〔＝優れた後継者を失ったこと〕であるが、お前たちの幸い〔＝有力な競争相手がいなくなったこと〕である」と。

確認問題　解答

第14講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「不亦～乎。」は、詠嘆の意を表す形。選択肢の中では「～だったのだなあ」としているア、「～ではないか」としているエに絞れる。アは句形に含まれる「亦」を「再び」としているので不適。よって、エが正解。

② 「豈不～哉。」は、「あニ～ずや」と読むと詠嘆、「あニ～ざランや」と読むと反語の意味になる。

③ 詠嘆形「何其A也。」では、Aは連体形に活用する。

④ 書き下し文にすると「賢なるかな回や。」となる。「AかなNや」は詠嘆の句形で、「AだなあNは」という意味。詠嘆が含まれるのはアかイだが、イは「顔回のように」が不適。よって、アが正解。

⑤ オは「不亦～乎。」の形で、ここでの「乎」は「や」と読む。それ以外の「夫」「哉」「矣」はどれも「かな」と読む。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ウ　④ ア　⑤ オ

第14講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 「苟」は「いやしクモ」と読み、「もし～ならば」の意味。よって、イが正解。

② 「雖」は「いへどモ」と読み、逆接を表す。古文とは違い、仮定・確定のどちらの意味もあるので、文脈判断が必要であるが、この場合は逆接の選択肢がイのみ。よって、イが正解。

③ 「微～」は、「～がなかったならば」と訳す。よって、アが正解。

④ 「不」の送り仮名に「～トモ」とある点に着目。仮定を表す表現で、「～とも」につながるのは、「縦」。よって、エが正解。

⑤ アは「使（メバ）ニ N V（ヲシテ）一…（＝もしNにVさせるならば、…）」の形をとる仮定の用法。イとウの「若～」と「如～」については、下から返る場合「ごとシ」と読む。送り仮名も「もシ」と「ごとシ」では同じになるので注意する。ここでは、ウが下から返っている。エは「たとヒ～トモ」と読む仮定の用法。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② イ　③ ア　④ エ　⑤ ウ

第15講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「A二於・于・乎N一」の形で、「Nヨリ（モ）A」という比較形となる。「於」は置き字なので、書き下し文にする際には読まないように注意する。全文の書き下し文は「苛政は虎よりも猛なり。」となる。

② 「不レ如カ二～一」・「弗レ若カ二～一」で「～ニしカず」と読み、「～の方がよい・～に及ばない」という意味の比較形となる。「者」という体言につながるため、「不」は「ざる」と連体形にして書き下し文にする。

③ 書き下し文は「学ぶに如かざるなり。」となる。「不レ如カ二～一」で「～の方がよい」となるので、「学ぶ方がよい。」という意味となる。

④ 書き下し文は「六国従親（しょうしん）して以て秦を擯（しりぞ）くるに若くは莫し。」となる。「～ニしクハなシ」は、「～にこしたことはない・～が一番よい」と訳す。よって、エが正解。

⑤ 「莫レA二ハ於N一ヨリ（モ）」は「Nヨリ（モ）Aハなシ」と読み、「NよりもAなものはない」という意味の比較形となる。よって、書き下し文は「眸子（ぼうし）より良きは莫し。」となる。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ ア　④ エ　⑤ イ

第15講 PART2 確認問題 解答

〈解説〉

① 「唯・但・惟・徒」は「たダ〜ノミ」と読んで「ただ〜だけだ」という意味になる限定形で用いられる。

② 下の「海」に「ノミ」と送り仮名がついていることから、「直」は「たダ」と読む限定形の語であることが分かる。

③ 「独リ〜ノミ」で「ひとリ〜ノミ」と読み、「ただ〜だけだ」という限定形の意味となる。「独リ賢者ノミ」の部分に限定形が用いられており、「ただ賢者だけが〜」と他の部分につながっていく。

④ 「耳」は文末につくと「〜のみ」と読み、「〜だけだ」という限定形の意味となる。

⑤ 「而已矣」で「のみ」と読み、「〜だけだ」という意味となる。「平仮名で」という指示がなくても、書き下し文にする際には必ず平仮名で書く点に気をつけること。

〈解答〉

① イ　② ウ　③ エ　④ イ　⑤ エ

第16講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① 累加の句形の「唯ダニ」の部分は「独リ」が用いられることもある。よって、エが正解。

② 「唯ダニAノミナラず、B」は「ただ単にAだけでなく、B」と訳す。よって、イが正解。

③ 「非二唯A一、亦B」は「唯ダニAノミニ非ズ、亦B」と読む累加の句形。よって、イが正解。

④ 「どうして～だけであろうか、いや、～だけではない」という意味になるのは累加。「豈徒～」は累加形で「あニたダニ～ノミナランヤ」と読む。よって、ウが正解。

⑤ 累加の句形。直訳すると「どうして私たち臣下だけがそのおかげをこうむるでしょうか、いや、私たちだけではありません」となる。この訳に最も近いのはア。よって、アが正解。

〈解答〉

① エ　② イ　③ イ　④ ウ　⑤ ア

第16講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「願」「請」「庶」は、文末が「〜ン」となる場合は「どうか〜させてください」という意味の自分の願望を表し、命令の表現となる場合は「どうか〜してください」という意味の相手への願望を表す。よって、エが正解。

② 「願ハクハ〜命令」は相手への願望を表し、「どうか〜してください」と訳す。よって、イが正解。

③ 「願」は願望の句形で用いられるときは「ねがハクハ」と読み、相手への願望を表すときは、文末は命令の表現となる。よって、イが正解。

④ 「請フ〜ン」は自分の願望を表し、「どうか〜させてください」と訳す。よって、アが正解。

⑤ 「庶幾」は「庶」や「幾」と同じく、願望の句形で用いられるときは「こひねがハクハ」と読む。よって、エが正解。

〈解答〉

① エ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ エ

第16講 PART3 確認問題 解答

〔解説〕

① 「Aスラ尚ホB、況ンヤCヲや」は抑揚の句形。よって、エが正解。

② 抑揚の表現には、軽いものをあげて重いものを推測させ、そうなるのが当然だということを暗に示す意図がある。アかウに絞られるが、アは「困難な状況」だけに限定しているので不適。よって、ウが正解。

③ 「Aスラ猶ホB。況ンヤCヲや」と読む抑揚の句形。よって、アが正解。

④ 「Aスラ尚ホB、況ンヤCヲや」と読む抑揚の句形で、「AでさえB。ましてCはなおさらだ」と訳す。よって、イが正解。

⑤ 「而ルヲ況ンヤ～ニ於イテヲや」と読む抑揚の句形。よって、エが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ア　④ イ　⑤ エ

第17講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「以為〜」は「以為（おも）へらく〜と」と書き下し、「〜と思う」という意味になる。よって、エが正解。

② 「以A為B」は「Aを以（もっ）てBと為（な）す」の意味。よって、オが正解。

③ 「乃」は「乃（すなは）ち」と書き下す。よって、アが正解。

④ 「便＝すなはチ」の意味は、「すぐに・たやすく・簡単に」である。よって、ウが正解。ア「いつも」の「すなはチ」は「輒」（「すぐに」の意味もある）。イ「そこで」、エ「やっと」、オ「なんと」の「すなはチ」は「乃」である。

⑤ 「欲」の下が、使役の助動詞「使」（しム）なので、「Vんと欲す」という読み方になる。「ん」の上は未然形なので、「〜しめんと欲す」。「使」の下に動詞を探すと「在」がある。したがって、「使」と「在」の間の「之」は使役の対象となり、「をして」という送り仮名をおくる。よって、エが正解。

〔解答〕

① エ　② オ　③ ア　④ ウ　⑤ エ

第17講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「敢不レ〜乎。」は「どうして〜しないことがあろうか、いや、〜する。」という意味。よって、ウが正解。

② ア・イ・エの「而」は置き字なので読まない。ウの「而」は「而(しか)る」と読む。よって、ウが正解。

③ 「苛政猛二於虎一也。」は「A二於N一」の形で、「苛政(かせい)は虎よりも猛なり。」と読むので、比較。よって、ウが正解。

④ 「莫キ二能ク陥スモノ一也」は、「能(よ)く陥(とほ)すもの莫(な)きなり」と読み、「能」は「〜できる」の意味で、「莫」は「なにもない」という意味の否定を表す助字。「突き通すことができるものはない」という意味になる。よって、イが正解。

⑤ 「信如君不レ君、〜」は、「信(まこと)に如(も)し君君たらず〜ば」と読む。「如」は文頭（もしくは文中）にあって下から返らないときは仮定を表す。よって、アが正解。

〈解答〉

① ウ　② ウ　③ ウ　④ イ　⑤ ア

第18講 PART1 確認問題 解答

〈解説〉

① 「故人」は昔なじみの友人のこと。よって、エが正解。

② 「不肖」は「ふしょう」と読んで、「立派な親に似ず愚かな者」という意味。

③ 「左右」は「君主などのそばに仕える臣下・近臣」という意味。よって、アが正解。

④ 「寡人」は「かじん」と読んで、「諸侯や王の自称」という意味。ここでは「梁の恵王が言うには、『私は…』」となる。

⑤ 「臣」は「（君主に対して）私」のこと。よって、ウが正解。

⑥ 「未幾」は「いまダいくばくナラず」と読んで、「まもなく」の意味。よって、オが正解。

〈解答〉

① エ　② エ　③ ア　④ ア　⑤ ウ　⑥ オ

第18講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① a「対」は目上の人に答えるときに用い、「こたフ」と読む。b「諫」は目下から目上の人に注意するときに用い、「いさム」と読む。よって、イが正解。

② 「一夕」は「いっせき」と読み、「ある晩・ひと晩」という意味。よって、エが正解。

③ 「時間」の意味をもつものは「光陰」。よって、エが正解。「一寸の光陰軽（かろ）んずべからず。」と書き下す。

④ 「他日」は「たじつ」と読み、「以前のある日・将来のある日」という意味。よって、アが正解。

⑤ 「期年」は「きねん」と読み、「丸一年」という意味。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ エ　④ ア　⑤ ア

第18講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「一行七文字」＝「七言詩」。「八行」＝「律詩」。よって、エが正解。ちなみに、「絶句」は「四行」。

② 「一行五文字」＝「五言詩」、「四行」＝「絶句」なので「五言絶句」。「すべての山々に飛ぶ鳥は消え」「すべての道から人の足跡が消えた」と訳せる一句と二句が対句となる。よって、アが正解。

③ 押韻の問題。七言詩なので初句と偶数句の最後の文字に注目する。「歸（＝帰）」＝ki、「衣」＝iと共通する音の響きとなるものを選ぶ。アはsaku。イはryu。ウはhi。エはmei。よって、ウが正解。

④ 押韻の問題。五言詩は偶数句の最後の文字に注目する。「長」＝tyouと共通する音の響きとなるものを選ぶ。アはki。イはketsu。ウはsou。エはei。よって、ウが正解。

⑤ 奇数句・偶数句の順で返り点の打ち方が同じ場合はほぼ対句である。また、品詞・文の構造・意味内容ともに対照であることにも注目する。よって、オが正解。「律詩」は二句ごとに「首聯（しゅれん）・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯（びれん）」と段落分けができる。ちなみに「絶句」は一句ごとに「起・承・転・結」に分ける。

〔解答〕

① エ

② ア

③ ウ

④ ウ

⑤ オ

第19講　確認問題　解答

〔解説〕

① 七言詩なので、初句と偶数句の最後の文字が押韻する。よって、正解はエ。

② 「所以」は「ゆゑん」と読み、「原因・理由・手段・方法」の意味を表す。よって、正解はウ。

③ 「当に～べし」と読むことから、「当」は再読文字だとわかる。したがって、返り点のついていないイは不適。次に「怒りを極めて」と読むことから、「極怒」は下の一字から返って読んでいるので、「極」にはレ点をつける。したがって、アとエも不適。次に「血を嘔く」と読むことから、「嘔血」の「嘔」にもレ点がつくのでウも不適。よって、正解はオ。ちなみに、「嘔」から再読文字「～べし」に二字以上戻るため、「嘔」には一レ点、「当」には二点がつく。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ オ

第20講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「与」の読みの問題で返り点がついていれば、「と」の可能性が高い。文脈上も「と」で訳してみておかしくないのでエが正解。ちなみに、「与二～一倶ニ」は「～と倶（とも）に」と読む。

② 「如此」は「かクノごとシ」と読み、「このようだ」の意味。よって、正解はイ。

③ 「雁書」の意味は、「手紙・便り・書簡」。よって、正解はア。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ア

第21講　確認問題　解答

〔解説〕

① ア「是以」は「ここをもって」、イ「以是」は「これをもって」、ウ「於是」は「ここにおいて」と読む。よって、正解はウ。エはひっかけの選択肢。ちなみに意味は、ア「だから・こういうわけで」、イ「これで」、ウ「そこで」。

② 副詞「窃」は「ひそかに」と読む。他に「ひそかに」と読む漢字は、「私」と「陰」。よって、正解はイ。

③ 「聞かしむる」という読み方から、「使」は使役の助動詞「しむ」とわかる。「幸はくは王烈をして」と読むので、「幸」は返り点は不要。次に「王」を読むためには、「幸」の下の「無」と「使」には返り点が必要なので、アは不適。次に「王烈をして之を」と読むことから、「王」と「烈」には返り点が不要。したがって、イとエも不適。「之を聞かしむる」と読むので、「聞」は一字下の「之」から戻るため、「聞」にはレ点をつける。「聞」から「使」に二字以上戻るため、「聞」には㆑点、「使」には二点をつける。よって、正解はオ。意味は、「どうか王烈にこれを聞かせることはするな」。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ オ

第22講　確認問題　解答

〔解説〕

① ア「井の中の蛙大海を知らず」は、知識・見聞が狭いこと。イ「疑心暗鬼」は、疑いだすと、ありもしないことをあれこれ考えるようになり苦しむこと。ウ「呉越同舟」は、仲が悪いものが同じ場所にいること、または、仲の悪いものが助けあうこと。エ「抜山蓋世」は、気力が極めて充実していること。オ「四面楚歌」は、周りがすべて敵、孤立無援の状態であること。よって、正解はオ。

② 「可(べ)けんや」は反語の句法で、「〜できるか、いや、できない」（＝〜できようか）の意味。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　オ　　②　エ

第23講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「令」と「犯」には返り点がついているので、「子」を読んだ次には「罪」を読む。したがって、エは不適。残りの選択肢が、「犯さしめ」「犯さしむる」と読んでいることから、「令」は使役の助動詞「しム」。下を見て、「犯」が動詞。助動詞「令」と動詞「犯」の間にある名詞「子」が使役の対象で、「ヲシテ」の送り仮名をおくる。よって、正解はウ。

② 再読文字「当」は、「まさニ～べシ」と読む。ア「将」とエ「且」は「まさニ～ントす」、イ「応」は「まさニ～べシ」、ウ「須」は「すべかラク～べシ」、オ「宜」は「よろシク～べシ」。よって、正解はイ。

③ 「豈(あ)ニ～非(あら)ズや」は詠嘆の句法で、「なんと～ではないか」の意味。よって、正解はイ。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ イ

第24講　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点がついていない「夫」→「士」を読んだら、「士」の上の「似」にレ点がついているので、「士」から戻って「似」を読む。したがって、アとエは不適。次の「而」は置き字。その次に、返り点がついていない下の方の「士」を読み、「士」の上の「非」にレ点がついているので、「士」から返って「非」を読む。よって、正解はウ。

② 返り点通りに読めていないアとイは不適。「将」は再読文字で「まさニ〜ントす」と読み、「今にも〜しそう・だろう」（これから〜するつもりだ）の意味。ウもエも、どちらも「〜つもりだ」という訳であることから、「将」は再読文字だと判断する。よって、正解はウ。「将」には再読文字以外の読み「はタ」や「もつテ」もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えること。

〔解答〕

① ウ　② ウ

第25講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「為N所V」は「NのVする所と為る」と読み、「NにVされる」という受身の句法。よって、正解はア。

② 「未」は再読文字で「未だ～ず」と書き下す。「能」は否定のときは「能はず」と読む。最後の「也」は、上に疑問や反語がないので断定「なり」。「能はず」の「ず」を連体形にして、「能はざるなり」となる。よって、正解はエ。

〔解答〕

①　ア　　②　エ

第26講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「不可不～」は、「～しないわけにはいかない」という意味の二重否定。よって、正解はア。

② 「夫レ」は「そレ」と読み、「そもそも」の意味。「～猶且～、況～」から「抑揚」の句法だと判断できる。「A猶且B、況C（をや）」＝「AでさえB、ましてCはなおさらだ」なので、正解はイ。ちなみに「猶」までの部分が「無知の（＝知恵のない）禽獣」で、それさえも、ということ。次に「変レ勇為レ怯」の部分は、返り点に従って詠むと「勇→変→怯→為」の順番となる。選択肢も利用すると、「〔勇敢・勇猛〕が変わり、〔卑怯・臆病〕になる」という解釈になる。

〔解答〕

① ア　② イ

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。